

IBM DB2 Information Integrator



**インストール・ガイド
(Linux、UNIX、Windows 版)**

バージョン 8.2

IBM DB2 Information Integrator



**インストール・ガイド
(Linux、UNIX、Windows 版)**

バージョン 8.2

ご注意！

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、119ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： GC18-7036-01
IBM DB2 Information Integrator
Installation Guide for Linux, UNIX, and Windows
Version 8.2

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.8

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2003, 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

本書について	v	7	DB2 Information Integrator のソフトウェア要件	35
7 規則	v	7	DB2 Information Integrator でサポートされるオペレーティング・システム (32 ビット)	36
7 本書の対象読者	v	7	DB2 Information Integrator でサポートされるオペレーティング・システム (64 ビット)	41
7 オンライン情報	v	7	サポートされるデータ・ソース	43
第 1 章 DB2 Information Integrator - 概要	1	7	DB2 XML メタデータ・レジストリーでサポートされる Web ブラウザー	46
DB2 Information Integrator	1	7	DB2 Information Integrator インストール・ワークシート	47
フェデレーテッド・システム - 概要	1			
フェデレーテッド・システム	1			
フェデレーテッド・サーバー	2			
データ・ソースとは?	3			
フェデレーテッド・データベース	4			
7 DB2 Information Integrator でのメタデータの管理	5			
DB2 Information Integrator の製品とコンポーネント	6			
DB2 Universal Database	6			
DB2 Information Integrator の非リレーショナル・ラッパー	7			
7 DB2 Information Integrator のリレーショナル・ラッパー	8			
7 ライフ・サイエンス・ユーザー定義関数 - 概要	9			
7 KEGG ユーザー定義関数 - 概要	9			
7 Q レプリケーション	10			
DB2 Net Search Extender (DB2 Information Integrator)	12			
XML メタデータ・レジストリー	12			
7 DB2 Information Integrator のエディション	13			
7 DB2 Information Integrator の無償提供の同梱製品とコンポーネント	15			
第 2 章 DB2 Information Integrator のインストール計画	17			
7 DB2 Information Integrator のインストール - 概要	17			
DB2 Information Integrator のインストールに関する資料	19			
DB2 Information Integrator のインストール・シナリオ	20			
7 移行	20			
クリーン・インストール	22			
7 DB2 Universal Database バージョン 8.2 がインストール済みの場合	24			
7 DB2 Universal Database バージョン 8.2 フィックスパック 8 以上がインストール済みの場合	26			
7 DB2 Universal Database バージョン 8.1.2 以上がインストール済みの場合	28			
7 サポートされていない DB2 Universal Database のエディションまたはバージョンがインストールされている場合	30			
DB2 Information Integrator のインストール要件	31			
DB2 Information Integrator のハードウェア要件	31			
			第 3 章 DB2 Information Integrator のインストール	49
		7	DB2 Information Integrator のリレーショナル・ラッパーのインストールに関する前提条件	49
		7	DB2 Information Integrator の環境変数	53
		7	DB2 Information Integrator のインストール (Windows)	54
		7	DB2 Information Integrator のインストール (Windows)	54
		7	Microsoft SQL Server Client バージョン 2000 ドライバーの確認と登録 (Windows)	57
		7	DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (Windows)	58
		7	DB2 Information Integrator のインストール (UNIX)	61
		7	DB2 Information Integrator のインストール前の Oracle genclntsh スクリプトの編集および libclntsh ファイルの作成 (HP-UX、Linux、Solaris)	61
		7	DataDirect Technologies Connect ODBC ドライバーのインストール (UNIX)	62
		7	DB2 Information Integrator のインストール (UNIX)	63
		7	DB2 Information Integrator のインストール後の Oracle genclntsh スクリプトの編集および libclntsh ファイルの作成 (HP-UX、Linux、Solaris)	66
		7	DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (UNIX)	68
		7	DB2 Information Integrator システムへのリレーショナル・ラッパー、非リレーショナル・ラッパー、およびユーザー定義関数の追加	71
		7	DB2 Information Integrator の別のエディションへの変更	71
		7	DB2 Information Integrator のフィックスパックのインストール	73
		7	コンピューターまたはイントラネット・サーバーへの DB2 インフォメーション・センターの更新インストール	73

第 4 章 ラッパー開発キットのインストール	75
7 ラッパー開発キット	75
7 サンプル C++ ラッパー	75
7 サンプル Java ラッパー	75
7 DB2 コントロール・センターにラッパーを追加する ためのツールおよびサンプル	76
ラッパー開発キットのインストール	77
DB2 Universal Database のインストール先のシステム へのラッパー開発キットの追加 (Windows)	78
DB2 Universal Database のインストール先のシステム へのラッパー開発キットの追加 (UNIX)	79
第 5 章 XML メタデータ・レジストリー	81
7 のインストール	81
7 XML メタデータ・レジストリーのインストール - 概要	81
DB2 用のアプリケーション・サーバーのインストール	82
7 XML メタデータ・レジストリーのインストール	84
7 deployXMR コマンド構文	86
第 6 章 トラブルシューティング	89
DB2 Information Integrator 製品のライセンス・キー の登録	89
DB2 Information Integrator インストール・ウィザード のエラー・ロギングの使用可能化	90
XML メタデータ・レジストリー内のエラー・ロギング	90
第 7 章 DB2 Information Integrator の 製品とコンポーネントの除去	93
DB2 Information Integrator の除去	93
DB2 Information Integrator と DB2 製品ライセンス・ キーの除去	94
リレーショナル・ラッパー、非リレーショナル・ラ ッパー、およびライフ・サイエンス・ユーザー定義 関数の除去 (Windows)	95
ラッパー、ユーザー定義関数、およびラッパー開発 キットの除去 (UNIX)	96
ラッパー開発キットの除去 (Windows)	97
XML メタデータ・レジストリーの除去	98
undeployXMR コマンド構文	98
DB2 用のアプリケーション・サーバーのアンイン ストール	99

7 DB2 用のアプリケーション・サーバーからの	
7 DB2 Web サービス・アプリケーションのアン インストール	99

付録. 技術資料 101

DB2 Information Integrator の資料	101
DB2 Information Integrator 資料へのアクセス	101
z/OS でのレプリケーション機能の資料	103
z/OS での DB2 Universal Database のイベント・ パブリッシング機能の資料	104
z/OS での IMS および VSAM のイベント・パ ブリッシング機能の資料	105
Linux、UNIX、および Windows でのイベント・ パブリッシングおよびレプリケーション機能の資 料	106
z/OS でのフェデレーテッド機能の資料	107
Linux、UNIX、および Windows でのフェデー テッド機能の資料	108
Linux、UNIX、および Windows でのエンター プライズ検索機能の資料	109
リリース情報およびインストール要件	109
DB2 Information Integrator の無償提供の同梱製品の 資料	111
IBM WebSphere の資料	111
IBM Lotus Extended Search の資料	111

アクセス支援 113

キーボードによる入力およびナビゲーション	113
7 キーボード入力	113
キーボード・ナビゲーション	113
キーボード・フォーカス	113
アクセスしやすい表示	114
フォントの設定	114
色に依存しない	114
支援テクノロジーとの互換性	114
アクセスしやすい資料	114

索引 115

特記事項 119

商標	121
----	-----

IBM と連絡を取る 123

製品情報	123
資料についてのコメント	123

本書について

このマニュアルでは、DB2 Information Integrator のインストールに必要な情報を提供します。

DB2 Information Integrator のインストール・ウィザードを使用すると、以下のコンポーネントをインストールすることができます。

- 7 • DB2 Universal Database Enterprise Server Edition バージョン 8.2
- 7 • Q レプリケーション
- 1 • リレーショナル・ラッパー (旧 DB2 Relational Connect)。
- 7 • 非リレーショナル・ラッパー (旧 DB2 Life Sciences Data Connect)。ライフ・サイエンスのユーザー定義関数は、非リレーショナル・ラッパーのインストール可能コンポーネントです。KEGG ユーザー定義関数は、ライフ・サイエンス・ユーザー定義関数と一緒にインストールされます。

DB2 Information Integrator のインストール・ウィザードでは、DB2 License Manager を使って DB2 Information Integrator の製品ライセンスも登録され、Q レプリケーションが使用可能になります。

7 規則

本書では以下の規則が定められています。

- 7 • DB2 Information Integrator または DB2 Universal Database のリリース・レベルは、バージョン番号の最後の桁で示されています。たとえば、DB2 Universal Database Enterprise Server Edition バージョン 8.1.2 は、DB2 Universal Database Enterprise Server Edition バージョン 8.1 フィックスパック 2 という意味です。
- 7 • UNIX および Windows の両方に適用されるパスが示されている場合、片方の規則しか示されていません。

たとえば、UNIX および Windows 上の `¥sqllib¥bin` にファイルが置かれている場合、UNIX ではスラッシュ (/) が必要ですが、円記号 (¥) を使ってそのパスが示されています。

本書の対象読者

このマニュアルの対象読者は、DB2 Information Integrator のインストール担当者です。データベース、クライアントおよびサーバーのアーキテクチャー、コネクティビティ、およびネットワーキングに関する知識が必要です。

7 オンライン情報

IBM インフォメーション・インテグレーションの詳細は、以下の Web サイトにも記載されています。

DB2 インフォメーション・インテグレーション

www.ibm.com/software/data/integration

7	DB2 Information Integrator のサポートの Web サイト
7	www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/support.html
7	IBM Life Sciences の Web サイト
7	www.ibm.com/industries/lifesciences

第 1 章 DB2 Information Integrator - 概要

この章では、DB2 Information Integrator の概要を示します。

DB2 Information Integrator

DB2[®] Information Integrator は、種類の異なるさまざまなデータをマージして、全社的に管理されている情報に容易にアクセスできる形式にします。DB2 Information Integrator を使用すると、以下を実行することができます。

- 従来型のデータ・フォームおよび新しいデータ・ソースへのアクセス
- 構造化データ、準構造化データ、および非構造化データの使用
- さまざまな分散ソースにある情報の検索、更新、および複製

関連概念:

- 12 ページの『DB2 Net Search Extender (DB2 Information Integrator)』
- 7 ページの『DB2 Information Integrator の非リレーショナル・ラッパー』
- 13 ページの『DB2 Information Integrator のエディション』
- 6 ページの『DB2 Universal Database』
- 8 ページの『DB2 Information Integrator のリレーショナル・ラッパー』
- 9 ページの『KEGG ユーザー定義関数 - 概要』
- 9 ページの『ライフ・サイエンス・ユーザー定義関数 - 概要』

関連タスク:

- 98 ページの『XML メタデータ・レジストリーの除去』

フェデレーテッド・システム - 概要

リレーショナル・ラッパーまたは非リレーショナル・ラッパーをインストールするには、フェデレーテッド・システムをセットアップする必要があります。ここでは、フェデレーテッド・システムについて説明します。

フェデレーテッド・システム

DB2[®] フェデレーテッド・システム は、特殊なタイプの分散データベース管理システム (DBMS) です。1 つのフェデレーテッド・システムは、フェデレーテッド・サーバーとして働く DB2 インスタンス、フェデレーテッド・データベースとして働くデータベース、1 つまたは複数のデータ・ソース、およびデータベースとデータ・ソースにアクセスするクライアント (ユーザーおよびアプリケーション) からなっています。フェデレーテッド・システムを使用すると、1 つの SQL ステートメントで複数のデータ・ソースに分散要求を送信することができます。たとえば、DB2 Universal Database[™] 表、Oracle 表、および XML タグ付きファイルにあるデータを 1 つの SQL ステートメントで結合することができます。次の図は、フェデ

レーテッド・システムのコンポーネントおよびアクセス可能なデータ・ソースの例を示しています。

7

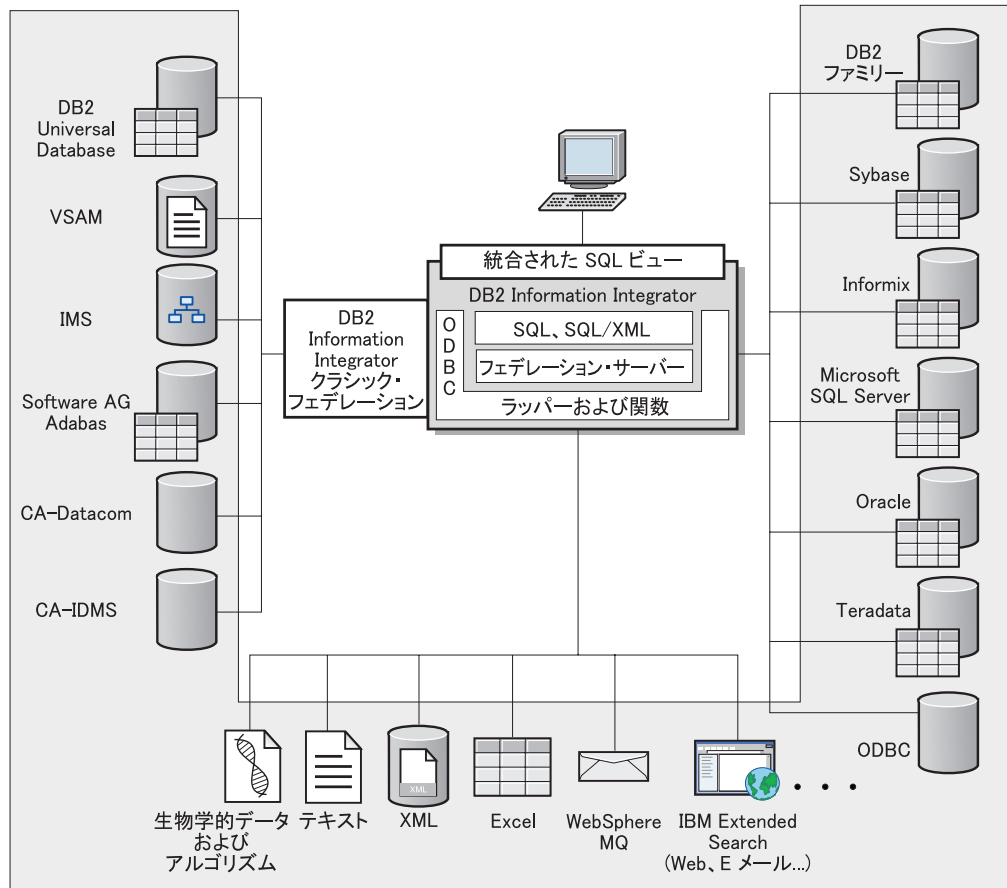


図1. フェデレーテッド・システムのコンポーネント

DB2 フェデレーテッド・システムの持つ強力な機能により、以下のことが可能になります。

- ローカル表とリモート・データ・ソースのデータを、それらすべてがフェデレーテッド・データベースにローカルに保管されているかのように結合する。
- リレーショナル・データ・ソースのデータを、それらがフェデレーテッド・データベースに保管されているかのように更新する。
- リレーショナル・データ・ソースとの間で双方向にデータを複製する。
- データ・ソースに要求を送信して処理させることにより、データ・ソース側で処理するという利点を生かす。
- データ・ソース側での SQL の制約を補うため、分散要求の一部をフェデレーテッド・サーバー側で処理する。

フェデレーテッド・サーバー

フェデレーテッド・システム内の DB2® サーバーのことを、フェデレーテッド・サーバー といいます。DB2 インスタンスであればいくつでも、フェデレーテッド・サーバーとして機能するように構成することができます。既存の DB2 インスタンス

スをフェデレーテッド・サーバーとして使用することも、フェデレーテッド・システム専用新しく作成することもできます。

フェデレーテッド・システムを管理する DB2 インスタンスのことをサーバーと呼びますが、それはこのインスタンスがエンド・ユーザーおよびクライアント・アプリケーションからの要求に回答するからです。フェデレーテッド・サーバーは受信した要求の各部を頻繁にデータ・ソースに送信して処理させます。プッシュダウン操作は、リモート側で処理される操作です。フェデレーテッド・システムを管理する DB2 インスタンスは、要求をデータ・ソースにプッシュダウンする場合はクライアントとして働きますが、フェデレーテッド・サーバーと呼ばれます。

その他のアプリケーション・サーバーと同様に、フェデレーテッド・サーバーはデータベース・マネージャー・インスタンスです。アプリケーション・プロセスはフェデレーテッド・サーバーに接続し、フェデレーテッド・サーバー内のデータベースに要求をサブミットします。ただし、次の 2 つの主要な機能により、その他のアプリケーション・サーバーとは区別されます。

- フェデレーテッド・サーバーは、部分的または全面的にデータ・ソース向けの要求を受信するように構成されています。フェデレーテッド・サーバーは、これらの要求をデータ・ソースに配布します。
- その他のアプリケーション・サーバーと同様に、フェデレーテッド・サーバーは DRDA[®] 通信プロトコル (TCP/IP を介する) を使用して、DB2 ファミリーのインスタンスと通信します。ただし、他のアプリケーション・サーバーと異なり、フェデレーテッド・サーバーはデータ・ソースのネイティブ・クライアントを使用して、データ・ソースにアクセスします。たとえば、フェデレーテッド・サーバーは Sybase Open Client を使用して Sybase データ・ソースにアクセスし、Microsoft SQL Server ODBC ドライバーを使用して Microsoft[®] SQL Server データ・ソースにアクセスします。

関連概念:

- 3 ページの『データ・ソースとは?』

データ・ソースとは?

フェデレーテッド・システムでは、リレーショナル DBMS インスタンス (Oracle または Sybase など) または非リレーショナル・データ・ソース (BLAST 検索アルゴリズムまたは XML タグ付きファイル) をデータ・ソースにすることができます。特定のデータ・ソースを介することで、他のデータ・ソースにアクセスすることも可能です。たとえば、Extended Search データ・ソースを介して、Lotus[®] Notes データベース、Microsoft[®] Access、Microsoft Index Server、Web 検索エンジン、および Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ディレクトリーなどのデータ・ソースにアクセスできます。

データ・ソースへのアクセスに使用される方式つまりプロトコルは、データ・ソースのタイプによって異なります。たとえば、DB2[®] for z/OS[™] and OS/390[®] データ・ソースにアクセスするには DRDA[®] が使用され、Documentum データ・ソースにアクセスするには Documentum Client API/Library が使用されます。

データ・ソースは準自立的です。たとえば、フェデレーテッド・サーバーが Oracle データ・ソースに照会を送信しているときに、その同じデータ・ソースに Oracle ア

アプリケーションがアクセスしてもかまいません。保全性およびロック制御が損なわれない限り、DB2 フェデレーテッド・システムが他のデータ・ソースへのアクセスを独占または制限することはありません。

関連概念:

- 4 ページの『フェデレーテッド・データベース』

関連資料:

- 43 ページの『サポートされるデータ・ソース』

フェデレーテッド・データベース

エンド・ユーザーとクライアント・アプリケーションにとっては、データ・ソースは DB2® 内の 1 まとまりのデータベースとして認識されます。ユーザーとアプリケーションは、フェデレーテッド・サーバーが管理するフェデレーテッド・データベースとやり取りを行います。フェデレーテッド・データベースにはシステム・カタログが入っています。このフェデレーテッド・データベースのシステム・カタログには、データ・ソースとその特性を示すカタログ項目が入っています。フェデレーテッド・サーバーは、フェデレーテッド・データベース・システム・カタログに保管された情報およびデータ・ソース・ラッパーを検討した上で、SQL ステートメントを処理する最善のプランを決めます。

フェデレーテッド・システムは、データ・ソースがフェデレーテッド・データベース内の通常のリレーショナルの表またはビューであるかのように、SQL ステートメントを処理します。その結果、次のようになります。

- フェデレーテッド・システムはリレーショナル・データを非リレーショナルのフォーマットのデータと結合することができます。データ・ソースが異なる SQL ダイアレクトを使用していたり、あるいは SQL をまったくサポートしていなくても、あてはまります。
- フェデレーテッド・データベースの特性とデータ・ソースの特性に相違がある場合、フェデレーテッド・データベースの特性が優先されます。
 - 一例として、フェデレーテッド・サーバーで使用されるコード・ページが、データ・ソースで使用されるコード・ページと異なっているとします。データ・ソースの文字データは、フェデレーテッド・ユーザーに戻される際、フェデレーテッド・データベースで使用されているコード・ページに基づいて変換されます。
 - 別の例として、フェデレーテッド・サーバーで使用される照合シーケンスが、データ・ソースで使用される照合シーケンスと異なっているとします。文字データに対するソート操作はすべて、データ・ソースではなくフェデレーテッド・サーバーで行われます。

関連概念:

- 「フェデレーテッド・システム・ガイド」の『SQL コンパイラー』
- 「フェデレーテッド・システム・ガイド」の『フェデレーテッド・データベース・システム・カタログ』

7 DB2 Information Integrator でのメタデータの管理

データの統合は、インフォメーション・インテグレーション・ソリューションの一部でしかありません。複数のソースからデータを統合するアプリケーションでは、どのデータが利用可能であるか、それがどのように関連しあっているかと、統合するための最善策を判別しなければなりません。統合対象のデータは、複数のソースのものであったり、別々のフォーマット (異種のリレーショナル、XML、半構造化、および非構造化など) および別々のランタイム・プロパティ (データ・サイズ、信頼性、パフォーマンス、およびトランザクション上の要件) を使って別々の自立走行式システムで管理されていたりすることがあります。

メタデータを使えば、「データのフェデレート、複製、またはキャッシュは必要か」、「統合ビューを実現するには複数ソースをどのようにトランスフォームすればよいか」、「誰がデータを使用するか」、「パフォーマンス上のボトルネックは何か」といった疑問に答えることができます。互いに異なった社内分散システムは動的です。スキーマの変更、システムのアフライン化、またはシステム負荷の突然の増大などが原因で、今日順調に作動していた戦略が明日は有効ではなくなることもあります。メタデータは、上記のような疑問に答えるのに必要な情報を提供するとともに、上記のような変更が行われたときには環境内のシステムを簡単にその変更に対応させます。

DB2[®] Information Integrator は、社内のインフォメーション・インテグレーション・プラットフォームを効率よく運用するための、メタデータ駆動のアーキテクチャーを備えています。操作可能メタデータには、表、列、データ型、索引、および社内データを記述するその他のメタデータなどの項目を記述するシステム・カタログなどがあります。

DB2 Information Integrator は、DB2 Universal Database を基盤として、統合情報に関するメタデータを使ってこれを拡張します。たとえば、DB2 Information Integrator は、DB2 カタログを使って以下のメタデータ保管します。

- DB2 Information Integrator インスタンスがフェデレートするデータ・ソース
- DB2 Information Integrator のユーザーがどのようにソース側のユーザーにマップされるか
- ソース・マップのデータがどのようにニックネームにマップされるか
- 物理構造がどのようにデータ型にマップされるか
- ソース・データの統計上の特性

それ以外に、DB2 Information Integrator は、レプリケーション・メタデータをカタログ表に保管します。この表は、社内の変更データ・キャプチャーとデータのトランスフォーメーションと移動を定義して駆動します。

DB2 Information Integrator は DB2 Universal Database フレームワークを基盤として作成されているので、DB2 Universal Database で管理されるリレーショナル・データ用のすべてのメタデータとツールを、統合情報に対しても活用することができます。たとえば、Query Patroller やヘルス・センターなどの DB2 Universal Database ツールを使って、フェデレーテッド・サーバーへのアクセスの規制や、その健全性のモニターを行うことができます。Visual Explain などの分析ツールを使って、複数のソースのデータを統合する照会用のアクセス・プランを視覚化して分かりやす

7 くしたり、DB2 デベロップメント・センターや Websphere Studio などのアプリケーション開発ツールを使って、統合データを処理したりすることができます。

7 DB2 Information Integrator には、XML メタデータ・レジストリーが組み込まれて
7 います。XML メタデータ・レジストリーを使って、スキーマ、文書タイプ定義
7 (DTD)、スタイル・シート、WSDL 文書などの XML メタデータ文書を登録する
7 ことができます。このような文書は、社内全体で共有することができます。このレジ
7 ストリーは、メタデータを検索するための共通の場所を提供し、文書へのアクセス
7 を管理し、バージョンを追跡し、他のユーザーと共同してメタデータ・オプション
7 を作成し、登録済み文書についてのメタデータを追跡します。

7 DB2 Information Integrator には、社内全体でメタデータを効率よく統合して管理す
7 るのに不可欠のツールが用意されています。有用なメタデータ管理インフラストラ
7 クチャーを使えば、別々のデータ・ソースにあるデータを効率よく検索、使用、お
7 よび共用することができます。

DB2 Information Integrator の製品とコンポーネント

DB2 Information Integrator には、以下の製品とコンポーネントが入っています。

DB2 Universal Database

DB2[®] Universal Database Enterprise Server Edition は、非パーティションまたはパー
ティション・データベース環境の作成や管理に使用できる DB2[™] のマルチユーザ
ー・バージョンです。パーティション・データベース・システムでは、大量のデー
タを管理することができ、パフォーマンスの向上、高可用性、およびフェイルオー
バー・サポートなどのメリットがあります。フェイルオーバーとは、データベース
に障害が起きた場合に別のデータベースが自動的に取って代わる機能です。

7 Windows[®] システムでは、DB2 Universal Database がインストールされていない
7 と、DB2 Information Integrator と一緒に DB2 Universal Database Enterprise Server
7 Edition がインストールされます。UNIX[®] システムでは、DB2 Universal Database
7 バージョン 7 以下がインストールされているか、または DB2 Universal Database
7 がインストールされていないと、DB2 Information Integrator と一緒に DB2
7 Universal Database Enterprise Server Edition がインストールされます。

7 DB2 Information Integrator では、DB2 Universal Database Enterprise Server Edition
7 以外に、以下のエディションの DB2 Universal Database の使用がサポートされま
7 す。

- 7 • DB2 Universal Database Connect Enterprise Edition
- 7 • DB2 Universal Database Personal Edition
- 7 • DB2 Universal Database Workgroup Server Edition
- 7 • DB2 Universal Database Express Edition

DB2 Information Integrator で使用するためにインストールする DB2 Universal
Database のエディションは、使用する予定の製品とコンポーネントによって異なり
ます。

関連概念:

- 12 ページの『DB2 Net Search Extender (DB2 Information Integrator)』
- 7 ページの『DB2 Information Integrator の非リレーショナル・ラッパー』
- 1 ページの『DB2 Information Integrator』
- 8 ページの『DB2 Information Integrator のリレーショナル・ラッパー』

関連資料:

- 31 ページの『DB2 Information Integrator のハードウェア要件』
- 36 ページの『DB2 Information Integrator でサポートされるオペレーティング・システム (32 ビット)』
- 35 ページの『DB2 Information Integrator のソフトウェア要件』
- 41 ページの『DB2 Information Integrator でサポートされるオペレーティング・システム (64 ビット)』

DB2 Information Integrator の非リレーショナル・ラッパー

DB2[®] Information Integrator には、非リレーショナル・ラッパー (旧 DB2 Life Sciences Data Connect) が入っています。非リレーショナル・ラッパーを使って DB2 フェデレーテッド・システムは、社内全体の非リレーショナル・データを統合することができます。

DB2 フェデレーテッド・システムは、非リレーショナル・ラッパーを使用して、分散したデータ・ソースに存在する表構造ファイルや XML ファイル、および遺伝子工学、化学、生物学などの研究データの非リレーショナル・データ・ソースを統合します。

以下の表は、DB2 Information Integrator の非リレーショナル・ラッパーを使ってインストールできるラッパーとユーザー定義関数コンポーネントを示しています。

表 1. ラッパーとユーザー定義関数コンポーネント

インストール可能 コンポーネント名	説明	組み込まれているラッパー
Scientific	ジェノミックス、プロテオミックス、バイオインフォーマティックス、および化学情報などを収めた Scientific データ・ソースは、ライフ・サイエンス産業のみを対象に開発されています。	BLAST、HMMER BLAST ラッパーと HMMER ラッパー用のデーモンがラッパーと一緒に組み込まれます。
Structured files	Structured file データ・ソースには、定義済みの反復可能な構造を持つファイルに保管されている非リレーショナル・データが入っています。	表構造ファイル、Excel、XML
Applications	Application データ・ソースは、アプリケーションを使用して、基礎の非リレーショナル・データにアクセスします。ロー・データには、標準および非標準の多様なフォーマットを使用することができます。	BioRS、 Documentum、 Entrez、 Extended Search、 WebSphere [®] Business Integration、 Web サービス

表 1. ラッパーとユーザー定義関数コンポーネント (続き)

インストール可能 コンポーネント名	説明	組み込まれているラッパー
ライフ・サイエンス・ユーザー定義関数	ライフ・サイエンス・ユーザー定義関数は、1 つのデータ・ソースの単純な操作を迅速かつ簡単に実行するための、頻繁に使用される基本のライフ・サイエンス関数です。	ライフ・サイエンス・ユーザー定義関数と KEGG ユーザー定義関数
	ゲノムネット (KEGG) とは、ジェノミックス情報を収めた一連のデータベースのことです。KEGG ユーザー定義関数は、KEGG データベース内のジェノミックス情報にアクセスするために DB2 Information Integrator に装備された一連の関数です。	

関連概念:

- 8 ページの『DB2 Information Integrator のリレーショナル・ラッパー』

関連タスク:

- 54 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (Windows)』
- 63 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (UNIX)』

DB2 Information Integrator のリレーショナル・ラッパー

DB2[®] Information Integrator には、リレーショナル・ラッパー (旧 DB2 Relational Connect) が入っています。リレーショナル・ラッパーを使ってフェデレーテッド・システムで、社内全体のリレーショナル・データを統合することができます。

リレーショナル・ラッパーは、DB2 Information Integrator の一部を成し、DB2 Universal Database[™] for Linux、UNIX[®]、Windows[®]、および DB2 Universal Database Enterprise Server Edition と一緒に使用します。リレーショナル・ラッパーは、非 IBM リレーショナル・データベースのためのラッパーです。DB2 Universal Database バージョン 8 では、Microsoft[®] SQL Server、ODBC、Oracle、Sybase、および Teradata データ・ソースに保管されているデータにアクセスしたい場合に、リレーショナル・ラッパーが必要になります。

IBM[®] データベース (DB2 Universal Database および Informix[®]) に保管されているデータへのアクセスは、DB2 Universal Database for Linux、UNIX、Windows に組み入れられています。

関連概念:

- 7 ページの『DB2 Information Integrator の非リレーショナル・ラッパー』

関連タスク:

- 54 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (Windows)』
- 63 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (UNIX)』

ライフ・サイエンス・ユーザー定義関数 - 概要

ライフ・サイエンス・ユーザー定義関数は、データの分析によく使われるアルゴリズムを提供します。

ライフ・サイエンス・ユーザー定義関数は、標準の単一文字コードと IUPAC-IUB アンビギュイティー・コードを使って、アミノ酸と塩基を表します。

ライフ・サイエンスのユーザー定義関数は、非リレーショナル・ラッパーのライフ・サイエンス・ユーザー定義関数コンポーネントと一緒にインストールされます。ライフ・サイエンス・ユーザー定義関数をインストールし終わったら、その関数を登録しなければなりません。

ネーム・スペースとの競合が起きないようにするために、すべてのライフ・サイエンス・ユーザー定義関数は DB2LS スキーマ内に登録されます。

関連概念:

- 7 ページの『DB2 Information Integrator の非リレーショナル・ラッパー』
- 8 ページの『DB2 Information Integrator のリレーショナル・ラッパー』

関連タスク:

- 「IBM DB2 Information Integrator データ・ソース構成ガイド」の『Life Sciences ユーザー定義関数の登録』
- 「IBM DB2 Information Integrator データ・ソース構成ガイド」の『ライフ・サイエンス・ユーザー定義関数の使用不可』

関連資料:

- 「IBM DB2 Information Integrator データ・ソース構成ガイド」の『ライフ・サイエンス・ユーザー定義関数ライブラリー・ファイル』
- 「IBM DB2 Information Integrator データ・ソース構成ガイド」の『機能カテゴリ別の Life Sciences ユーザー定義関数』

KEGG ユーザー定義関数 - 概要

ゲノムネット (KEGG) とは、ジェノミックス情報を収めた一連のデータベースのことです。KEGG ユーザー定義関数は、KEGG データベース内のジェノミックス情報にアクセスするために DB2[®] Information Integrator に装備された一連の関数です。

KEGG の Web サービス・インターフェースを通して DB2 Information Integrator からアクセスできる一連の KEGG 内のデータベースは、Pathway データベースと Sequence Similarity Database (SSDB) の 2 つだけです。Pathway データベースは、代謝系のパスウェイ、制御系のパスウェイ、および分子系のパスウェイを含め、生物学的プロセスにおける分子間相互作用ネットワークに関するデータの集まりです。SSDB は、完全なゲノム・コンプレックスにおけるタンパク質組成遺伝子に関するデータの集まりです。

KEGG ユーザー定義関数では、上記のようなデータベースへのアクセスに KEGG API が使用されます。

7 KEGG メソッドの大半は、遺伝子やパスウェイなどの値のリストを戻します。その
7 ようなメソッドのうちの一部では、入力として値のリストが必要です。複数の方法
7 から複雑な操作を簡単に作成できるように、KEGG ユーザー定義関数の大半は表と
7 スカラーのフォーマットで用意されています。表関数は、単一の値の表を戻しま
7 す。スカラー関数は、スペースで区切ったリストで値を戻します。

7 KEGG ユーザー定義関数は、非リレーショナル・ラッパーのライフ・サイエンス・
7 ユーザー定義関数コンポーネントと一緒にインストールされます。KEGG ユーザー
7 定義関数をインストールし終わったら、その関数を登録しなければなりません。

7 ネーム・スペースとの競合が起きないようにするために、すべての KEGG ユーザー
7 定義関数は DB2LS スキーマ内に登録されます。

7 関連タスク:

- 7 • 「*IBM DB2 Information Integrator データ・ソース構成ガイド*」の『KEGG ユー
7 ザー定義関数の登録』
- 7 • 「*IBM DB2 Information Integrator データ・ソース構成ガイド*」の『KEGG ユー
7 ザー定義関数を使用不可にする』

7 関連資料:

- 7 • 「*IBM DB2 Information Integrator データ・ソース構成ガイド*」の『KEGG ユー
7 ザー定義関数の関数引き数』
- 7 • 「*IBM DB2 Information Integrator データ・ソース構成ガイド*」の『機能カテゴ
7 リーごとの KEGG ユーザー定義関数』

Q レプリケーション

Q レプリケーション は、大ボリュームで待ち時間が短いレプリケーションの解決策
で、WebSphere® MQ メッセージ・キューを使用してソースとターゲットのデータ
ベースやサブシステムの間でトランザクションを伝送します。Q キャプチャー・プ
ログラムは、DB2® リカバリー・ログを読み取って、指定されたソース表に変更し
ます。次にこのプログラムはトランザクションをメッセージとしてキュー上に送信
し、このキューは Q アプライ・プログラムによって読み取られてターゲットに適用
されます。

このタイプのレプリケーションには、次のようないくつかの利点があります。

最小の待ち時間

変更がソースでコミットされ、ログから読み取られるとすぐに送信されま
す。

大ボリューム・スループット

Q キャプチャー・プログラムは、ソースでの急速な変化に対応でき、マル
チスレッド Q アプライ・プログラムは、通信チャネルの速度に対応するこ
とができます。

最小のネットワーク・トラフィック

メッセージが圧縮形式で送信され、さらにデータ送信オプションによって最
少量のデータを送信することができます。

非同期 メッセージ・キューの使用により、Q アプライ・プログラムが、ソースの
データベースやサブシステムに接続せずにトランザクションを受信すること

ができます。いずれかのレプリケーション・プログラムが停止した場合、メッセージはキュー上に残り、プログラムが使用可能になったときに処理されます。メッセージは永続的なため、システムまたはデバイスに障害が発生した場合でも、ソースとターゲットは同期された状態に保たれます。

Q レプリケーションでは、さまざまな構成が可能です。リモート・サーバー間や、単一のサーバー内で複製することができます。単一方向または複数方向で変更を複製することができます。複数方向でのレプリケーションは、双方向レプリケーション (スタンバイ・システムまたはバックアップ・システムの管理に役立つ) または対等レプリケーション (実動システム上のデータの同期に役立つ) になります。

Q レプリケーションを使用するには、次のタイプのオブジェクトを作成します。

- データを送受信するための WebSphere MQ キューを識別するレプリケーション・キュー・マップ。
- 複製または発行する行および列などのオプション、およびターゲット表のロードのオプションを識別する、Q サブスクリプション。

以下のセクションでは、Q レプリケーションの 3 つのタイプを簡単に概説します。

- 『単一方向レプリケーション』
- 『双方向レプリケーション』
- 12 ページの『対等レプリケーション』

単一方向レプリケーション

単一方向レプリケーション は、次の特性を持つ構成です。

- ソース表に加えられた変更内容が、WebSphere MQ キューを通してターゲット表に複製されるか、データ操作のためにストアード・プロシージャに入力パラメーターとして渡されます。
- ターゲット表で加えられた変更内容は、ソース表に複製され戻されません。
- 通常、ターゲット表は、読み取り専用であるか、Q アプライ・プログラムのみに更新されます。

双方向レプリケーション

双方向レプリケーション は、次の特性を持つ構成です。

- 2 つのサーバー上の表の間で複製が行われます。表のコピーの 1 つに加えられた変更が、その表の 2 番目のコピーに複製され、さらに 2 番目のコピーに行われた変更が最初のコピーに複製して戻されます。
- 一方のサーバー上の更新が、もう一方のサーバーに複製されます。
- どのサーバー上のアプリケーションでも、これらの表内の同じ行を同時に更新することができます。ただし、複製された表の中の同一のデータが両方のサーバーによって同時に更新される可能性はほとんどあるいはまったくありません。同一の行が一度に 1 つのサーバーによって更新されるか、または、一方のサーバーが特定のデータ列のみを更新し、もう一方のサーバーはその他のデータ列を更新するかのどちらかです。
- 競合が発生した場合は、表のどちらのコピーを優先するか選択できる。

対等レプリケーション

対等レプリケーション (マルチマスター・レプリケーションとも呼ばれる) は、次の特性を持つ構成です。

- 複数のサーバー上の表の間でレプリケーションが行われます。
- いずれかのサーバー上の更新が、対等構成に関わる他のすべての関連サーバーに複製されます。
- いずれかのサーバー上のアプリケーションが、これらの表内の同一の行および列を同時に更新することができます。
- すべてのサーバーは、データに対して等しい所有権を持つ対等の関係であり、どのサーバーも「マスター」や、データのソース所有者ではありません。

関連概念:

- 「*IBM DB2 Information Integrator レプリケーションとイベント・パブリッシングガイド*および*リファレンス*」の『*双方向レプリケーション*』
- 「*IBM DB2 Information Integrator レプリケーションとイベント・パブリッシングガイド*および*リファレンス*」の『*対等レプリケーション*』
- 「*IBM DB2 Information Integrator レプリケーションとイベント・パブリッシングガイド*および*リファレンス*」の『*Q アプライ・プログラム*』
- 「*IBM DB2 Information Integrator レプリケーションとイベント・パブリッシングガイド*および*リファレンス*」の『*Q キャプチャー・プログラム*』
- 「*IBM DB2 Information Integrator レプリケーションとイベント・パブリッシングガイド*および*リファレンス*」の『*Q レプリケーションの紹介 — 概要*』
- 「*IBM DB2 Information Integrator レプリケーションとイベント・パブリッシングガイド*および*リファレンス*」の『*Q サブスクリプション*』
- 「*IBM DB2 Information Integrator レプリケーションとイベント・パブリッシングガイド*および*リファレンス*」の『*レプリケーション・キュー・マップ*』
- 「*IBM DB2 Information Integrator レプリケーションとイベント・パブリッシングガイド*および*リファレンス*」の『*単一方向レプリケーション*』

DB2 Net Search Extender (DB2 Information Integrator)

DB2[®] Net Search Extender を使用すると、SQL によるエンタープライズ規模のフルテキスト文書検索を実行することができます。DB2 Net Search Extender は、文書を順番に検索する代わりにテキスト索引を使用することによって、検索を素早く効率的に実行します。DB2 Net Search Extender はテキスト索引を動的に更新して、それらをメモリーに保存します。テキスト索引をメモリーに保存すれば、時間がかかる物理的な読み取り操作を行わなくても、テキスト索引にアクセスすることができます。

関連概念:

- 6 ページの『*DB2 Universal Database*』

XML メタデータ・レジストリー

XML メタデータ・レジストリーは、XML メタデータ文書 (スキーマ、文書タイプ定義 (DTD)、スタイル・シート、WSDL 文書など) のレジストリーです。XML メ

タデータ・レジストリーは、会社や特定の部門内で使用することができますが、全ユーザーが使用できるようにすることもできます。文書を登録すると、メタデータを検索するための共通の場所を提供し、文書へのアクセスを管理し、バージョンをトラッキングし、他のユーザーと共同してメタデータ・オプションを作成し、登録済み文書についてのメタデータをトラッキングすることになります。

XML メタデータ・レジストリーは、Web ベースのインターフェースを使用してレジストリー内のオブジェクトを処理します。文書の内容と文書のメタデータは、DB2® Universal Database に保管されます。各レジストリーには、XML メタデータ・レジストリーのインストール時に作成されるデータベースがあります。

関連概念:

- 「DB2 XML Metadata Registry ヘルプ」の『XML メタデータ・レジストリー文書ロード・ツール』
- 「DB2 XML Metadata Registry ヘルプ」の『XML メタデータ・レジストリー内のレジストリー・オブジェクトおよびビジネス・オブジェクト』
- 「DB2 XML Metadata Registry ヘルプ」の『XML メタデータ・レジストリー・ユーザー・インターフェース』

関連タスク:

- 84 ページの『XML メタデータ・レジストリーのインストール』

7 DB2 Information Integrator のエディション

| 以下のエディションの DB2® Information Integrator を利用することができます。

- | • Event Publisher
- | • Replication
- | • Standard
- | • Advanced
- | • Advanced Edition Unlimited
- | • Developer

| ご使用条件は、エディションによって異なります。それ以外に、DB2 Universal
| Database にはその他のライセンス交付要件もあります。インストールする DB2
| Information Integrator 製品とコンポーネントごとに、ご使用条件を読んでください。
| ご使用条件は、インストール・プロセスの途中で表示されます。

7 以下の表は、各エディションの DB2 Information Integrator に組み込まれた製品とコ
7 ンポーネントを示しています。

表 2. DB2 Information Integrator のエディションと、それぞれに組み込まれた製品とコンポーネント

DB2 Information Integrator のコンポーネント	Event Publisher Edition と Replication Edition	Standard Edition	Advanced Edition	Advanced Edition Unlimited	Developer Edition
DB2 Universal Database™ Enterprise Server Edition	✓	✓	✓	✓	✓
Q レプリケーション	✓	✓	✓	✓	✓
非リレーショナル・ラッパー	未装備	✓	✓	✓	✓
リレーショナル・ラッパー	✓	✓	✓	✓	✓
DB2 Net Search Extender	未装備	✓	✓	✓	✓
DB2 Run Time Client (32 ビットおよび 64 ビット)	✓	✓	✓	✓	✓
DB2 Administration Client (32 ビットおよび 64 ビット)	✓	✓	✓	✓	✓
DB2 Application Development Client (32 ビットおよび 64 ビット)	未装備	未装備	未装備	未装備	✓
DB2 XML メタデータ・レジストリー	✓	✓	✓	✓	✓
DB2 用のアプリケーション・サーバー	✓	✓	✓	✓	✓
Java™ デバッガー	✓	✓	✓	✓	✓

ライフ・サイエンスのユーザー定義関数は、非リレーショナル・ラッパーのインストール・コンポーネントです。KEGG ユーザー定義関数ラッパーは、ライフ・サイエンス・ユーザー定義関数と一緒にインストールされます。

関連タスク:

- 77 ページの『ラッパー開発キットのインストール』

関連資料:

- 47 ページの『DB2 Information Integrator インストール・ワークシート』

7 DB2 Information Integrator の無償提供の同梱製品とコンポーネント

7 DB2[®] Information Integrator に組み込まれた無償提供の同梱製品およびコンポーネン
 7 トは、エディションによって異なります。以下の表は、各エディションでサポート
 7 されている製品およびコンポーネントを示しています。

7 表 3. DB2 Information Integrator の無償提供の同梱製品とコンポーネント

組み込まれた製 品とコンポーネ ント	Replication Edition と		Advanced Edition		Developer Edition
	Event Publisher Edition	Standard Edition	Advanced Edition	Advanced Edition Unlimited	
IBM [®] WebSphere [®] MQ	該当しません	✓	✓	✓	✓
IBM WebSphere Application Server	該当しません	✓	✓	✓	✓
IBM WebSphere Studio Site Developer	該当しません	✓	✓	✓	✓
IBM WebSphere Application Server for Developers	該当しません	該当 しません	該当しません	該当しません	✓
IBM Extended Search	該当しません	✓	✓	✓	✓
QMF [™]	✓	✓	✓	✓	

7 関連概念:

- 7 • 12 ページの『DB2 Net Search Extender (DB2 Information Integrator)』
- 7 • 1 ページの『DB2 Information Integrator』

7 関連資料:

- 7 • 111 ページの『DB2 Information Integrator の無償提供の同梱製品の資料』

第 2 章 DB2 Information Integrator のインストール計画

DB2 Information Integrator の構成は、組織のニーズに応じて異なります。リレーショナル・データ・ソースしかアクセスしない企業もあれば、さまざまなリレーショナルおよび非リレーショナル・データ・ソースにアクセスする企業もあります。DB2 Information Integrator システムでは非常に多くの構成の可能性が存在するので、インストールに関して前もって計画する必要があります。

この章では、次のような計画の詳細について述べています。

- 移行
- インストール資料
- インストール要件

7 DB2 Information Integrator のインストール - 概要

7 ここでは、DB2[®] Information Integrator のインストールの計画とインストールに関連
7 したタスクの概要を示します。

7 計画の概要

- 7 1. インストールの工程の一環として移行を行う場合、DB2 Information
7 Integrator への移行の要件を収集します。DB2 Information Integrator へ
7 の移行の詳細は、「*IBM DB2 Information Integrator* マイグレーション・
7 ガイド」を参照してください。この資料は、DB2 PDF ドキュメンテー
7 ション CD と DB2 インフォメーション・センター CD に入っています。
7
- 7 2. インストール・システムの構成別のインストール要件を収集します。
7 DB2 Information Integrator のインストール要件に関する詳細は、以下の
7 トピックを参照してください。
 - 7 • DB2 Information Integrator のハードウェア要件
 - 7 • DB2 Information Integrator のソフトウェア要件
 - 7 • DB2 Information Integrator でサポートされるオペレーティング・シス
7 テム (32 ビット)
 - 7 • DB2 Information Integrator でサポートされるオペレーティング・シス
7 テム (64 ビット)
 - 7 • サポートされるデータ・ソース
 - 7 • DB2 XML メタデータ・レジストリーでサポートされる Web ブラウ
7 ザー

7 DB2 Information Integrator インストール・ワークシート を使って、イン
7 ストール・システムの要件を記録することができます。

7 インストールの概要

- 7 1. 旧バージョンの DB2 Information Integrator 製品またはコンポーネントが
7 インストールされている場合、インストールしたいコンポーネントごと

7 に移行のタスクを完了します。移行の詳細は、「*IBM DB2 Information Integrator* マイグレーション・ガイド」を参照してください。この資料は、DB2 PDF ドキュメンテーション CD と DB2 インフォメーション・センター CD に入っています。

- 7 2. インストールしたいラッパー用に、クライアント・ソフトウェアをインストール、構成、およびテストします。DB2 Universal Database™、リレーショナル・ラッパー、または非リレーショナル・ラッパーをインストールする前にデータ・ソース・クライアント・ソフトウェアをインストールすると、フェデレーテッド・システムのセットアップおよびデータ・ソースへのアクセスに必要な作業の一部が自動化されます。クライアント・ソフトウェアは、それを必要とするラッパーとは別途入手してください。
- 7 3. DB2 Information Integrator をインストールします。DB2 Information Integrator のインストールの詳細は、以下のトピックを参照してください。
 - 7 • DB2 Information Integrator のリレーショナル・ラッパーのインストールに関する前提条件
 - 7 • DB2 Information Integrator の環境変数
 - 7 • DB2 Information Integrator のインストール (Windows)
 - 7 • DB2 Information Integrator のインストール (UNIX)
- 7 4. オプション: DB2 Information Integrator メディア・パックに組み入れられている DB2 Information Integrator の無償提供の同梱製品およびコンポーネントのいずれかをインストールします。

7 関連概念:

- 7 • 「*IBM DB2 Information Integrator* マイグレーション・ガイド」の『DB2 Information Integrator への移行の概要』

7 関連資料:

- 7 • 28 ページの『DB2 Universal Database バージョン 8.1.2 以上がインストール済みの場合』
- 7 • 31 ページの『DB2 Information Integrator のハードウェア要件』
- 7 • 36 ページの『DB2 Information Integrator でサポートされるオペレーティング・システム (32 ビット)』
- 7 • 24 ページの『DB2 Universal Database バージョン 8.2 がインストール済みの場合』
- 7 • 22 ページの『クリーン・インストール』
- 7 • 20 ページの『移行』
- 7 • 19 ページの『DB2 Information Integrator のインストールに関する資料』
- 7 • 35 ページの『DB2 Information Integrator のソフトウェア要件』
- 7 • 41 ページの『DB2 Information Integrator でサポートされるオペレーティング・システム (64 ビット)』
- 7 • 47 ページの『DB2 Information Integrator インストール・ワークシート』
- 7 • 49 ページの『DB2 Information Integrator のリレーショナル・ラッパーのインストールに関する前提条件』

DB2 Information Integrator のインストールに関する資料

表 4 には、DB2[®] Information Integrator およびそのコンポーネントのインストールを計画および実行するのに必要な資料が一覧で示されています。資料は、DB2 Information Integrator PDF ドキュメンテーション CD と DB2 Information Center CD に入っています。リリース情報は、DB2 Information Integrator のランチパッドまたは www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/support.html の DB2 Information Integrator サポート・サイトに掲載されています。

表 4. DB2 Information Integrator のインストールに関する資料

資料タイトル	資料番号	PDF ファイル名
「IBM DB2 Information Integrator マイグレーション・ガイド」	SC88-9610-01	iiymgx81
「IBM DB2 Information Integrator インストール・ガイド」	GC88-9562-01	iiyigx81
「DB2 Universal Database サーバー機能概説およびインストール」	GC88-9148-01	db2isx81
「DB2 Connect Enterprise Edition 概説およびインストール」	GC88-9145-01	db2c6x81
「DB2 Universal Database Personal Edition 概説およびインストール」	GC88-9150-01	db2i1x81
「インストールおよび構成 補足」	GC88-9149-00	db2iyx81

PDF 資料を表示または印刷するには、次のようにします。

1. PDF ドキュメンテーション CD のルート・ディレクトリーから `index.htm` ファイルを開きます。
2. PDF 資料の表示に使用したい言語をクリックします。
3. PDF 資料の一覧で、表示したい資料のリンクをクリックします。

関連タスク:

- 「DB2 Universal Database Personal Edition 概説およびインストール」の『DB2 Personal Edition のインストール - 概要 (Windows)』
- 「DB2 Universal Database Personal Edition 概説およびインストール」の『DB2 Personal Edition のインストール - 概要 (Linux)』
- 「DB2 Universal Database クライアント機能 概説およびインストール」の『DB2 クライアントのインストール (Windows)』
- 「DB2 Universal Database クライアント機能 概説およびインストール」の『DB2 クライアントのインストール (UNIX)』
- 「DB2 Universal Database サーバー機能 概説およびインストール」の『参加コンピュータ上でのデータベース・パーティション・サーバーのインストール (Windows)』
- 「DB2 Universal Database サーバー機能 概説およびインストール」の『単一パーティション・データベース環境での DB2 サーバーのインストール (Windows)』
- 「DB2 Universal Database サーバー機能 概説およびインストール」の『応答ファイルを使用した、参加コンピュータ上でのデータベース・パーティション・サーバーのインストール (UNIX)』

- 「DB2 Connect Enterprise Edition 概説およびインストール」の『DB2 Connect Enterprise Edition のインストール (Windows)』
- 「DB2 Connect Enterprise Edition 概説およびインストール」の『DB2 Connect Enterprise Edition のインストール (Solaris オペレーティング環境)』
- 「DB2 Connect Enterprise Edition 概説およびインストール」の『DB2 Connect Enterprise Edition のインストール (Linux)』
- 「DB2 Connect Enterprise Edition 概説およびインストール」の『DB2 Connect Enterprise Edition のインストール (HP-UX)』
- 「DB2 Connect Enterprise Edition 概説およびインストール」の『DB2 Connect Enterprise Edition のインストール (AIX)』
- 「DB2 Universal Database サーバー機能 概説およびインストール」の『単一パーティション環境での DB2 サーバーのインストール (UNIX)』

関連資料:

- 111 ページの『DB2 Information Integrator の無償提供の同梱製品の資料』

DB2 Information Integrator のインストール・シナリオ

ここでは、以下のような DB2 Information Integrator のインストール・シナリオを示します。

- 7 • 移行
- 7 • クリーン・インストール
- 7 • DB2 Universal Database バージョン 8.2 がインストール済みの場合
- 7 • DB2 Universal Database バージョン 8.2 フィックスパック 8 以降がインストール済みの場合
- 7 • DB2 Universal Database バージョン 8.1.2 以降がインストール済みの場合
- 7 • サポートされていないエディションまたはバージョンの DB2 Universal Database がインストール済みの場合

移行

以下の製品のいずれかをコンピューターにインストールした場合、DB2 Information Integrator をインストールする前にいくつかの移行タスクを完了しなければなりません。以下の製品からの移行の詳細は、「IBM DB2 Information Integrator マイグレーション・ガイド」を参照してください。

- 7 • DataJoiner
- 7 • DB2 Relational Connect バージョン 7
- 7 • DB2 Life Sciences Data Connect バージョン 7
- 7 • サポートされていないバージョンの DB2 Universal Database
- 7 • サポートされていないエディションの DB2 Universal Database

インストールの流れを、21 ページの図 2 に示します。

DB2 Information Integrator Replication Edition に非リレーショナル・ラッパーは組み込まれていません。

7 Q レプリケーションは、DB2 Universal Database Connect Enterprise Edition を除
 7 き、サポートされているエディションの DB2 Universal Database と一緒にインスト
 7 ールされます。DB2 Information Integrator 製品ライセンスを登録すると、Q レプ
 7 リケーションが使用可能になります。

7

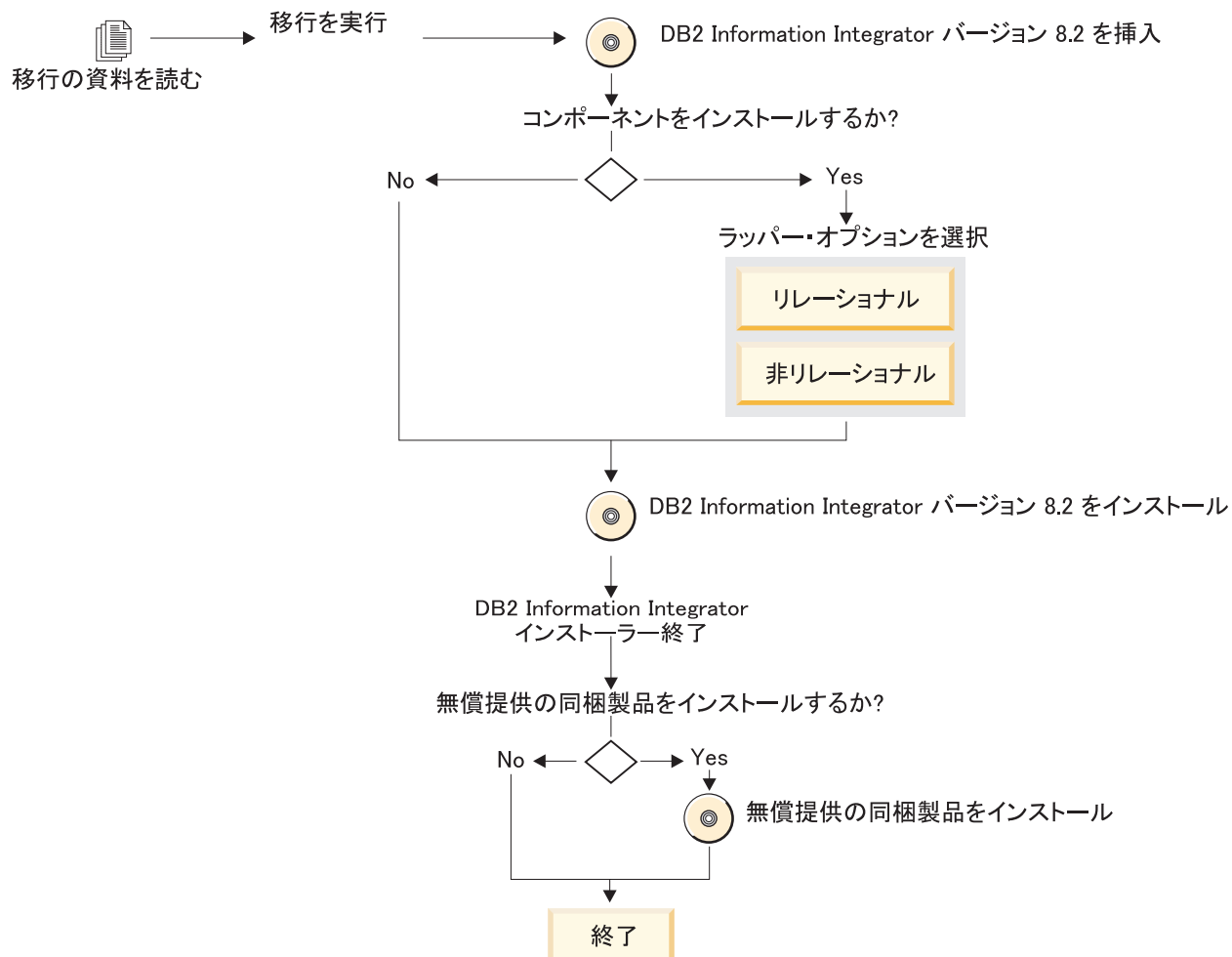


図 2. DB2 Information Integrator への移行

7

インストールの流れ

7 インストールの流れは、現在システムにインストールされている内容によって異な
 7 ります。DB2 Information Integrator への移行の詳細な手順は、他の該当するトピッ
 7 クで示されています。

7

1. DB2 Information Integrator への移行に必要なタスクを実行します。

7

2. DB2 Information Integrator の CD をドライブに挿入またはマウントするか、ま
 7 たは iisetaup ファイルが置かれているディレクトリーにナビゲートします。DB2
 7 Information Integrator のインストール・ウィザードを開始します。

7

3. インストールしたい製品およびコンポーネントを選択します。

7

4. DB2 Information Integrator のインストール・ウィザードの指示に従って、インス
 7 トールを完了します。

7 5. インストールしたフェデレーテッド・システムとすべてのラッパーを構成しま
7 す。フェデレーテッド・システムと DB2 Information Integrator ラッパーの構成
7 の詳細は、「*IBM DB2 Information Integrator データ・ソース構成ガイド*」を参
7 照してください。

7 6. オプション: DB2 Information Integrator に付属している無償提供の同梱製品をイ
7 ンストールします。

7 **関連概念:**

- 7 • 「*IBM DB2 Information Integrator マイグレーション・ガイド*」の『DB2
7 Information Integrator への移行の概要』

7 **関連資料:**

- 7 • 28 ページの『DB2 Universal Database バージョン 8.1.2 以上がインストール済み
7 の場合』
- 7 • 24 ページの『DB2 Universal Database バージョン 8.2 がインストール済みの場
7 合』
- 7 • 22 ページの『クリーン・インストール』
- 7 • 26 ページの『DB2 Universal Database バージョン 8.2 フィックスパック 8 以上
7 がインストール済みの場合』
- 7 • 30 ページの『サポートされていない DB2 Universal Database のエディションま
7 たはバージョンがインストールされている場合』

クリーン・インストール

クリーンな DB2 Information Integrator のインストールとは、以下の条件のいずれか
1 つが存在するという事です。

- Windows システムに DB2 Information Integrator をインストールしようとした場
合に、DB2 Universal Database がまだインストールされていない。
- UNIX システムに DB2 Information Integrator をインストールしようとした場合
に、サポートされているエディションの DB2 Universal Database バージョン 8
の中の 1 つがインストール済みである。

クリーン・システムの場合、DB2 Information Integrator は DB2 Enterprise Server
Edition バージョン 8.2 をインストールします。DB2 Universal Database Enterprise
Server Edition は、別個の CD に収められています。DB2 Information Integrator
CD を取り出して DB2 Universal Database Enterprise Server Edition CD を挿入する
よう、DB2 Information Integrator インストール・ウィザードからプロンプトで指示
されます。DB2 Information Integrator をネットワーク・ドライブからインストール
している場合は、DB2 Universal Database Enterprise Server Edition CD の場所、ま
たはインストール元のディレクトリーの場所を指定するようプロンプトで指示され
ます。インストール処理中に、DB2 Information Integrator のライセンス・キーが自
動的に登録され、Q レプリケーションが使用可能になります。

インストールの流れを、23 ページの図 3 に示します。

DB2 Information Integrator Replication Edition に非リレーショナル・ラッパーは組み込まれていません。

Q レプリケーションは、DB2 Universal Database Connect Enterprise Edition を除き、サポートされているエディションの DB2 Universal Database と一緒にインストールされます。DB2 Information Integrator 製品ライセンスを登録すると、Q レプリケーションが使用可能になります。

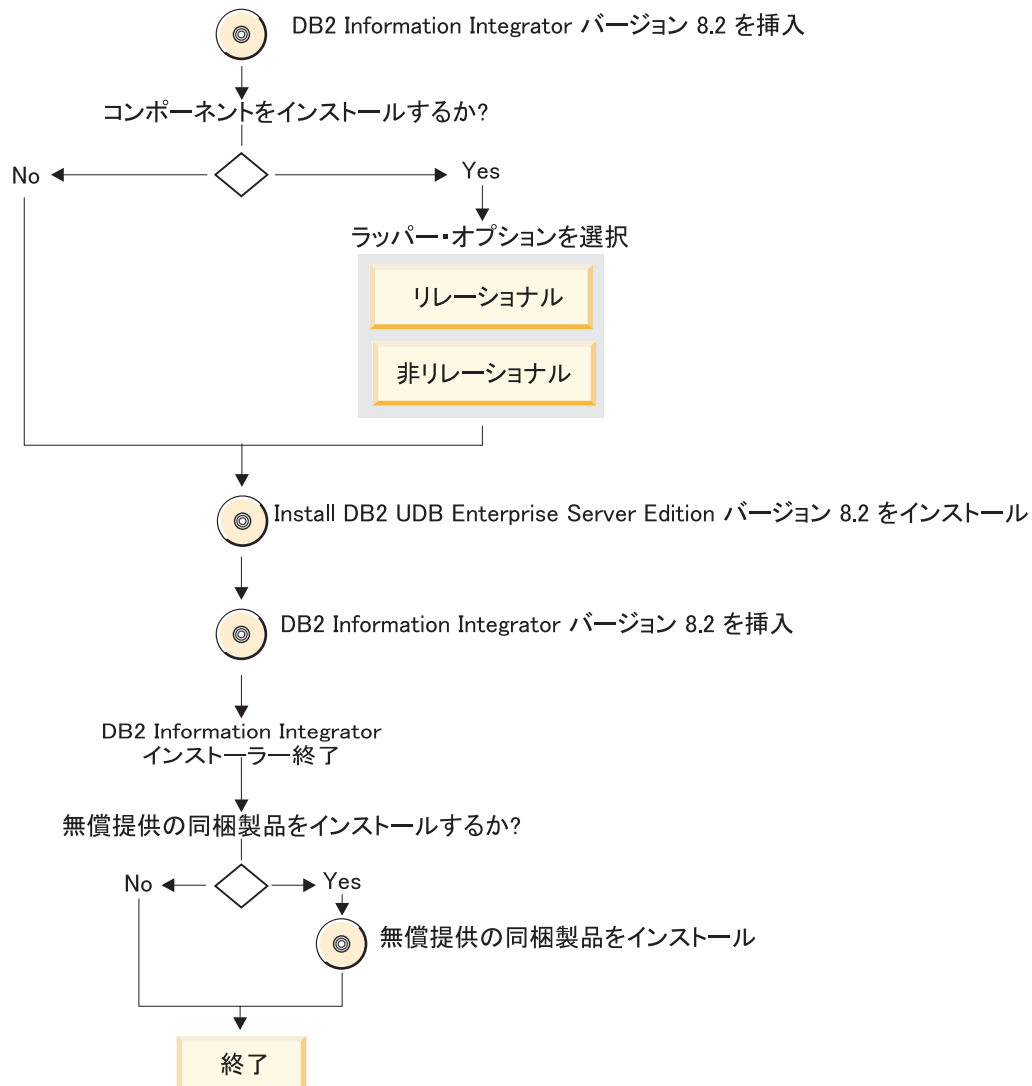


図3. クリーン・インストール

インストールの流れ

インストールの流れは、現在システムにインストールされている内容によって異なります。DB2 Information Integrator をインストールするための詳細な手順は、他の該当するトピックで示します。

1. DB2 Information Integrator の CD をドライブに挿入またはマウントするか、または iisetup ファイルが置かれているディレクトリーにナビゲートします。DB2 Information Integrator のインストール・ウィザードを開始します。

2. インストールしたい製品およびコンポーネントを選択します。
3. DB2 Information Integrator のインストール・ウィザードの指示に従って、インストールを完了します。
4. インストールしたフェデレーテッド・システムとすべてのラッパーを構成します。フェデレーテッド・システムと DB2 Information Integrator ラッパーの構成の詳細は、「*IBM DB2 Information Integrator データ・ソース構成ガイド*」を参照してください。
5. オプション: DB2 Information Integrator に付属している無償提供の同梱製品をインストールします。

関連資料:

- 28 ページの『DB2 Universal Database バージョン 8.1.2 以上がインストール済みの場合』
- 24 ページの『DB2 Universal Database バージョン 8.2 がインストール済みの場合』
- 20 ページの『移行』
- 26 ページの『DB2 Universal Database バージョン 8.2 フィックスパック 8 以上がインストール済みの場合』
- 30 ページの『サポートされていない DB2 Universal Database のエディションまたはバージョンがインストールされている場合』

DB2 Universal Database バージョン 8.2 がインストール済みの場合

サポートされているエディションの DB2 Universal Database バージョン 8.2 の上から DB2 Information Integrator をインストールすることができます。DB2 Information Integrator は、インストール処理中に DB2 Universal Database を検出します。

インストールの流れを、25 ページの図 4 に示します。

DB2 Information Integrator Replication Edition に非リレーショナル・ラッパーは組み込まれていません。

Q レプリケーションは、DB2 Universal Database Connect Enterprise Edition を除き、サポートされているエディションの DB2 Universal Database と一緒にインストールされます。DB2 Information Integrator 製品ライセンスを登録すると、Q レプリケーションが使用可能になります。

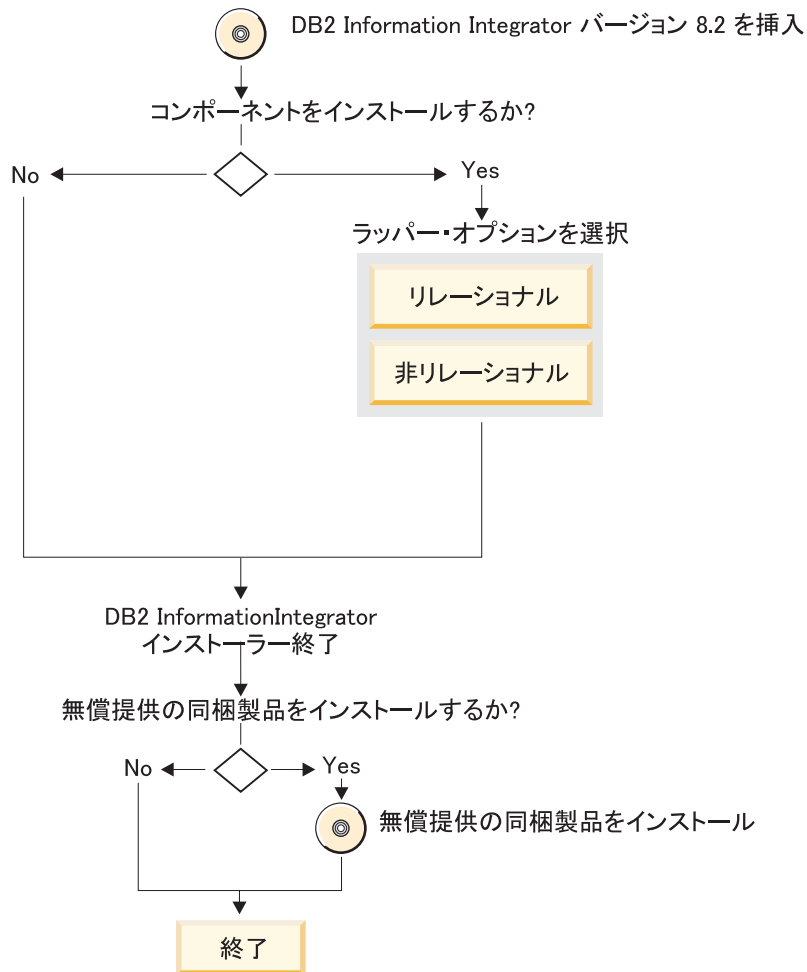


図4. サポートされているエディションの DB2 Universal Database バージョン 8.2 がインストール済みの場合

7
7
7
7
7
7
7
7
7
7
7
7
7
7
7
7
7
7
7
7
7
7

インストールの流れ

インストールの流れは、現在システムにインストールされている内容によって異なります。DB2 Information Integrator をインストールするための詳細な手順は、他の該当するトピックで示します。

1. DB2 Information Integrator の CD をドライブに挿入またはマウントするか、または iisetup ファイルが置かれているディレクトリーにナビゲートします。DB2 Information Integrator のインストール・ウィザードを開始します。サポートされているエディションの DB2 Universal Database バージョン 8.2 がインストール済みであることが、インストール・ウィザードによって検出されます。
2. インストールしたい製品およびコンポーネントを選択します。
3. DB2 Information Integrator のインストール・ウィザードの指示に従って、インストールを完了します。
4. インストールしたフェデレーテッド・システムとすべてのラッパーを構成します。フェデレーテッド・システムと DB2 Information Integrator ラッパーの構成の詳細は、「IBM DB2 Information Integrator データ・ソース構成ガイド」を参照してください。

7 5. オプション: DB2 Information Integrator に付属している無償提供の同梱製品をイ
7 ンストールします。

7 **関連資料:**

- 7 • 28 ページの『DB2 Universal Database バージョン 8.1.2 以上がインストール済み
7 の場合』
- 7 • 22 ページの『クリーン・インストール』
- 7 • 20 ページの『移行』
- 7 • 26 ページの『DB2 Universal Database バージョン 8.2 フィックスパック 8 以上
7 がインストール済みの場合』
- 7 • 30 ページの『サポートされていない DB2 Universal Database のエディションま
7 たはバージョンがインストールされている場合』

7 **DB2 Universal Database バージョン 8.2 フィックスパック 8** 7 **以上がインストール済みの場合**

7 サポートされているエディションの DB2 Universal Database バージョン 8.2 フィッ
7 クスパック 8 以上がインストールされているシステムに DB2 Information Integrator
7 をインストールすることができます。DB2 Information Integrator は、インストール
7 処理中に DB2 Universal Database を検出します。UNIX では、DB2 Information
7 Integrator のインストール後に、DB2 Universal Database フィックスパックを再イン
7 ストールして、インストールした各ラッパーごとに djxlink スクリプトを実行する
7 必要があります。 www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/support.html の DB2
7 Information Integrator サポート・サイトの DB2 Information Integrator フィックスパ
7 ックのインストールに関する説明に従ってください。

7 インストールの流れを、27 ページの図 5 に示します。

7 DB2 Information Integrator Replication Edition に非リレーショナル・ラッパーは組み
7 込まれていません。

7 Q レプリケーションは、DB2 Universal Database Connect Enterprise Edition を除
7 き、サポートされているエディションの DB2 Universal Database と一緒にインスト
7 ールされます。DB2 Information Integrator 製品ライセンスを登録すると、Q レプ
7 リケーションが使用可能になります。

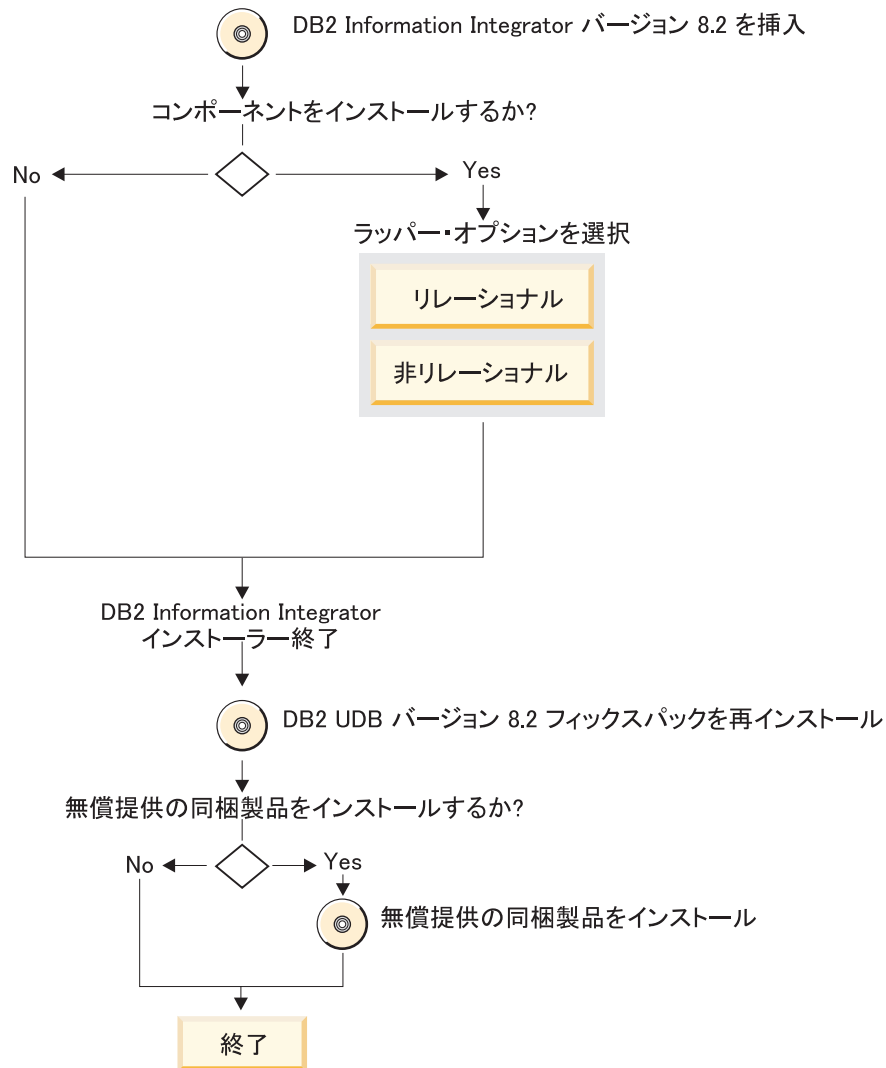


図5. サポートされているエディションの DB2 Universal Database バージョン 8.2 フィックスパック 8 以上がインストール済みの場合

7

インストールの流れ

7

インストールの流れは、現在システムにインストールされている内容によって異なります。DB2 Information Integrator をインストールするための詳細な手順は、他の該当するトピックで示します。

7

7

7

1. DB2 Information Integrator の CD をドライブに挿入またはマウントするか、または iisetup ファイルが置かれているディレクトリーにナビゲートします。DB2 Information Integrator のインストール・ウィザードを開始します。サポートされているエディションの DB2 Universal Database バージョン 8.2 フィックスパック 8 以上がインストール済みであることが、インストール・ウィザードによって検出されます。

7

7

7

2. インストールしたい製品およびコンポーネントを選択します。

7

3. DB2 Information Integrator のインストール・ウィザードの指示に従って、インストールを完了します。

7

- 7 4. DB2 Universal Database バージョン 8.2 フィックスパックを再インストールしま
7 す。
- 7 5. インストールしたフェデレーテッド・システムとすべてのラッパーを構成しま
7 す。フェデレーテッド・システムと DB2 Information Integrator ラッパーの構成
7 の詳細は、「*IBM DB2 Information Integrator データ・ソース構成ガイド*」を参
7 照してください。
- 7 6. オプション: DB2 Information Integrator に付属している無償提供の同梱製品をイ
7 ンストールします。

7 **関連資料:**

- 7 • 28 ページの『DB2 Universal Database バージョン 8.1.2 以上がインストール済み
7 の場合』
- 7 • 24 ページの『DB2 Universal Database バージョン 8.2 がインストール済みの場
7 合』
- 7 • 22 ページの『クリーン・インストール』
- 7 • 20 ページの『移行』
- 7 • 30 ページの『サポートされていない DB2 Universal Database のエディションま
7 たはバージョンがインストールされている場合』

7 **DB2 Universal Database バージョン 8.1.2 以上がインストール
7 済みの場合**

7 DB2 Universal Database バージョン 8.1.2、DB2 Universal Database バージョン 8.1
7 フィックスパック 3、DB2 Universal Database バージョン 8.1.4、DB2 Universal
7 Database バージョン 8.1 フィックスパック 5、または DB2 Universal Database バ
7 ージョン 8.1.6 がインストールされている場合、DB2 Information Integrator をイン
7 ストールする前に、DB2 Universal Database バージョン 8.2 フィックスパック 7
7 以上をインストールする必要があります。

7 インストールの流れを、29 ページの図 6 に示します。

7 DB2 Information Integrator Replication Edition に非リレーショナル・ラッパーは組み
7 込まれていません。

7 Q レプリケーションは、DB2 Universal Database Connect Enterprise Edition を除
7 き、サポートされているエディションの DB2 Universal Database と一緒にインスト
7 ールされます。DB2 Information Integrator 製品ライセンスを登録すると、Q レプ
7 リケーションが使用可能になります。

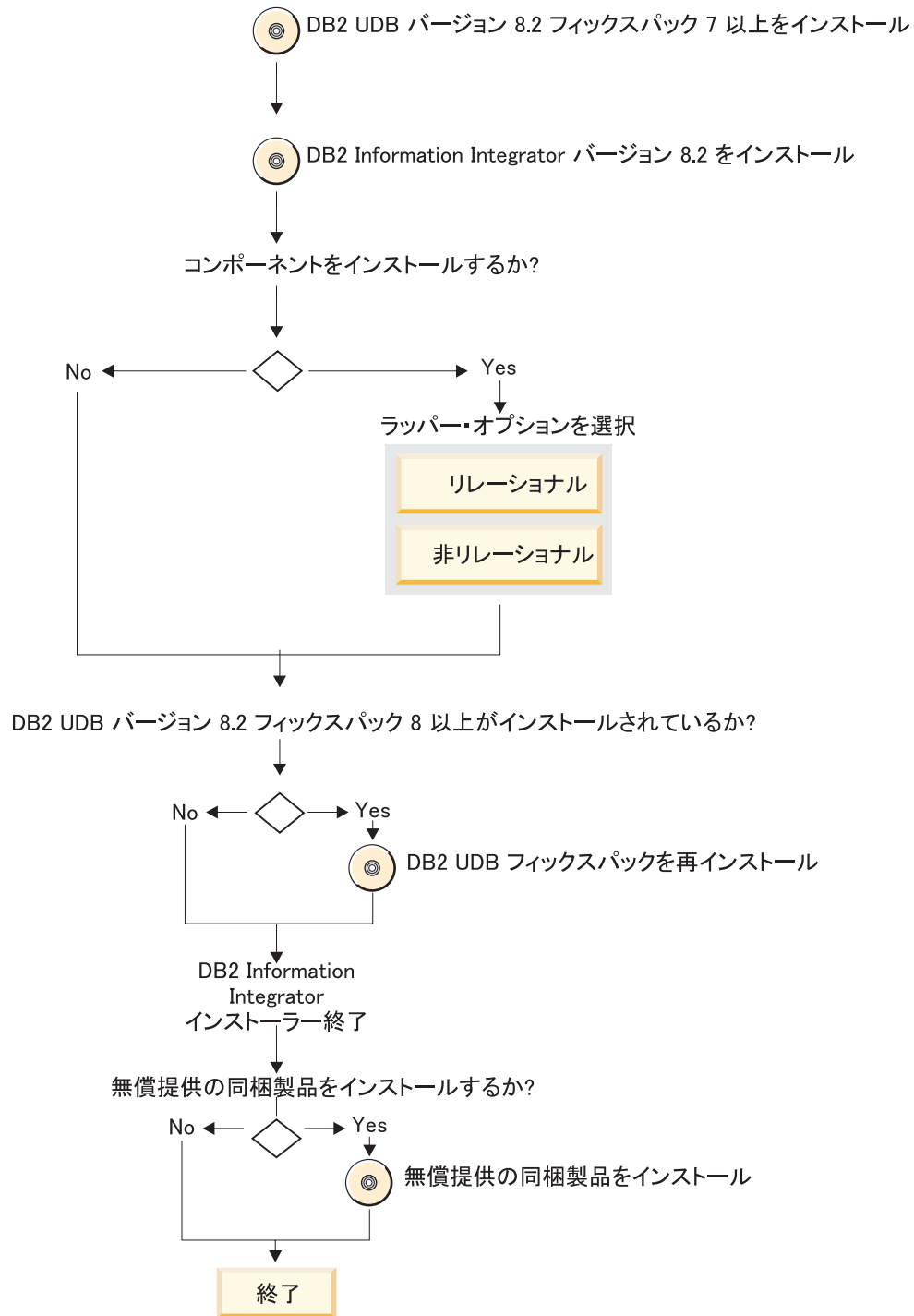


図 6. DB2 Universal Database バージョン 8.1.2 以降がインストール済みの場合

7
7
7
7
7
7

インストールの流れ

インストールの流れは、現在システムにインストールされている内容によって異なります。DB2 Information Integrator をインストールするための詳細な手順は、他の該当するトピックで示します。

1. DB2 Universal Database バージョン 8.2 フィックスパック 7 以上をインストールします。

- 7 2. DB2 Information Integrator の CD をドライブに挿入またはマウントするか、ま
7 たは iisetup ファイルが置かれているディレクトリーにナビゲートします。 DB2
7 Information Integrator のインストール・ウィザードを開始します。
- 7 3. インストールしたい製品およびコンポーネントを選択します。
- 7 4. DB2 Information Integrator のインストール・ウィザードの指示に従って、インス
7 トールを完了します。
- 7 5. DB2 Universal Database バージョン 8.2 フィックスパック 7 以上がインストー
7 ル済みの場合、そのフィックスパックを再インストールする必要があります。
- 7 6. インストールしたフェデレーテッド・システムとすべてのラッパーを構成しま
7 す。フェデレーテッド・システムと DB2 Information Integrator ラッパーの構成
7 の詳細は、「*IBM DB2 Information Integrator データ・ソース構成ガイド*」を参
7 照してください。
- 7 7. オプション: DB2 Information Integrator に付属している無償提供の同梱製品をイ
7 ンストールします。

7 関連資料:

- 7 • 24 ページの『DB2 Universal Database バージョン 8.2 がインストール済みの場
7 合』
- 7 • 22 ページの『クリーン・インストール』
- 7 • 20 ページの『移行』
- 7 • 26 ページの『DB2 Universal Database バージョン 8.2 フィックスパック 8 以上
7 がインストール済みの場合』
- 7 • 30 ページの『サポートされていない DB2 Universal Database のエディションま
7 たはバージョンがインストールされている場合』

7 サポートされていない DB2 Universal Database のエディション 7 またはバージョンがインストールされている場合

7 DB2 Information Integrator をインストールするには、サポートされているエディシ
7 ョンの DB2 Universal Database バージョン 8.2 以上がインストールされていなければ
7 なりません。サポートされていないエディションまたはバージョンの DB2
7 Universal Database が Windows システム上にインストールされている場合や、サポ
7 ートされていないエディションの DB2 Universal Database バージョン 8.2 が UNIX
7 システムにインストールされている場合、サポートされているエディションとバー
7 ジョンの DB2 Universal Database への移行を指示するメッセージが DB2
7 Information Integrator インストール・ウィザードに表示されます。

7 サポートされているエディションの DB2 Universal Database バージョン 8.1 がイン
7 ストールされている場合、最新の DB2 Universal Database フィックスパックをイン
7 ストールすることができます。

7 関連概念:

- 7 • 「*IBM DB2 Information Integrator マイグレーション・ガイド*」の『DB2
7 Information Integrator に移行するためのインストール手順』
- 7 • 「*IBM DB2 Information Integrator マイグレーション・ガイド*」の『DB2
7 Information Integrator への移行の概要』

7
7
7
7
7

関連資料:

- 28 ページの『DB2 Universal Database バージョン 8.1.2 以上がインストール済みの場合』
- 22 ページの『クリーン・インストール』
- 20 ページの『移行』

DB2 Information Integrator のインストール要件

システムが、DB2 Information Integrator の以下のインストール要件を満たしていることを確認してください。

DB2 Information Integrator のハードウェア要件

DB2 Information Integrator 製品とそのコンポーネントのハードウェア要件は、構成によって異なります。

一般要件

フェデレーテッド・サーバーが、十分なディスク・スペースを保有していて、フェデレーテッド・サーバー上の使用可能なメモリーのサイズを超える一時表やソートをすべて管理できるように構成されていることを確認してください。

フェデレーテッド・サーバー・システム上でディスクの入出力を使用しなくても、一時表の処理やソートを実行するのに十分なメモリーがフェデレーテッド・サーバーにあることを確認してください。

ディスク・スペースの所要量は、構成によってご使用のディスク・ドライブのタイプによって異なります。大きなクラスター・サイズをもった FAT ドライブ上では、NTFS ドライブよりもはるかに多くのディスク・スペースを必要とすることがあります。

各自のインストール・システムで必要なディスク・スペース容量を計算する場合は、必要なソフトウェア、通信製品、およびドキュメンテーションも計算に入れてください。

7
7
7
7
7
7
7
7
7

ディスク・スペース要件 (AIX)

以下の表は、DB2 Information Integrator のインストールに必要な最小限のディスク・スペース容量を示しています。

表 5. AIX に DB2 Information Integrator をインストールする場合のディスク・スペース所要量

製品またはコンポーネント	AIX® 4.3.3 の ディスク・スペース	AIX 5L の ディスク・スペース
DB2 Information Integrator インストール・ウィザード	50 MB から 80 MB	50 MB から 80 MB

表 5. AIX に DB2 Information Integrator をインストールする場合のディスク・スペース所要量 (続き)

製品またはコンポーネント	AIX® 4.3.3 の ディスク・スペース	AIX 5L の ディスク・スペース
DB2 Universal Database Enterprise Server Edition バージョン 8.2。 Q レプリケーションは、DB2 Universal Database™ 用のディスク・スペースの一部を占めます。 Q レプリケーションを使用するには、DB2 Information Integrator のライセンスが必要です。	330 MB から 460 MB	490 MB から 630 MB
リレーショナル・ラッパー	5 から 20 MB	5 から 20 MB
非リレーショナル・ラッパー	5 から 20 MB	5 から 20 MB
DB2 XML メタデータ・レジストリー	40 MB	40 MB
DB2 用のアプリケーション・サーバー	110 MB	110 MB

ディスク・スペース要件 (HP-UX)

以下の表は、DB2 Information Integrator のインストールに必要な最小限のディスク・スペース容量を示しています。

表 6. HP-UX に DB2 Information Integrator をインストールする場合のディスク・スペース所要量

製品またはコンポーネント	ディスク・スペース
DB2 Information Integrator インストール・ウィザード	50 MB から 80 MB
DB2 Universal Database Enterprise Server Edition バージョン 8.2。 Q レプリケーションは、DB2 Universal Database 用のディスク・スペースの一部を占めます。 Q レプリケーションを使用するには、DB2 Information Integrator のライセンスが必要です。	480 MB から 620 MB
リレーショナル・ラッパー	5 から 20 MB
非リレーショナル・ラッパー	5 から 20 MB
DB2 XML メタデータ・レジストリー	40 MB
DB2 用のアプリケーション・サーバー	250 MB

ディスク・スペース要件 (Linux)

以下の表は、DB2 Information Integrator のインストールに必要な最小限のディスク・スペース容量を示しています。

表 7. Linux に DB2 Information Integrator をインストールする場合のディスク・スペース所要量

製品またはコンポーネント	ディスク・スペース
DB2 Information Integrator インストール・ウィザード	50 MB から 80 MB

表7. Linux に DB2 Information Integrator をインストールする場合のディスク・スペース所要量 (続き)

製品またはコンポーネント	ディスク・スペース
DB2 Universal Database Enterprise Server Edition バージョン 8.2。 Q レプリケーションは、DB2 Universal Database 用のディスク・スペースの一部を占めます。 Q レプリケーションを使用するには、DB2 Information Integrator のライセンスが必要です。	380 MB から 480 MB
リレーショナル・ラッパー	5 から 20 MB
非リレーショナル・ラッパー	5 から 20 MB
DB2 XML メタデータ・レジストリー	40 MB
DB2 用のアプリケーション・サーバー	100 から 120 MB

ディスク・スペース要件 (Sun Solaris)

以下の表は、DB2 Information Integrator のインストールに必要な最小限のディスク・スペース容量を示しています。

表8. Solaris に DB2 Information Integrator をインストールする場合のディスク・スペース所要量

製品またはコンポーネント	ディスク・スペース
DB2 Information Integrator インストール・ウィザード	50 MB から 80 MB
DB2 Universal Database Enterprise Server Edition バージョン 8.2。 Q レプリケーションは、DB2 Universal Database 用のディスク・スペースの一部を占めます。 Q レプリケーションを使用するには、DB2 Information Integrator のライセンスが必要です。	530 MB から 640 MB
リレーショナル・ラッパー	5 から 20 MB
非リレーショナル・ラッパー	5 から 20 MB
DB2 XML メタデータ・レジストリー	40 MB
DB2 用のアプリケーション・サーバー	143 MB

ディスク・スペース要件 (Windows)

以下の表は、DB2 Information Integrator のインストールに必要な最小限のディスク・スペース容量を示しています。

表9. Windows に DB2 Information Integrator をインストールする場合のディスク・スペース所要量

製品またはコンポーネント	Windows
DB2 Information Integrator インストール・ウィザード	50 MB から 80 MB
DB2 Universal Database Enterprise Server Edition バージョン 8.2。 Q レプリケーションは、DB2 Universal Database 用のディスク・スペースの一部を占めます。 Q レプリケーションを使用するには、DB2 Information Integrator のライセンスが必要です。	390 MB

7 表9. Windows に DB2 Information Integrator をインストールする場合のディスク・スペース
7 所要量 (続き)

製品またはコンポーネント	Windows
リレーショナル・ラッパー	5 から 20 MB
非リレーショナル・ラッパー	5 から 20 MB
DB2 XML メタデータ・レジストリー	40 MB
DB2 用のアプリケーション・サーバー	110 MB

メモリー要件

以下の表は、DB2 Information Integrator のインストールの場合の最小メモリー要件を示しています。各製品のインストールでのメモリー要件は、構成によって異なります。インストールの完了に十分な使用可能メモリーを確保するため、DB2 Information Integrator をインストールする際には、実行中のすべてのプログラムをクローズしてください。

表10. DB2 Information Integrator のメモリー要件

製品またはコンポーネント	最小メモリー所要量
DB2 Universal Database (Windows® および UNIX®)	256 MB
リレーショナル・ラッパー、非リレーショナル・ラッパー、および Q レプリケーション。	ラッパーと Q レプリケーションには、DB2 Universal Database の所要量以上の特別な要件はありません。
DB2 XML メタデータ・レジストリー	DB2 XML メタデータ・レジストリーには、DB2 Universal Database の所要量以上の特別な要件はありません。
DB2 用のアプリケーション・サーバー	256 MB

個々のインストール・システムのメモリー所要量を確かめるには、以下の要因を考察してみてください。

- DB2 Information Integrator ソフトウェア以外のソフトウェアに追加のメモリーが必要になることがあります。
- データベース・クライアントをサポートするのに、追加のメモリーが必要です。
- 個々のパフォーマンス上の要件によって、必要なメモリー量が決定されることがあります。
- メモリー所要量は、構成のサイズと複雑さによって影響を受けます。
- メモリー所要量は、データベース・アクティビティーの範囲と、システムにアクセスするクライアント数によって影響を受けます。

関連タスク:

- 54 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (Windows)』
- 63 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (UNIX)』

関連資料:

- 「DB2 Universal Database サーバー機能 概説およびインストール」の『DB2 サーバーのインストール要件 (Windows)』

- 「DB2 Universal Database サーバー機能 概説およびインストール」の『DB2 サーバーのインストール要件 (AIX)』
- 「DB2 Universal Database サーバー機能 概説およびインストール」の『DB2 サーバーのインストール要件 (HP-UX)』
- 「DB2 Universal Database サーバー機能 概説およびインストール」の『DB2 サーバーのインストール要件 (Linux)』
- 「DB2 Universal Database サーバー機能 概説およびインストール」の『DB2 サーバーのインストール要件 (Solaris)』
- 19 ページの『DB2 Information Integrator のインストールに関する資料』
- 35 ページの『DB2 Information Integrator のソフトウェア要件』
- 47 ページの『DB2 Information Integrator インストール・ワークシート』

DB2 Information Integrator のソフトウェア要件

DB2 Information Integrator 製品とそのコンポーネントのソフトウェア要件は、構成によって異なります。

DB2 Information Integrator をインストールする場合は、システムが以下のソフトウェア要件を満たしていることを事前に確認してください。

- DB2 Information Integrator のインストール先のシステムは、グラフィカル・ユーザー・インターフェースをサポートしていなければなりません。DB2 Information Integrator インストール・ウィザードと DB2 セットアップ・ウィザードを実行し、DB2 コントロール・センターなどの一部の DB2 Universal Database ツールを使用するには、グラフィカル・ユーザー・インターフェースのサポートが必要です。
- 必要なすべてのデータ・ソース・クライアント・ソフトウェアをインストールする必要があります。計画どおりのデータ・ソース・クライアント・ソフトウェアに必要なハードウェアとソフトウェアを忘れずに組み込んでください。
- 使用したい製品とコンポーネントをサポートするエディションの DB2 Universal Database をインストールしなければなりません。インストールしようとしているコンポーネントが、使用したいエディションの DB2 Universal Database での使用をサポートされているものであることを確認してください。オペレーティング・システム別の、各エディションの DB2 Universal Database での使用をサポートされている製品とコンポーネントの詳細は、DB2 Information Integrator でサポートされるオペレーティング・システム (32 ビット) と DB2 Information Integrator でサポートされるオペレーティング・システム (64 ビット) を参照してください。以下のエディションの DB2 Universal Database がサポートされています。
 - DB2 Universal Database Enterprise Server Edition。DB2 Universal Database がまだインストールされていない場合、このエディションは、DB2 Information Integrator のインストール・プロセス中にインストールされます。
 - DB2 Universal Database Connect Enterprise Edition。
 - DB2 Universal Database Personal Edition
 - DB2 Universal Database Workgroup Server Edition
 - DB2 Universal Database Express Edition

- DB2 コントロール・センターなどの Java ベースのツールを使用したり、ストアード・プロシージャやユーザー定義関数を含めた Java™ アプリケーションを作成したりするには、それに適した SDK が必要です。DB2 セットアップ・ウィザードを実行するか、または DB2 Information Integrator インストール・ウィザードを実行して、32 ビットオペレーティング・システムに DB2 Universal Database をインストールすると、それに合った正しい SDK がインストールされます。AIX、HP-UX、または Solaris に DB2 Universal Database をインストールすると、32 ビットの SDK だけがインストールされます。DB2 Information Integrator または DB2 Universal Database のメディア・パック内の CD から 64 ビットの SDK をインストールしなければなりません。

関連タスク:

- 54 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (Windows)』
- 63 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (UNIX)』

関連資料:

- 「DB2 Universal Database サーバー機能 概説およびインストール」の『DB2 サーバーのインストール要件 (Windows)』
- 「DB2 Universal Database サーバー機能 概説およびインストール」の『DB2 サーバーのインストール要件 (AIX)』
- 「DB2 Universal Database サーバー機能 概説およびインストール」の『DB2 サーバーのインストール要件 (HP-UX)』
- 「DB2 Universal Database サーバー機能 概説およびインストール」の『DB2 サーバーのインストール要件 (Linux)』
- 「DB2 Universal Database サーバー機能 概説およびインストール」の『DB2 サーバーのインストール要件 (Solaris)』
- 「DB2 Universal Database サーバー機能 概説およびインストール」の『ディスクおよびメモリの要件 (Windows および UNIX)』
- 31 ページの『DB2 Information Integrator のハードウェア要件』
- 19 ページの『DB2 Information Integrator のインストールに関する資料』
- 47 ページの『DB2 Information Integrator インストール・ワークシート』

DB2 Information Integrator でサポートされるオペレーティング・システム (32 ビット)

以下の 32 ビット・オペレーティング・システムが DB2 Information Integrator でサポートされています。サポートされているオペレーティング・システムの最新情報は、www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/support.html の DB2 Information Integrator サポート・サイトを参照してください。

AIX

32 ビットの IBM® AIX 4.3.3 および IBM AIX 5L 上の指定エディションの DB2 Universal Database では、以下の DB2 Information Integrator 製品とコンポーネントの使用がサポートされています。

7
7
7
7
7
7
7
7
7
7
7
7
7
7
7
7
7
7
7
7
7

DB2 Universal Database のエディション	製品および コンポーネント
DB2 Universal Database Enterprise Server Edition および DB2 Universal Database Connect Enterprise Edition	Q レプリケーション (DB2 Universal Database Enterprise Server Edition に付属) OLE DB 以外のすべてのリレーショナル・ラッパー Microsoft® Excel 以外のすべての非リレーショナル・ラッパー ライフ・サイエンス・ユーザー定義関数 KEGG ユーザー定義関数 ラッパー開発キット DB2 Net Search Extender DB2 XML メタデータ・レジストリー
DB2 Universal Database Workgroup Server Edition	Q レプリケーション

HP-UX

32 ビットの HP-11i 上の指定エディションの DB2 Universal Database では、以下の DB2 Information Integrator 製品とコンポーネントの使用がサポートされています。

7 7	DB2 Universal Database のエディション DB2 Universal Database Enterprise Server Edition および DB2 Universal Database Connect Enterprise Edition	製品およびコンポーネント Q レプリケーション (DB2 Universal Database Enterprise Server Edition に付属) 次のリレーショナル・ラッパーがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> • DRDA® • Informix® • Microsoft SQL Server • Oracle NET8 • ODBC • Sybase CTLIB • Teradata 次の非リレーショナル・ラッパーがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> • 表構造ファイル • XML ラッパー開発キット DB2 Net Search Extender DB2 XML メタデータ・レジストリー
7 7 7	DB2 Universal Database Workgroup Server Edition	Q レプリケーション

Linux

以下の Linux オペレーティング・システムでの DB2 Information Integrator の使用がサポートされています。

- Red Hat Linux バージョン 7.2 以降
- Red Hat Enterprise Linux バージョン 2.1 および 3.0
- SUSE LINUX Enterprise Server 8

32 ビットの Linux 上の指定エディションの DB2 Universal Database では、以下の DB2 Information Integrator 製品とコンポーネントの使用がサポートされています。

7	DB2 Universal Database のエディション	製品および コンポーネント
7	DB2 Universal Database Enterprise Server Edition および DB2 Universal Database Connect Enterprise Edition	Q レプリケーション (DB2 Universal Database Enterprise Server Edition に付属) 次のリレーショナル・ラッパーがサポートさ れています。 <ul style="list-style-type: none"> • DRDA • Informix • Microsoft SQL Server • ODBC • Oracle NET8 • Sybase CTLIB • Teradata 次の非リレーショナル・ラッパーがサポート されています。 <ul style="list-style-type: none"> • BioRS • BLAST • Documentum • Entrez • IBM Lotus Extended Search • HMMER • 表構造ファイル • XML ライフ・サイエンス・ユーザー定義関数 KEGG ユーザー定義関数 ラッパー開発キット DB2 Net Search Extender DB2 XML メタデータ・レジストリー
7	DB2 Universal Database Workgroup Server Edition	Q レプリケーション

Windows

以下の Windows オペレーティング・システムでの DB2 Information Integrator の使
用がサポートされています。

- Microsoft Windows NT[®] 4 Workstation
- Microsoft Windows NT 4 Server Enterprise Edition
- Microsoft Windows 2000 Professional Edition
- Microsoft Windows XP Professional Edition
- Microsoft Windows XP Home Edition
- Microsoft Windows Server 2000

- Microsoft Windows Server 2003

DB2 Universal Database Enterprise Server Edition および DB2 Universal Database Connect Enterprise Edition の開発とテストが、Windows XP Professional Edition、Windows 2000 Professional Edition、および Windows NT Workstation 上でサポートされています。

以下のエディションの Windows で、DB2 XML メタデータ・レジストリーの使用がサポートされています。

- Windows NT 4 Workstation
- Windows NT 4 Server Enterprise Edition
- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Server 2003

32 ビットの Windows 上の指定エディションの DB2 Universal Database では、以下の DB2 Information Integrator 製品とコンポーネントの使用がサポートされています。

DB2 Universal Database のエディション	製品およびコンポーネント
DB2 Universal Database Enterprise Server Edition および DB2 Universal Database Connect Enterprise Edition	Q レプリケーション (DB2 Universal Database Enterprise Server Edition に付属) すべてのリレーショナル・ラッパー すべての非リレーショナル・ラッパー GeneWise 以外のすべてのライフ・サイエンス・ユーザー定義関数 KEGG ユーザー定義関数 ラッパー開発キット DB2 Net Search Extender DB2 XML メタデータ・レジストリー
DB2 Universal Database Workgroup Server Edition	Q レプリケーション
DB2 Universal Database Personal Edition	Q レプリケーション
DB2 Universal Database Express Edition	Q レプリケーション

DB2 Information Integrator でサポートされるオペレーティング・システム (64 ビット)

このトピックで説明しているオペレーティング・システムに DB2 Information Integrator をインストールすることができます。サポートされているオペレーティング・システムの最新情報は、www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/support.html の DB2 Information Integrator サポート・サイトを参照してください。

AIX

64 ビットの AIX 5L 上の DB2 Universal Database Enterprise Server Edition と DB2 Universal Database Connect Enterprise Edition では、以下の DB2 Information Integrator 製品とコンポーネントの使用がサポートされています。

- リレーショナル・ラッパー:
 - DRDA
 - Informix
 - Oracle NET8
 - Sybase CTLIB
- 非リレーショナル・ラッパー: 表構造ファイル
- DB2 Net Search Extender
- Q レプリケーション (DB2 Universal Database Enterprise Server Edition に付属)

HP-UX

64 ビットの HP-UX 11i 上の DB2 Universal Database Enterprise Server Edition および DB2 Universal Database Connect Enterprise Edition では、以下の DB2 Information Integrator 製品とコンポーネントの使用がサポートされています。

- リレーショナル・ラッパー:
 - DRDA
 - Informix
 - Oracle NET8
 - Sybase CTLIB
- 非リレーショナル・ラッパー: 表構造ファイル
- DB2 Net Search Extender
- Q レプリケーション (DB2 Universal Database Enterprise Server Edition に付属)

Linux

以下の Linux オペレーティング・システムでの DB2 Information Integrator の使用がサポートされています。

- Red Hat Linux バージョン 7.2 以降
- Red Hat Enterprise Linux 3.0
- SuSE Linux Enterprise Server 8

64 ビットの Linux オペレーティング・システム上の DB2 Information Integrator および DB2 Universal Database Enterprise Server Edition または DB2 Universal Database Connect Enterprise Edition では、DRDA ラッパーの使用がサポートされています。

Solaris

64 ビットの Solaris バージョン 7、8、および 9 上の DB2 Universal Database Enterprise Server Edition および DB2 Universal Database Connect Enterprise Edition では、以下の DB2 Information Integrator コンポーネントの使用がサポートされています。

- リレーショナル・ラッパー:

- 7 - DRDA
- 7 - Informix
- 7 - Oracle NET8
- 7 - Sybase CTLIB
- 7 • 非リレーショナル・ラッパー:
- 7 表構造ファイル
- 7 • DB2 Net Search Extender
- 7 • Q レプリケーション (DB2 Universal Database Enterprise Server Edition に付属)

7 **Windows**

7 Microsoft Windows XP および Microsoft Windows Server 2003 の 64 ビット・オペ
7 レーティング・システム上の DB2 Universal Database Enterprise Server Edition およ
7 び DB2 Universal Database Connect Enterprise Edition では、以下の DB2
7 Information Integrator コンポーネントの使用がサポートされています。

- 7 • DRDA
- 7 • OLE DB

7 Windows 32 ビット・オペレーティング・システムへのインストールでは、DB2
7 Information Integrator インストール・ウィザードがサポートされます。 Windows 64
7 ビット・オペレーティング・システムに OLE DB または DRDA ラッパーをインス
7 トールするには、DB2 Universal Database を別にインストールする必要があります。
7 す。

7 DB2 Universal Database Enterprise Server Edition および DB2 Universal Database
7 Connect Enterprise Edition の開発とテストが、Windows XP Professional Edition 上
7 でサポートされています。

7 **関連概念:**

- 7 • 17 ページの『DB2 Information Integrator のインストール - 概要』

7 **関連タスク:**

- 7 • 54 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (Windows)』

7 **サポートされるデータ・ソース**

7 フェデレーテッド・システムを使用してアクセスできるデータ・ソースはたくさん
7 あります。次の表は、サポートされるデータ・ソースを示しています。

7 表 11. サポート対象データ・ソースのバージョンおよびアクセス方式

7 データ・ソース	7 サポートされる 7 バージョン	7 アクセス方式
7 DB2 Universal Database™ 7 for Linux, UNIX, and 7 Windows®	7 7.2、8.1、8.2	7 DRDA®

表 11. サポート対象データ・ソースのバージョンおよびアクセス方式 (続き)

データ・ソース	サポートされるバージョン	アクセス方式
DB2 Universal Database for z/OS™ and OS/390®	6.1、7.1 で以下の APAR が適用されているもの: <ul style="list-style-type: none"> • PQ62695 • PQ55393 • PQ56616 • PQ54605 • PQ46183 • PQ62139 	DRDA
	8.1	
DB2 Universal Database for iSeries™	5.1 <ul style="list-style-type: none"> • 以下の APAR が適用されているもの: <ul style="list-style-type: none"> – SE06003 – SE06872 – II13348 • 以下の PTF が適用されているもの: <ul style="list-style-type: none"> – SI05990 	DRDA
	5.2 で PTF SI0735 が適用されているもの。	
DB2 Server for VM and VSE	7.1 (またはそれ以降) でスキーマ関数用の APAR のフィックスが適用されているもの。	DRDA
Informix™	7.31、 8.32、 8.4、 9.3、 9.4	Informix Client SDK V2.7 以上
ODBC	3.x	データ・ソース用の ODBC ドライバー (Redbrick にアクセスする場合は Redbrick ODBC ドライバー、など)
OLE DB	2.7、 2.8	OLE DB 2.0 以上
Oracle	8.0.6、 8.1.6、 8.1.7、 9.0、 9.1、 9.2、 9i、 10g	Oracle ネット・クライアントまたは NET8 クライアント・ソフトウェア

表 11. サポート対象データ・ソースのバージョンおよびアクセス方式 (続き)

データ・ソース	サポートされるバージョン	アクセス方式
Microsoft SQL Server	7.0、2000 SP3 およびそのリリースでそれ以降のサービス・パックが適用されたもの	Windows では、Microsoft SQL Server Client ODBC 3.0 (またはそれ以降の) ドライバー UNIX では、DataDirect Technologies (以前の MERANT) Connect ODBC 3.7 (またはそれ以降の) ドライバー
Sybase	11.9.2、12.x	Sybase Open Client ctlib インターフェース
Teradata	V2R3、V2R4、V2R5	Teradata Call-Level Interface, Version 2 (CLIV2) Release 04.06 (またはそれ以降)
BLAST	2.2.3 以降、2.2 フィックス・パッケージがサポートされる	BLAST デーモン (ラッパーと一緒に提供される)
BioRS	v5.0.14	なし
Documentum	3.x、4.x	Documentum Client ライブラリー/APL3.1.7a 以上
Entrez (PubMed および GenBank データ・ソース)	1.0	なし
HMMER	2.2g、2.3	HMMER デーモン (ラッパーと一緒に提供される)
IBM Lotus Extended Search	4.0.1、4.0.2	Extended Search クライアント・ライブラリー (ラッパーと一緒に提供される)
Microsoft Excel	97、2000、2002、2003	フェデレーテッド・サーバーにインストールされている Excel 97、2000、2002、または 2003
PeopleSoft	8.x	IBM WebSphere Business Integration Adapter for PeopleSoft v2.3.1、2.4
SAP	3.x、4.x	IBM WebSphere Business Integration Adapter for mySAP.com v2.3.1、2.4
Siebel	7、7.5、2000	IBM WebSphere Business Integration Adapter for Siebel eBusiness Applications v2.3.1、2.4
表構造ファイル		なし
KEGG 用ユーザー定義関数	サポートされる	

表 11. サポート対象データ・ソースのバージョンおよびアクセス方式 (続き)

データ・ソース	サポートされるバージョン	アクセス方式
Life Sciences 用ユーザー定義関数	サポートされる	
Web サービス	SOAP 1.0、1.1、WSDL 1.0、1.1 仕様	HTTP
XML	1.0 仕様	なし

関連概念:

- 3 ページの『データ・ソースとは?』

DB2 XML メタデータ・レジストリーでサポートされる Web ブラウザー

DB2 XML メタデータ・レジストリーでは、次の Web ブラウザーの使用がサポートされています。

オペレーティング・システム	サポートされるブラウザー
AIX	Netscape 6 以降
HP-UX	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Internet Explorer 5 以降 • Netscape 6.1 以降
Linux	<ul style="list-style-type: none"> • Netscape 7 以降 • Mozilla 1.0.2 以降
Solaris	Netscape 6 以降
Windows	Microsoft Internet Explorer 6 以降

関連タスク:

- 84 ページの『XML メタデータ・レジストリーのインストール』

- 7
- 46 ページの『DB2 XML メタデータ・レジストリーでサポートされる Web ブラウザー』
- 7

第 3 章 DB2 Information Integrator のインストール

この章では、以下のタスクを完了するための方法を説明します。

- DB2 Information Integrator 製品とコンポーネントのインストール
- DB2 Information Integrator のインストール後のラッパーとユーザー定義関数の追加
- あるエディションの DB2 Information Integrator から別のエディションへの変更
- DB2 Information Integrator のフィックスパックのインストール
- DB2 インフォメーション・センターのインストール

DB2 Information Integrator のリレーショナル・ラッパーのインストールに関する前提条件

DB2 Information Integrator リレーショナル・ラッパーをインストールする場合、インストールしようとしている各ラッパーの前提条件が満たされていることを事前に確認してください。DB2 Information Integrator で必要なシステムおよびクライアント・ソフトウェア用のすべての PTF または APAR を必ずインストールしてください。必要な PTF および APAR に関する詳細は、www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/support.html の DB2 Information Integrator サポート・サイトを参照してください。

データ・ソース・クライアント・ソフトウェアが必要な場合、ラッパーをインストールする前に、アクセスしたい各フェデレーテッド・データ・ソースごとにクライアント・ソフトウェアをインストール、構成、およびテストしてください。データ・ソース・クライアント・ソフトウェアに用意された照会ツールを使用して、接続をテストします。推奨された順序でソフトウェアをインストールすると、DB2 Universal Database に対して環境変数が設定され、クライアント・ソフトウェアがリンクされます。データ・ソース・クライアント・ソフトウェアのインストール前に、データ・ソース・ソフトウェアを必要とするリレーショナル・ラッパーをインストールする場合、その作業を手作業で完了する必要があります。

DB2 ファミリー・データ・ソース

DB2 ファミリー・データ・ソース・サポートをインストールしたい場合に、DB2 Information Integrator のインストールの前に DB2 Universal Database をインストールするには、インストール中に以下のステップを行う必要があります。

- 「標準」または「カスタム」インストール・オプションを選択して、DB2 ファミリー・データ・ソース用のフェデレーテッド・サポートをインストールします。
- DB2 Universal Database のインストール先のシステム上に DB2 インスタンスを作成して、そのインスタンス用の権限を指定します。

7 DRDA ラッパーを使って以下の DB2 ファミリー・データ・ソースにアク
7 セスするには、DB2 Universal Database Enterprise Server Edition をインスト
7 ールしなければなりません。

- 7 • DB2 Universal Database for Linux、UNIX、Windows
- 7 • DB2 Universal Database for z/OS and OS/390
- 7 • DB2 Universal Database for iSeries
- 7 • DB2 Server for VM and VSE

7 DRDA ラッパーを使って DB2 Universal Database for Linux、UNIX、
7 Windows データ・ソースにアクセスするには、DB2 Universal Database
7 Enterprise Server Edition または DB2 Universal Database Workgroup Server
7 Edition をインストールしなければなりません。これには、ローカルとりモ
7 ートのデータ・ソースも含まれます。

7 Informix データ・ソース

- 7 • DB2 Information Integrator インストール・ウィザードを使って DB2
7 Universal Database をインストールする場合、このウィザードの「製品の
7 選択」ページの「カスタム・データ・ソース・サポート」オプションを選
7 択する必要があります。

7 ただし、DB2 Information Integrator のインストールの前に DB2 Universal
7 Database をインストールする場合、DB2 Universal Database のインストー
7 ル時に以下のステップを行う必要があります。

- 7 - 「カスタム」インストール・オプションを選択して、Informix デー
7 タ・ソース用のフェデレーテッド・サポートをインストールします。
- 7 - DB2 Universal Database のインストール先のシステム上に DB2 イン
7 スタンスを作成して、そのインスタンス用の権限を指定します。
- 7 • AIX の場合、Informix Client SDK には AIX Base Application
7 Development Math Library が必要です。

7 Microsoft SQL Server データ・ソース

- 7 • フェデレーテッド・サーバーとして働くサーバー上に、ODBC ドライバ
7 ーをインストールして構成します。
 - 7 - UNIX では、DataDirect Technologies Connect ODBC ドライバーをイ
7 ンストールして構成します。
 - 7 - Windows では、Microsoft SQL Server Client バージョン 2000 ドライ
7 バーは通常、Windows のインストール時にインストールします。この
7 ドライバーがインストールされていることを確認し、Microsoft SQL
7 Server データ・ソースにアクセスするようにドライバーを構成する必
7 要があります。
 - 7 - このドライバーがインストールされていることを確認するには、
7 Windows の「コントロール パネル」から、「Microsoft ODBC デー
7 タ ソース アドミニストレータ」にアクセスします。「ドライバ」
7 タブをクリックし、2000 ドライバーがインストールされているこ
7 とを確認します。

7 - Microsoft SQL Server データ・ソースをシステム DSN として登録
7 するには、「構成」をクリックして、Microsoft SQL Server デー
7 タ・ソースへの接続をテストします。

7 Microsoft SQL Server 2000 Personal Edition を使用する場合は、SQL
7 Server のクライアント ネットワーク ユーティリティを使用して、新
7 しい SQL Server ODBC データ・ソースを ODBC の「システム
7 DSN」リストに追加する必要があります。

7 ドライバーをインストールして構成する方法の詳細は、ODBC ドライバ
7 ーに添付された資料にあるインストール手順を参照してください。

- 7 • Microsoft SQL Server ラッパーをインストールすると、インストール・ウ
7 ィザードから次のような情報をプロンプトでたずねられます。
 - 7 - ODBC ドライバーのインストール先のローカル・パス。
 - 7 - ODBC ドライバー・マネージャー・ディレクトリーのローカル・パ
7 ス。
 - 7 - ODBC トレース・ディレクトリーのローカル・パス。
 - 7 - ODBC ライブラリーのローカル・パス。

7 **ODBC データ・ソース**

7 フェデレーテッド・サーバーに ODBC ドライバーをインストールして構成
7 します。そのインストールと構成の手順については、ODBC ドライバーの
7 資料を参照してください。

7 Microsoft の ODBC データ ソース アドミニストレータを使用している場
7 合は、その ODBC データ・ソースをシステム DSN として登録して、DB2
7 Universal Database が DSN を検出できるようにしてください。

7 **OLE DB データ・ソース**

7 OLE DB ラッパーには、OLE DB Provider が必要です。OLE DB コンポ
7 ーネントは Microsoft Data Access Component (MDAC) の一部であり、
7 DB2 Universal Database CD または Microsoft の Web サイトから入手す
7 ることができます。

7 **Oracle データ・ソース**

- 7 • Oracle の正しいバージョンのデータ・ソース・ソフトウェアを使用し
7 ていることを確認します。
- 7 • 以下の構成を使用する予定の場合、genclntsh スクリプトを編集して
7 libclntsh.so ファイルを作成してから、DB2 Information Integrator をイン
7 ストールする必要があります。そうしないと、Oracle および NET8 ラッ
7 パーが関与するリモート操作を試みたときに、フェデレーテッド・イン
7 スタンスは失敗します。
 - 7 - Oracle 9i クライアント
 - 7 - Oracle NET8 ラッパー
 - 7 - Linux、Solaris、または HP-UX オペレーティング・システムのいずれ
7 かを実行するフェデレーテッド・サーバー
- 7 • UNIX フェデレーテッド・サーバー上の 64 ビット Oracle NET8 ラッパ
7 ーは Oracle 9i クライアント・ライブラリー libclntsh.<suffix> を使用
7 します。ただし、<suffix> はプラットフォームによって決定される接尾

7 部です。libclntsh ライブラリーは \$ORACLE_HOME/lib ディレクトリ
7 ーにあります。このライブラリーを確実にインストールするには、サーバ
7 ー・インストールを使用して Oracle 9i クライアントをインストールする
7 必要があります。カスタム・オプションを使用すると、サーバ固有の機
7 能を除去することができます。

7 Sybase データ・ソース

1 頻繁にアクセスが行われる環境で Sybase Adaptive Server Enterprise を使用
1 する場合、バージョン 12.5.0.3 以上をインストールしてください。その他
1 のバージョンの Sybase Adaptive Server Enterprise には、確認済みの配列の
1 オーバーラン問題があります。

1 Sybase Adaptive Server Enterprise バージョン 11.9 で Sybase ラッパーを使用
1 する場合、バージョン 11.9.2.6 以降を使用しなければなりません。これ
1 らのバージョンのいずれかがインストールされていない場合、Sybase サー
1 ー上に最新の Emergency Bug Fix (EBF) をインストールする必要があります。
1

7 Teradata データ・ソース

7 • Teradata の TCP/IP ホスト・ファイルをセットアップします。AIX で
7 は、ホスト・ファイルは /etc ディレクトリー内にあります。Windows
7 では、これは X:¥WINNT¥system32¥drivers¥etc¥hosts ディレクトリー内に
7 あります。X は、¥WINNT ディレクトリーが置かれているドライブで
7 す。リモート Teradata サーバーへの接続要求を正常に完了するには、事
7 前に各クライアント上でこのファイルをセットアップしておく必要があります。
7 たとえば、次のような行をこのホスト・ファイルに追加します。

7 nnn.nnn.nnn.nnn tdatsvr.companyname.com tdatsvrCOP1

7 - nnn.nnn.nnn.nnn は、リモート・サーバーの TCP/IP アドレスです。

7 - tdatsvr.companyname.com は、リモート・サーバーに関連付けられたシ
7 ンボル名です。

7 - tdatsvrCOP1 は、リモート・サーバーの別名です。この別名は英字スト
7 リングで始まり、COPn 接尾部で終わらなければなりません。この n
7 は、1 から、Teradata 通信プロセッサに関連付けられているアプリ
7 ケーション・プロセッサの総数までの数値です。

7 • クライアント・ソフトウェアがサーバーに接続できることを確認するに
7 は、Basic Teradata Query (BTEQ) ツールを使用して接続をテストしま
7 す。これは Teradata 提供のツールであり、使用するためには、あらかじめ
7 インストールしておく必要があります。

7 • AIX では、DB2 Information Integrator インストール・プログラムには以
7 下の情報が必要です。

7 - libcliv2.so ライブラリーのインストール先のローカル・パス。

7 - errmsg.txt ファイルが常駐するローカル・パス。

7 Windows ではこの情報を入力する必要はありません。

7 • Teradata クライアントのインストール、構成、およびテストについては、
7 Teradata の資料を参照してください。

7 関連タスク:

- 7 • 54 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (Windows)』
- 7 • 63 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (UNIX)』

7 **関連資料:**

- 7 • 43 ページの『サポートされるデータ・ソース』
- 7 • 36 ページの『DB2 Information Integrator でサポートされるオペレーティング・システム (32 ビット)』
- 7 • 41 ページの『DB2 Information Integrator でサポートされるオペレーティング・システム (64 ビット)』

7 DB2 Information Integrator の環境変数

7 DB2 Information Integrator のインストールの前にデータ・ソース・クライアント・ソフトウェアがインストール済みであった場合、インストールしようとしているリレーショナル・ラッパーに必要な環境変数はインストール・ウィザードによって設定されます。DB2 Information Integrator のインストール時にデータ・ソース・クライアント・ソフトウェアが未インストールであった場合、データ・ソースへのアクセスのためにフェデレーテッド・システムを構成するときに、DB2 インスタンス・ディレクトリー内の db2dj.ini ファイル内で環境変数を手動で設定する必要があります。

7 db2dj.ini ファイルは、ご使用のオペレーティング・システムに応じて、以下のいずれかのディレクトリーに置かれています。

- 7 • Windows: x:¥SQLLIB¥cfg

7 x:¥SQLLIB は、DB2PATH レジストリー変数または環境変数に指定されるパスです。

- 7 • UNIX: INSTHOME/sqllib/cfg

7 INSTHOME は、インスタンス所有者のホーム・ディレクトリーです。

7 DB2_DJ_INI レジストリー変数を別のパスに設定すれば、db2dj.ini ファイルのデフォルト・パスをオーバーライドすることができます。

7 表 12. 有効なデータ・ソース環境変数

7 データ・ソース	7 必須の環境変数	7 オプションの環境変数
7 Documentum	7 Documentum には、以下の環境変数を両方とも指定する必要はありません。	7 なし
	7 DOCUMENTUM	
	7 DMCL_CONFIG	
7 Informix	7 INFORMIXDIR	7 INFORMIXSQLHOSTS
	7 INFORMIXSERVER	7 CLIENT_LOCALE
		7 DB_LOCALE
		7 DBNLS

表 12. 有効なデータ・ソース環境変数 (続き)

データ・ソース	必須の環境変数	オプションの環境変数
Oracle	ORACLE_HOME	ORACLE_BASE
		ORA_NLS
		TNS_ADMIN
		NLS_LANG
Microsoft SQL Server	以下の環境変数は、UNIX システムでは必要です。	なし
	DJX_ODBC_LIBRARY_PATH	
	ODBCINI	
	DB2LIBPATH	
	DB2ENVLIST	
	LD_LIBRARY_PATH (Solaris)	
	SHLIB_PATH (HP-UX)	
Sybase	SYBASE	SYBASE_CHARSET
		SYBASE_OCS (Sybase バージョン 12 以上では必要)
Teradata	COPERR (UNIX)	TERADATA_CHARSET
		COPLIB

関連タスク:

- 54 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (Windows)』
- 63 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (UNIX)』
- 「IBM DB2 Information Integrator データ・ソース構成ガイド」の『データ・ソース環境変数の設定』

DB2 Information Integrator のインストール (Windows)

以下のトピックは、Windows システムに DB2 Information Integrator をインストールする方法を説明しています。

DB2 Information Integrator のインストール (Windows)

DB2 Universal Database Enterprise Server Edition バージョン 8.2 は、「標準」インストール・オプションを介して DB2 Information Integrator と一緒にインストールされます。DB2 Universal Database のインストールで「カスタム」または「コンパクト」オプションを使用したい場合、最初に DB2 Universal Database をインストールする必要があります。DB2 Information Integrator をインストールするときは、リレーショナル・ラッパー、非リレーショナル・ラッパーもインストールすることができます。KEGG とライフ・サイエンスのユーザー定義関数は、非リレーショナル・

7 ラッパーのライフ・サイエンス・ユーザー定義関数コンポーネントと一緒にインス
7 トールされます。 DB2 Information Integrator 製品のライセンス・キーをインストー
7 ルすると、Q レプリケーションが使用可能になります。

7 別のディレクトリーを指定しないかぎり、DB2 Universal Database はデフォルトで
7 は、¥Program Files¥IBM¥SQLLIB ディレクトリーにインストールされます。

7 サポートされているエディションおよびバージョンの DB2 Universal Database が正
7 しいレベルですでにインストールされていれば、DB2 Information Integrator インス
7 トール・ウィザードによって検出されます。

7 DB2 Universal Database バージョン 8.2 フィックスパック 8 以上がインストール済
7 みの場合、DB2 Information Integrator をインストールした後でそのフィックスパッ
7 クを再インストールする必要があります。

7 www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/support.html の DB2 Information Integrator
7 サポート・サイトの DB2 Information Integrator フィックスパックのインストールに
7 関する説明に従ってください。

7 前提条件:

- 7 • インストールしようとしているすべての製品およびコンポーネントのインストー
7 ル、メモリー、およびディスク・スペースの要件がシステムで満たされていること
7 を確認してください。リレーショナル・ラッパーをインストールする場合は、
7 DB2 Information Integrator をインストールする前に、トピック『DB2 Information
7 Integrator のリレーショナル・ラッパーのインストールに関する前提条件』を参照
7 してください。
- 7 • DB2 Universal Database Enterprise Server Edition 以外の、サポートされているエ
7 ディションおよびバージョンの DB2 Universal Database を使用している場合、
7 DB2 Information Integrator をインストールする前に DB2 Universal Database を
7 インストールする必要があります。詳細は、インストールしようとしているエディ
7 ションの DB2 Universal Database のインストール資料を参照してください。
- 7 • DB2 Information Integrator のインストール・ウィザードを実行するには、ターゲ
7 ット・システムでグラフィカル・インターフェースがサポートされている必要が
7 あります。
- 7 • DB2 Universal Database バージョン 8.1 がインストール済みの場合、DB2
7 Information Integrator をインストールする前に、サポートされているエディショ
7 ンとバージョンに移行する必要があります。DB2 Information Integrator のフィッ
7 クスパックのインストールに関する詳細は、
7 www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/support.html の DB2 Information
7 Integrator サポート・サイトを参照してください。
- 7 • Windows 2000 上で LDAP を使用して、DB2 サーバーを Active Directory に登
7 録する予定であれば、DB2 サーバー・ソフトウェアをインストールする前にデ
7 ィレクトリー・スキーマを拡張する必要があります。
- 7 • インストールを実行するには、推奨されたユーザー権限を付与されたローカル管
7 理者ユーザー・アカウントが必要です。
- 7 • 圧縮ファイルから DB2 Universal Database をインストールする場合は、インスト
7ールを開始する前にそのファイルを解凍する必要があります。

7 制約事項:

7 DB2 Information Integrator 製品とコンポーネントは、同じサーバーにインストール
7 する必要があります。

7 DB2 Universal Database ドメイン・ユーザーはサポートされません。使用する DB2
7 Universal Database のユーザー ID とパスワードはローカルのものでなければなりません。
7

7 手順:

7 DB2 Information Integrator をインストールするには、以下のようになります。

- 7 1. 管理者権限を持つユーザー ID でターゲット・システムにログオンします。
- 7 2. 必要に応じて DB2 Information Integrator インストール・プログラムがファイル
7 を更新できるようにするため、オープンされているプログラムをすべてクローズ
7 します。
- 7 3. DB2 Information Integrator CD をドライブに挿入します。ランチパッドが開きま
7 す。

7 DB2 Information Integrator をネットワーク・ドライブからインストールする場合
7 は、コマンド・プロンプトを開いてから、DB2 Information Integrator インストー
7 ル・ソフトウェアのルート・ディレクトリーにナビゲートします。以下のコマン
7 ドを入力して、ランチパッドを開始します。

7 `iisetup [-nolp] [-fontsize n]`

7 オプション: ランチパッドを開かないでインストール・ウィザードを開くに
7 は、`-nolp` パラメーターを使用します。

7 オプション: インストール・ウィザードでのテキストのフォント・サイズを指定
7 するには、`-fontsize n` パラメーターを使用します。 `n` はフォント・サイズで
7 す。たとえば、`./iisetup -fontsize 20` と指定します。指定する値は、8 から
7 72 まででなければなりません。デフォルトのフォント・サイズは 12 です。

- 7 4. ランチパッドで「製品のインストール」をクリックして、ウィザードの指示に従
7 います。 `-nolp` パラメーターを指定した場合は、このステップは必要ありませ
7 せん。
- 7 5. DB2 Information Integrator のインストール後、インストールしたラッパーの
7 DB2 ライセンス・ポリシーを設定します。
- 7 6. 以下のコマンドを DB2 コマンド行から入力して、フェデレーテッド・サーバー
7 からデータ・ソースにアクセスできるようにします。
7 `UPDATE DATABASE MANAGER CONFIGURATION USING FEDERATED YES`
- 7 7. インストールしたデータ・ソースへのアクセスを構成します。
- 7 8. オプション: 使用したい無償提供の同梱製品およびコンポーネントをインストー
7 ルします。

7 関連概念:

- 7 • 7 ページの『DB2 Information Integrator の非リレーショナル・ラッパー』
- 7 • 6 ページの『DB2 Universal Database』
- 7 • 8 ページの『DB2 Information Integrator のリレーショナル・ラッパー』
- 7 • 「DB2 Information Integrator リリース情報」の『既知の問題、制限、および対処
7 方法』

- 7 • 「*IBM DB2 Information Integrator データ・ソース構成ガイド*」の『データ・ソ
- 7 スの構成の近道』
- 7 • 9 ページの『KEGG ユーザー定義関数 - 概要』
- 7 • 9 ページの『ライフ・サイエンス・ユーザー定義関数 - 概要』
- 7 **関連タスク:**
- 7 • 「インストールおよび構成 補足」の『db2licm コマンドによる DB2 ライセン
- 7 ス・ポリシーの設定』
- 7 • 「インストールおよび構成 補足」の『ライセンス・センターによる DB2 ライセ
- 7 ンス・ポリシーの設定』
- 7 • 90 ページの『DB2 Information Integrator インストール・ウィザードのエラー・ロ
- 7 ギングの使用可能化』
- 7 • 73 ページの『DB2 Information Integrator のフィックスパックのインストール』
- 7 • 「*IBM DB2 Information Integrator データ・ソース構成ガイド*」の『DB2 UDB コ
- 7 ントロール・センターを使用したフェデレーテッド・サーバーへのデータ・ソー
- 7 スの追加』
- 7 • 「*IBM DB2 Information Integrator データ・ソース構成ガイド*」の『フェデレーテ
- 7 ッド・データベースの作成』
- 7 **関連資料:**
- 7 • 49 ページの『DB2 Information Integrator のリレーショナル・ラッパーのインスト
- 7 ールに関する前提条件』
- 7 • 53 ページの『DB2 Information Integrator の環境変数』
- 7 • 19 ページの『DB2 Information Integrator のインストールに関する資料』
- 7 • 35 ページの『DB2 Information Integrator のソフトウェア要件』

Microsoft SQL Server Client バージョン 2000 ドライバーの確認と登録 (Windows)

通常、Microsoft SQL Server Client バージョン 2000 ドライバーは、Windows のインストール時にインストールします。Microsoft SQL Server データ・ソースにアクセスするには、このドライバーのインストール、登録、および構成が完了していなければなりません。

手順:

- 7 このドライバーがインストールされていることを確認して、接続をテストするに
- 7 は、次のようにします。
- 7 1. Windows の「コントロール パネル」を開きます。
 - 7 2. 「管理ツール」フォルダーを開きます。
 - 7 3. 「データ・ソース (ODBC)」をダブルクリックして、「ODBC データ ソース
 - 7 アドミニストレータ」ウィンドウを開きます。
 - 7 4. 「ドライバ」タブをクリックして、システムにインストールされている ODBC
 - 7 ドライバーのリスト中の SQL サーバーの項目を見つけ出します。SQL サーバ
 - 7 ー項目がリスト中にあれば、このドライバーはインストール済みです。
 - 7 5. 「システム DSN」タブをクリックします。

7 6. 「構成」をクリックしてドライバーを登録し、Microsoft SQL Server データ・ソ
7 ースへの接続をテストします。 Microsoft SQL Server 2000 Personal Edition を
7 使用する場合は、 SQL Server のクライアント ネットワーク ユーティリティを
7 使用して、新しい SQL Server ODBC データ・ソースを ODBC の「システム
7 DSN」リストに追加する必要があります。

ドライバーをインストールし、構成する詳細な方法については、 ODBC ドライバー
と一緒に配布される資料にある、インストール手順を参照してください。

関連タスク:

- 54 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (Windows)』
- 63 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (UNIX)』

関連資料:

- 49 ページの『DB2 Information Integrator のリレーショナル・ラッパーのインスト
ールに関する前提条件』

7 DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーシ 7 ョン・センターのインストール (Windows)

7 DB2 製品資料にアクセスする方法として、 IBM Web サイト、イントラネット・サ
7 ーバー、またはコンピューターにインストールしたバージョンの 3 つがあります。
7 デフォルトでは、DB2 製品は IBM Web サイト上の DB2 資料にアクセスします。
7 イントラネット・サーバーまたはコンピューター上の DB2 資料にアクセスしたい
7 場合には、 DB2 インフォメーション・センター CD から DB2 資料をインスト
7 ールする必要があります。 DB2 セットアップ・ウィザードを使用すれば、インスト
7 ール設定を定義し、 Windows オペレーティング・システムを使用するコンピュ
7 ーターに DB2 インフォメーション・センターをインストールできます。

前提条件:

7 このセクションでは、Windows に DB2 インフォメーション・センターをインスト
7 ールするためのハードウェア、オペレーティング・システム、ソフトウェア、およ
7 び通信の諸要件を一覧で示します。

• ハードウェア要件

7 以下のいずれかのプロセッサが必要です。

- 7 - 32 ビット・コンピューター: Pentium または Pentium 互換の CPU

• オペレーティング・システム要件

7 以下のいずれかのオペレーティング・システムが必要です。

- 7 - Windows 2000
- 7 - Windows XP

7 **注:** DB2 インフォメーション・センターは、 DB2 クライアントをサポートする
7 Windows オペレーティング・システム上で稼動します。このため、 IBM Web
7 サイトの DB2 インフォメーション・センターにアクセスするか、イントラ
7 ネット・サーバーに DB2 インフォメーション・センターをインストールし
7 てそれにアクセスすることをお勧めします。

7

- ソフトウェア要件

7 - 以下のブラウザーがサポートされています。

7 - Mozilla 1.0 以上

7 - Internet Explorer バージョン 5.5 または 6.0 (Windows XP の場合はバージョン 6.0)

7

- 通信要件

7 - TCP/IP

7

制約事項:

7 • DB2 インフォメーション・センターをインストールするには、管理権限をもつアカウントが必要です。

7

手順:

7 DB2 セットアップ・ウィザードを使用して DB2 インフォメーション・センターをインストールするには、以下のようになります。

- 7
- 7 1. DB2 インフォメーション・センターのインストールで定義したアカウントで、システムにログオンします。
 - 7 2. CD をドライブに挿入します。自動実行機能が使用可能になっていれば、IBM DB2 セットアップ・ランチパッドが起動します。
 - 7 3. DB2 セットアップ・ウィザードは、システム言語を判別して、その言語用のセットアップ・プログラムを立ち上げます。英語以外の言語でセットアップ・プログラムを実行したい場合、またはセットアップ・プログラムの自動始動が失敗した場合には、DB2 セットアップ・ウィザードを手動で開始できます。

7 次のようにして、DB2 セットアップ・ウィザードを手動で開始します。

- 7 a. 「スタート」をクリックし、「ファイル名を指定して実行」を選択します。
- 7 b. 「開く」フィールドで、以下のコマンドを入力します。

7 `x:¥setup.exe /i 2-letter language identifier`

7 ここで、*x:* は CD ドライブ、*2-letter language identifier* (2 文字の言語識別子) はセットアップ・プログラムを実行する言語を表します。

- 7 c. 「OK」をクリックします。

- 7
- 7 4. IBM DB2 セットアップ・ランチパッドが開きます。DB2 インフォメーション・センターのインストールに直接進むには、「製品のインストール」をクリックします。残りのステップについて説明しているオンライン・ヘルプを利用できます。オンライン・ヘルプを呼び出すには、「ヘルプ」をクリックします。「キャンセル」をクリックすれば、いつでもインストールを終了できます。
 - 7 5. 「インストールしたい製品を選択します」ページでは、「次へ」をクリックします。
 - 7 6. 「DB2 セットアップ・ウィザードによるこそ (Welcome to the DB2 Setup wizard)」ページで、「次へ」をクリックします。DB2 セットアップ・ウィザードは、プログラムのセットアップ操作を案内します。
 - 7 7. インストールを続行するには、使用許諾条件に同意する必要があります。「ご使用条件」ページで、「ご使用条件に同意します (I accept the terms in the license agreement)」をクリックして、「次へ」をクリックします。

- 7 8. 「インストール・アクションの選択」で、「このコンピューターに DB2 イン
7 フォメーション・センターをインストールする (Install DB2 Information
7 Center on this computer)」を選択します。応答ファイルを使用して、このコ
7 ンピューターまたは他のコンピューターに DB2 インフォメーション・センタ
7 ーをあとでインストールしたい場合には、「設定を応答ファイルに保管する」
7 を選択します。「次へ」をクリックします。
- 7 9. 「インストールする言語の選択」ページでは、DB2 インフォメーション・セ
7 ンターをインストールする言語を選択します。「次へ」をクリックします。
- 7 10. 「DB2 インフォメーション・センター・ポートの指定」ページでは、DB2
7 インフォメーション・センターへの着信通信を構成します。「次へ」をクリッ
7 クしてインストールを続けます。
- 7 11. 「ファイルのコピーの開始」ページでは、インストールの選択項目を確認しま
7 す。設定を変更するには、「戻る」をクリックします。「インストール」をク
7 リックすると、DB2 インフォメーション・センターのファイルがコンピュー
7 ターにコピーされます。

7 応答ファイルを使って DB2 インフォメーション・センターをインストールするこ
7 とができます。また、**db2rspgn** コマンドを使って、既存のインストール内容に基
7 づく応答ファイルを生成することもできます。

7 インストール時に検出されるエラーの詳細については、「マイ ドキュメント」
7 ¥DB2LOG¥ ディレクトリー内の db2.log ファイルと db2wi.log ファイルを参照して
7 ください。「マイ ドキュメント」ディレクトリーの場所は、ご使用のコンピュー
7 ターの設定によって異なります。

7 db2wi.log ファイルは、DB2 の最新のインストール情報をキャプチャーします。
7 db2.log は、DB2 製品のインストールの履歴をキャプチャーします。

7 関連概念:

- 7 • インフラストラクチャー・トピック (DB2 共通ファイル) の『DB2 インフォメ
7 ション・センター』
- 7 • インフラストラクチャー・トピック (DB2 共通ファイル) の『DB2 インフォメ
7 ション・センターのインストール・シナリオ』

7 関連タスク:

- 7 • 「インストールおよび構成 補足」の『応答ファイルによる DB2 製品のインスト
7 ール (Windows)』
- 7 • 73 ページの『コンピューターまたはイントラネット・サーバーへの DB2 インフ
7 オメーション・センターの更新インストール』
- 7 • インフラストラクチャー・トピック (DB2 共通ファイル) の『DB2 インフォメ
7 ション・センターにおける特定の言語でのトピックの表示』
- 7 • インフラストラクチャー・トピック (DB2 共通ファイル) の『DB2 インフォメ
7 ション・センターの呼び出し』
- 7 • 68 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメシ
7 ョン・センターのインストール (UNIX)』

7 関連資料:

7
7

- 「コマンド・リファレンス」の『db2rspgn - 応答ファイル生成プログラム・コマンド』

DB2 Information Integrator のインストール (UNIX)

以下のトピックは、UNIX システムに DB2 Information Integrator をインストールする方法を説明しています。

DB2 Information Integrator のインストール前の Oracle genclntsh スクリプトの編集および libclntsh ファイルの作成 (HP-UX、Linux、Solaris)

DB2 Information Integrator が未インストールの場合に、以下のタスクを行ってください。

以下の構成を使用する場合、Oracle および NET8 ラッパーが関与するリモート操作を実行しようとする、DB2 フェデレーテッド・インスタンスは失敗します。

- Oracle 9i クライアント
- Oracle NET8 ラッパー
- HP-UX、Linux、または Solaris オペレーティング環境を実行するフェデレーテッド・サーバー

前提条件:

- Oracle 9i クライアントがまだインストールされていないなら、それをインストールしてください。
- 以下のファイルをバックアップします。
 - HP-UX 32-bit: \$ORACLE_HOME/bin/genclntsh, \$ORACLE_HOME/lib/libclntsh.sl.9.0, \$ORACLE_HOME/lib/libclntst9.a
 - HP-UX 64-bit: \$ORACLE_HOME/lib32/libclntsh.sl.9.0, \$ORACLE_HOME/lib32/libclntst9.a
 - Linux 32-bit: \$ORACLE_HOME/bin/genclntsh, \$ORACLE_HOME/lib/libclntsh.so.9.0, \$ORACLE_HOME/lib/libclntst9.a
 - Linux 64-bit: \$ORACLE_HOME/lib32/libclntsh.so.9.0, \$ORACLE_HOME/lib32/libclntst9.a
 - Solaris 32-bit: \$ORACLE_HOME/bin/genclntsh, \$ORACLE_HOME/lib/libclntsh.so.9.0, \$ORACLE_HOME/lib/libclntst9.a
 - Solaris 64-bit: \$ORACLE_HOME/lib32/libclntsh.so.9.0, \$ORACLE_HOME/lib32/libclntst9.a

手順:

DB2 Information Integrator をインストールする前に、genclntsh スクリプトを編集して libclntsh ファイルを作成するには、次のようにします。

1. テキスト・エディターで \$ORACLE_HOME/bin/genclntsh スクリプトを開きます。

HP-UX では、リンク行に -Bsymbolic を追加します。たとえば、

```
7 LD="ld -v -G -b +s -L${ORACLE_HOME}/${LIB} -Bsymbolic"
7 # shared library link command
```

7 Linux では、リンク行に `-Wl,-Bsymbolic` を追加します。たとえば、

```
7 LD="gcc -shared -Wl,-relax -L${ORACLE_HOME}/lib -Wl,-Bsymbolic"
7 # shared library link command
```

7 Solaris では、リンク行に `-Bsymbolic` を追加します。たとえば、

```
7 LD="ld -m -i -G -z text -L${ORACLE_HOME}/${LIB} -Bsymbolic"
7 # shared library link command
```

2. コマンド・プロンプトから `genclntsh` スクリプトを実行して、`libclntsh` ファイルを作成します。

1 DB2 Information Integrator のインストール時に、`genclntsh` スクリプトに加えられた変更内容が Oracle ラッパー・ライブラリーに記録されます。

関連タスク:

- 66 ページの『DB2 Information Integrator のインストール後の Oracle `genclntsh` スクリプトの編集および `libclntsh` ファイルの作成 (HP-UX、Linux、Solaris)』
- 63 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (UNIX)』

DataDirect Technologies Connect ODBC ドライバーのインストール (UNIX)

UNIX 上で DB2 Information Integrator をインストールして、Microsoft SQL Server データ・ソースにアクセスするようサーバーをセットアップする場合、DataDirect Technologies Connect ODBC ドライバーをインストールする必要があります。

手順:

DataDirect Technologies Connect ODBC ドライバーをインストールするには、次のようにします。

1. Connect ライブラリー・ディレクトリーを、`LIBPATH` 内の最初の項目として指定します。
2. Connect ODBC ライブラリーの許可をチェックし、Connect ODBC ライブラリーを他のユーザーが使用できるようにします。
3. DataDirect Technologies Connect ODBC **demoodbc** テスト・ツールを使用して、`.odbc.ini` ファイルの構成および Microsoft SQL Server データ・ソースへの接続をテストします。**demoodbc** テスト・ツールは、Connect ODBC の `/demo` サブディレクトリーにあります。**demoodbc** テスト・ツールは、要求された SQL Server データ・ソースに接続し、EMP 表の照会を試みます。Microsoft SQL Server データ・ソースに EMP 表がある可能性は低いいため、エラー・メッセージが戻されることが予想されます。以下のいずれかの結果を生じた場合、テストは正常に完了したということです。
 - EMP 表は存在しないことがメッセージで示される。
 - EMP 表からのレコードが戻される。
 - EMP 表はあるが、要求された列がないというメッセージが示される。

demoodbc テスト・ツールは、UNIX システムの root 権限のないユーザーから実行する必要があります。システムに他のユーザーがいない場合、root 権限を持つユーザーは DB2 インスタンス用のグループとユーザー ID を作成することができます。そのユーザー ID を使用して、**demoodbc** テスト・ツールを実行します。たとえば、root ユーザーはグループ db2admin1 およびユーザー db2inst1 を作成することができます。新規のユーザー ID が追加されて、それがインスタンス所有者になります。**demoodbc** ツールを実行するには、db2inst1 ユーザーは以下を行う必要があります。

- DataDirect Technologies Connect ODBC lib サブディレクトリーを、LIBPATH システム環境変数値に追加します。通常、このディレクトリーは /opt/odbc/lib であり、次のコマンドを使って設定することができます。

```
export LIBPATH=/opt/odbc/lib:$LIBPATH
```

- SQL サーバー・データ・ソース用の ODBC 接続情報を持つ、odbc.ini ファイルのロケーションを指すように ODBCINI 環境変数を設定します。ODBCINI 環境変数を設定するには、エクスポート (export) コマンドを使用します。たとえば、odbc.ini ファイルが DB2 インスタンス所有者 db2inst1 のホーム・ディレクトリーにあって、フェデレーテッド・サーバーのオペレーティング・システムが AIX である場合、コマンドは次のようになります。

```
export ODBCINI=/home/db2inst1/.odbc.ini
```

ドライバーをインストールして構成する方法の詳細は、ODBC ドライバーに添付された資料にあるインストール手順を参照してください。

関連タスク:

- 63 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (UNIX)』

関連資料:

- 49 ページの『DB2 Information Integrator のリレーショナル・ラッパーのインストールに関する前提条件』

7 DB2 Information Integrator のインストール (UNIX)

7 DB2 Universal Database Enterprise Server Edition バージョン 8.2 は、「標準」イン
7 ストール・オプションを介して DB2 Information Integrator と一緒にインストールされ
7 ます。DB2 Universal Database のインストールで「カスタム」または「コンパクト」
7 オプションを使用したい場合、最初に DB2 Universal Database をインストール
7 する必要があります。DB2 Information Integrator をインストールするときは、リレ
7 ーションアル・ラッパー、非リレーションアル・ラッパーもインストールすることがで
7 きます。KEGG とライフ・サイエンスのユーザー定義関数は、非リレーションアル・
7 ラッパーのライフ・サイエンス・ユーザー定義関数コンポーネントと一緒にインス
7 トールされます。DB2 Information Integrator 製品のライセンス・キーをインストー
7 ルすると、Q レプリケーションが使用可能になります。

7 DB2 Universal Database は、使用するオペレーティング・システムに応じて、デフ
7 オルトで以下のディレクトリーのいずれかにインストールされます。

7 AIX: /usr/opt/db2_08_01

7 HP-UX、Linux、および Solaris: /opt/IBM/db2/V8.1

7 サポートされているエディションおよびバージョンの DB2 Universal Database が正
7 しいレベルですすでにインストールされていれば、DB2 Information Integrator インス
7 トール・ウィザードによって検出されます。

7 DB2 Universal Database バージョン 8.2 フィックスパック 8 以上がインストール済
7 みの場合、DB2 Information Integrator をインストールした後でそのフィックスパッ
7 クを再インストールする必要があります。

7 www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/support.html の DB2 Information Integrator
7 サポート・サイトの DB2 Information Integrator フィックスパックのインストールに
7 関する説明に従ってください。

7 アジア言語文字の 2 バイト文字セット (DBCS) の追加サポートとして、UNIX 用の
7 フォント・パッケージが IBM から提供されています。このフォント・パッケージ
7 は、一部のバージョンの UNIX で必要です。DB2 Information Integrator 用のフォ
7 ント・パッケージのインストールの詳細は、

7 www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/support.html の DB2 Information Integrator
7 サポート・サイトに掲載されている DB2 Information Integrator バージョン 8.2 の
7 リリース情報を参照してください。

7 前提条件:

- 7 • インストールしようとしているすべての製品およびコンポーネントのインストー
7 ル、メモリ、およびディスク・スペースの要件がシステムで満たされていること
7 を確認してください。リレーショナル・ラッパーをインストールする場合は、
7 DB2 Information Integrator をインストールする前に、トピック『DB2 Information
7 Integrator のリレーショナル・ラッパーのインストールに関する前提条件』を参照
7 してください。
- 7 • インストール・ウィザードを実行するには、DB2 Information Integrator のインス
7 トール先のシステムでグラフィカル・インターフェースがサポートされていな
7 ければなりません。
- 7 • DB2 Universal Database Enterprise Server Edition 以外の、サポートされているエ
7 ディションおよびバージョンの DB2 Universal Database を使用している場合、
7 DB2 Information Integrator をインストールする前に DB2 Universal Database を
7 インストールする必要があります。詳細は、インストールしようとしているエディ
7 ションの DB2 Universal Database のインストール資料を参照してください。
- 7 • DB2 Universal Database バージョン 8.1 がインストール済みの場合、DB2
7 Information Integrator をインストールする前に、サポートされているエディ
7 ションとバージョンに移行する必要があります。DB2 Information Integrator のフィッ
7 クスパックのインストールの詳細は、
7 www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/support.html の DB2 Information
7 Integrator サポート・サイトを参照してください。
- 7 • インストールを実行するには root 権限が必要です。
- 7 • 圧縮ファイルから DB2 Universal Database をインストールする場合は、インスト
7ールを開始する前にそのファイルを解凍する必要があります。

7 制約事項:

7 DB2 Information Integrator 製品とコンポーネントは、同じサーバーにインストール
7 する必要があります。

7 DB2 Universal Database ドメイン・ユーザーはサポートされません。使用する DB2
7 Universal Database のユーザー ID とパスワードはローカルのものでなければなりません。
7

7 手順:

7 UNIX システムに DB2 Information Integrator をインストールするには、次のように
7 します。

- 7 1. ルート権限を持つユーザー ID でシステムにログオンします。
- 7 2. 必要に応じて DB2 Information Integrator インストール・ウィザードがファイル
7 を更新できるようにするため、オープンされているプログラムをすべてクローズ
7 します。
- 7 3. DB2 Information Integrator CD をマウントするか、または DB2 Information
7 Integrator のインストール元のディレクトリーにナビゲートします。
- 7 4. プロンプトに対し、以下のコマンドを入力して DB2 Information Integrator ラン
7 チパッドを開始します。

7 `./iisetup [-nolp] [-fontsize n]`

7 オプション: ランチパッドを開かないでインストール・ウィザードを開くに
7 は、`-nolp` パラメーターを使用します。

7 オプション: インストール・ウィザードでのテキストのフォント・サイズを指定
7 するには、`-fontsize` パラメーターを使用します。指定する値は、8 から 72 まで
7 でなければなりません。デフォルトのフォント・サイズは 12 です。

7 `n` はフォント・サイズです。たとえば、`./iisetup -fontsize 20` と指定しま
7 す。

- 7 5. 「製品のインストール」をクリックして、ウィザードの指示に従います。 `-nolp`
7 パラメーターを指定した場合は、このステップは必要ありません。
- 7 6. DB2 Information Integrator のインストール後、インストールしたラッパーの
7 DB2 ライセンス・ポリシーを設定します。
- 7 7. 以下のコマンドを DB2 コマンド行から入力して、フェデレーテッド・サーバー
7 からデータ・ソースにアクセスできるようにします。
7 `UPDATE DATABASE MANAGER CONFIGURATION USING FEDERATED YES`
- 7 8. インストールしたデータ・ソースへのアクセスを構成します。
- 7 9. オプション: 使用したい無償提供の同梱製品およびコンポーネントをインストー
7 ルします。

7 関連概念:

- 7 • 7 ページの『DB2 Information Integrator の非リレーショナル・ラッパー』
- 7 • 6 ページの『DB2 Universal Database』
- 7 • 8 ページの『DB2 Information Integrator のリレーショナル・ラッパー』
- 7 • 「IBM DB2 Information Integrator データ・ソース構成ガイド」の『データ・ソー
7 スの構成の近道』
- 7 • 9 ページの『KEGG ユーザー定義関数 - 概要』
- 7 • 9 ページの『ライフ・サイエンス・ユーザー定義関数 - 概要』

- 7 **関連タスク:**
- 7
- 7 • 「*DB2 Universal Database* サーバー機能 概説およびインストール」の『CD-ROM
 - 7 のマウント (AIX)』
 - 7 • 「*DB2 Universal Database* サーバー機能 概説およびインストール」の『HP-UX
 - 7 上での CD-ROM のマウント』
 - 7 • 「*DB2 Universal Database* サーバー機能 概説およびインストール」の『CD-ROM
 - 7 のマウント (Linux)』
 - 7 • 「*DB2 Universal Database* サーバー機能 概説およびインストール」の『応答ファ
 - 7 イルを使用した、参加コンピューター上でのデータベース・パーティション・サ
 - 7 ーバーのインストール (UNIX)』
 - 7 • 「インストールおよび構成 補足」の『db2licm コマンドによる DB2 ライセン
 - 7 ス・ポリシーの設定』
 - 7 • 「インストールおよび構成 補足」の『ライセンス・センターによる DB2 ライセ
 - 7 ンス・ポリシーの設定』
 - 7 • 「*DB2 Universal Database* サーバー機能 概説およびインストール」の『CD-ROM
 - 7 のマウント (Solaris)』
 - 7 • 90 ページの『DB2 Information Integrator インストール・ウィザードのエラー・ロ
 - 7 グイングの使用可能化』
 - 7 • 66 ページの『DB2 Information Integrator のインストール後の Oracle genclntsh ス
 - 7 クリプトの編集および libclntsh ファイルの作成 (HP-UX、Linux、Solaris)』
 - 7 • 62 ページの『DataDirect Technologies Connect ODBC ドライバーのインストール
 - 7 (UNIX)』
 - 7 • 73 ページの『DB2 Information Integrator のフィックスパックのインストール』
 - 7 • 61 ページの『DB2 Information Integrator のインストール前の Oracle genclntsh ス
 - 7 クリプトの編集および libclntsh ファイルの作成 (HP-UX、Linux、Solaris)』
 - 7 • 「*IBM DB2 Information Integrator* データ・ソース構成ガイド」の『DB2 UDB コ
 - 7 ントロール・センターを使用したフェデレーテッド・サーバーへのデータ・ソー
 - 7 スの追加』
 - 7 • 「*IBM DB2 Information Integrator* データ・ソース構成ガイド」の『フェデレーテ
 - 7 ッド・データベースの作成』

- 7 **関連資料:**
- 7
- 7 • 49 ページの『DB2 Information Integrator のリレーショナル・ラッパーのインスト
 - 7 ールに関する前提条件』
 - 7 • 53 ページの『DB2 Information Integrator の環境変数』

DB2 Information Integrator のインストール後の Oracle genclntsh スクリプトの編集および libclntsh ファイルの作成 (HP-UX、Linux、Solaris)

DB2 Information Integrator をインストールする前に genclntsh スクリプトを編集しなかった場合、このタスクを行ってください。

以下の構成を使用する場合、Oracle および NET8 ラッパーが関与するリモート操作を実行しようとする、DB2 フェデレーテッド・インスタンスは失敗します。

- Oracle 9i クライアント
- Oracle NET8 ラッパー
- HP-UX、Linux、または Solaris オペレーティング環境を実行するフェデレーテッド・サーバー

前提条件:

以下のファイルをバックアップします。

- HP-UX 32-bit: \$ORACLE_HOME/bin/genclntsh, \$ORACLE_HOME/lib/libclntsh.sl.9.0, \$ORACLE_HOME/lib/libclntst9.a
- HP-UX 64-bit: \$ORACLE_HOME/lib32/libclntsh.sl.9.0, \$ORACLE_HOME/lib32/libclntst9.a
- Linux 32-bit: \$ORACLE_HOME/bin/genclntsh, \$ORACLE_HOME/lib/libclntsh.so.9.0, \$ORACLE_HOME/lib/libclntst9.a
- Linux 64-bit: \$ORACLE_HOME/lib32/libclntsh.so.9.0, \$ORACLE_HOME/lib32/libclntst9.a
- Solaris 32-bit: \$ORACLE_HOME/bin/genclntsh, \$ORACLE_HOME/lib/libclntsh.so.9.0, \$ORACLE_HOME/lib/libclntst9.a
- Solaris 64-bit: \$ORACLE_HOME/lib32/libclntsh.so.9.0, \$ORACLE_HOME/lib32/libclntst9.a

手順:

DB2 Information Integrator をインストールした後に、genclntsh スクリプトを編集して libclntsh ファイルを作成するには、次のようにします。

1. テキスト・エディターで \$ORACLE_HOME/bin/genclntsh スクリプトを開きます。

HP-UX では、リンク行に -Bsymbolic を追加します。たとえば、

```
LD="ld -v -G -b +s -L${ORACLE_HOME}/${LIB} -Bsymbolic"
# shared library link command
```

Linux では、リンク行に -Wl,-Bsymbolic を追加します。たとえば、

```
LD="gcc -shared -Wl,-relax -L${ORACLE_HOME}/lib -Wl,-Bsymbolic"
# shared library link command
```

Solaris では、リンク行に -Bsymbolic を追加します。たとえば、

```
LD="ld -m -i -G -z text -L${ORACLE_HOME}/${LIB} -Bsymbolic"
# shared library link command
```

2. コマンド・プロンプトから genclntsh スクリプトを実行して、libclntsh ファイルを作成します。
3. コマンド・プロンプトから djxlinkOracle スクリプトを実行して、Oracle ラッパー・ライブラリーを更新します。
4. 各 DB2 インスタンスごとに db2iupdt コマンドを実行して、データ・ソースへのフェデレーテッド・アクセスを使用可能にします。

関連タスク:

- 63 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (UNIX)』
- 61 ページの『DB2 Information Integrator のインストール前の Oracle genclntsh スクリプトの編集および libclntsh ファイルの作成 (HP-UX、Linux、Solaris)』

DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (UNIX)

DB2 製品資料にアクセスする方法として、IBM Web サイト、イントラネット・サーバー、またはコンピューターにインストールしたバージョンの 3 つがあります。デフォルトでは、DB2 製品は IBM Web サイト上の DB2 資料にアクセスします。イントラネット・サーバーまたはコンピューター上の DB2 資料にアクセスしたい場合には、DB2 インフォメーション・センター CD から資料をインストールする必要があります。DB2 セットアップ・ウィザードを使用すれば、インストール設定を定義し、UNIX オペレーティング・システムを使用するコンピューターに DB2 インフォメーション・センターをインストールできます。

前提条件:

このセクションでは、UNIX コンピューターに DB2 インフォメーション・センターをインストールするためのハードウェア、オペレーティング・システム、ソフトウェア、および通信の諸要件を一覧で示します。

• ハードウェア要件

以下のいずれかのプロセッサが必要です。

- PowerPC (AIX)
- HP 9000 (HP-UX)
- Intel 32 ビット (Linux)
- Solaris UltraSPARC コンピューター (Solaris オペレーティング環境)

• オペレーティング・システム要件

以下のいずれかのオペレーティング・システムが必要です。

- IBM AIX 5.1 (PowerPC 上)
- HP-UX 11i (HP 9000 上)
- Red Hat Linux 8.0 (Intel 32 ビット上)
- SuSE Linux 8.1 (Intel 32 ビット上)
- Sun Solaris バージョン 8 (Solaris オペレーティング環境の UltraSPARC コンピューター上)

注: DB2 インフォメーション・センターは、DB2 クライアントをサポートする UNIX オペレーティング・システム上で稼動します。このため、IBM Web サイトから DB2 インフォメーション・センターにアクセスするか、イントラネット・サーバーに DB2 インフォメーション・センターをインストールしてそれにアクセスすることをお勧めします。

• ソフトウェア要件

- 以下のブラウザがサポートされています。

- Mozilla バージョン 1.0 以上

• DB2 セットアップ・ウィザードは、グラフィック・インストーラーです。ご使用のマシンで DB2 セットアップ・ウィザードのグラフィカル・ユーザー・インターフェースを表示可能にする X Window システム・ソフトウェアをインプリメン

トする必要があります。 DB2 セットアップ・ウィザードを実行する前に、ディスプレイを正しくエクスポートしたことを確認してください。たとえば、コマンド・プロンプトで

```
export DISPLAY=9.26.163.144:0.
```

というコマンドを入力します。

• 通信要件

– TCP/IP

手順:

DB2 セットアップ・ウィザードを使用して DB2 インフォメーション・センターをインストールするには、以下のようにします。

1. システムにログオンします。
2. DB2 インフォメーション・センター製品 CD を挿入してシステムにマウントします。
3. 次のコマンドを入力して、CD がマウントされているディレクトリに移動します。

```
cd /cd
```

/cd は、CD のマウント・ポイントを表します。

4. **./db2setup** コマンドを入力して、DB2 セットアップ・ウィザードを開始します。
5. IBM DB2 セットアップ・ランチパッドが開きます。DB2 インフォメーション・センターのインストールに直接進むには、「製品のインストール」をクリックします。残りのステップについて説明しているオンライン・ヘルプを利用できます。オンライン・ヘルプを呼び出すには、「ヘルプ」をクリックします。「キャンセル」をクリックすれば、いつでもインストールを終了できます。
6. 「インストールしたい製品を選択します」ページでは、「次へ」をクリックします。
7. 「DB2 セットアップ・ウィザードによるこそ (Welcome to the DB2 Setup wizard)」ページで、「次へ」をクリックします。DB2 セットアップ・ウィザードは、プログラムのセットアップ操作を案内します。
8. インストールを続行するには、使用許諾条件に同意する必要があります。「ご使用条件」ページで、「ご使用条件に同意します (I accept the terms in the license agreement)」をクリックして、「次へ」をクリックします。
9. 「インストール・アクションの選択」で、「このコンピューターに DB2 インフォメーション・センターをインストールする (Install DB2 Information Center on this computer)」を選択します。応答ファイルを使用して、このコンピューターまたは他のコンピューターに DB2 インフォメーション・センターをあとでインストールしたい場合には、「設定を応答ファイルに保管する」を選択します。「次へ」をクリックします。
10. 「インストールする言語の選択」ページでは、DB2 インフォメーション・センターをインストールする言語を選択します。「次へ」をクリックします。

- 7 11. 「DB2 インフォメーション・センター・ポートの指定」ページでは、DB2
7 インフォメーション・センターへの着信通信を構成します。「次へ」をクリック
7 してインストールを続けます。
- 7 12. 「ファイルのコピーの開始」ページでは、インストールの選択項目を確認しま
7 す。設定を変更するには、「戻る」をクリックします。「インストール」をク
7 リックすると、DB2 インフォメーション・センターのファイルがコンピュー
7 ターにコピーされます。

7 このほか、応答ファイルを使って DB2 インフォメーション・センターをインスト
7 ールすることもできます。

7 インストール・ログ db2setup.his、db2setup.log、および db2setup.err は、デ
7 フォルトでは /tmp ディレクトリーに置かれます。

7 db2setup.log ファイルは、エラーも含めた DB2 製品のインストール情報をすべて
7 キャプチャーします。db2setup.his ファイルは、コンピューター上の DB2 製品
7 インストール内容をすべて記録します。DB2 は、db2setup.log ファイルを
7 db2setup.his に付加します。db2setup.err ファイルは、Java から戻されるす
7 べてのエラー出力 (例外やトラップの情報など) をキャプチャーします。

7 インストールが完了したら、ご使用の UNIX オペレーティング・システムに応じ
7 て、DB2 は以下のいずれかのディレクトリーにインストールされます。

- 7 • AIX: /usr/opt/db2_08_01
- 7 • HP-UX: /opt/IBM/db2/V8.1
- 7 • Linux: /opt/IBM/db2/V8.1
- 7 • Solaris オペレーティング環境: /opt/IBM/db2/V8.1

7 関連概念:

- 7 • インフラストラクチャー・トピック (DB2 共通ファイル) の『DB2 インフォメ
7 ション・センター』
- 7 • インフラストラクチャー・トピック (DB2 共通ファイル) の『DB2 インフォメ
7 ション・センターのインストール・シナリオ』

7 関連タスク:

- 7 • 「インストールおよび構成 補足」の『応答ファイルによる DB2 のインストール
7 (UNIX)』
- 7 • 73 ページの『コンピューターまたはイントラネット・サーバーへの DB2 イン
7 フォメーション・センターの更新インストール』
- 7 • インフラストラクチャー・トピック (DB2 共通ファイル) の『DB2 インフォメ
7 ション・センターにおける特定の言語でのトピックの表示』
- 7 • インフラストラクチャー・トピック (DB2 共通ファイル) の『DB2 インフォメ
7 ション・センターの呼び出し』
- 7 • 58 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメ
7 ション・センターのインストール (Windows)』

7 DB2 Information Integrator システムへのリレーショナル・ラッパー、非 7 リレーショナル・ラッパー、およびユーザー定義関数の追加

7 DB2 Information Integrator のインストール後に、リレーショナル・ラッパー、非リ
7 レーショナル・ラッパー、またはユーザー定義関数を追加する必要が生じた場合、
7 もう一度インストール・ウィザードを実行して追加することができます。インスト
7 ール・ウィザードは、サポートされているエディションおよびバージョンの DB2
7 Universal Database がインストールされていることを検出します。インストールしよ
7 うとしているラッパーとユーザー定義関数が、ご使用のオペレーティング・システ
7 ムでの使用をサポートされているものであることを確認してください。

7 手順:

7 DB2 Information Integrator システムにリレーショナル・ラッパー、非リレーシヨナ
7 ル・ラッパー、およびユーザー定義関数を追加するには、次のようにします。

- 7 1. ご使用のオペレーティング・システムへの DB2 Information Integrator のインス
7 トールに関する以下の手順に従ってください。
 - 7 • DB2 Information Integrator のインストール (Windows)
 - 7 • DB2 Information Integrator のインストール (UNIX)
- 7 2. インストールしたラッパーおよびユーザー定義関数の構成

7 関連概念:

- 7 • 「*IBM DB2 Information Integrator データ・ソース構成ガイド*」の『データ・ソー
7 スの構成の近道』
- 7 • 「*IBM DB2 Information Integrator データ・ソース構成ガイド*」の『データ・ソー
7 スの構成の近道』
- 7 • 9 ページの『KEGG ユーザー定義関数 - 概要』
- 7 • 9 ページの『ライフ・サイエンス・ユーザー定義関数 - 概要』

7 関連タスク:

- 7 • 54 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (Windows)』
- 7 • 63 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (UNIX)』
- 7 • 54 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (Windows)』
- 7 • 63 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (UNIX)』

1 DB2 Information Integrator の別のエディションへの変更

7 DB2 Information Integrator を別のエディションに変更するには、その前に既存の
7 DB2 Information Integrator ライセンス・キーを除去して、新しい DB2 Information
7 Integrator ライセンス・キーをシステムに追加する必要があります。DB2
7 Information Integrator Replication Edition に変更する場合は、インストールされてい
7 る非リレーショナル・ラッパーをすべて削除する必要があります。

DB2 Information Integrator のライセンス・ファイルは、次のとおりです。

DB2 Information Integrator Edition	ライセンス・ファイル名
DB2 Information Integrator Replication Edition および DB2 Information Integrator Event Publisher Edition	db2iire.lic
DB2 Information Integrator Standard Edition	db2iise.lic
DB2 Information Integrator Advanced Edition	db2iaae.lic
DB2 Information Integrator Advanced Edition Unlimited	db2iiue.lic
DB2 Information Integrator Developer Edition	db2iide.lic

前提条件:

DB2 Information Integrator ライセンス・キーを除去するには、管理者権限を持っている必要があります。

手順:

DB2 Information Integrator の別のエディションに変更するには、以下のようになります。

1. DB2 インスタンスに対する管理者権限を持つユーザー ID でシステムにログインします。
2. 必要に応じて DB2 Information Integrator インストール・プログラムがファイルを更新できるようにするため、オープンされているプログラムをすべてクローズします。
3. コマンド・プロンプトで、DB2 License Manager がインストールされているディレクトリーに変更します。

DB2 License Manager は、使用するオペレーティング・システムに応じて、デフォルトで以下のディレクトリーのいずれかにインストールされます。

- AIX: /usr/opt/db2_08_01/adm
- HP-UX、Linux、Solaris: /opt/IBM/db2/V8.1/adm
- Windows: %Program Files%\IBM\SQLLIB\bin

4. 以下のコマンドを入力して、DB2 Information Integrator の旧ライセンス・キーをシステムから除去します。

```
db2licm -r db2ii
```

5. DB2 Information Integrator をインストールする手順を行います。インストール・ウィザードの実行時には、ご使用条件をよく読んでください。DB2 Information Integrator の製品ライセンス・キーを登録するのに、製品もコンポーネントもインストールする必要はありません。

関連タスク:

- 54 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (Windows)』
- 94 ページの『DB2 Information Integrator と DB2 製品ライセンス・キーの除去』
- 95 ページの『リレーショナル・ラッパー、非リレーショナル・ラッパー、およびライフ・サイエンス・ユーザー定義関数の除去 (Windows)』

- 96 ページの『ラッパー、ユーザー定義関数、およびラッパー開発キットの除去 (UNIX)』

7 DB2 Information Integrator のフィックスパックのインストール

DB2 Information Integrator フィックスパックには、プログラム診断依頼書 (APAR) に基づいた問題の修正と更新が入っています。 APAR は、IBM の社内テストで見つかった問題点です。どのフィックスパックにも APARLIST.TXT ファイルが添付されています。 APARLIST.TXT ファイルには、フィックスパックに入っている問題修正が説明されています。すべてのフィックスパックに、同一バージョンの DB2 Information Integrator 用のこれまでのすべてのフィックスパックの更新も入っていません。

手順:

DB2 Information Integrator の最新のフィックスパックを入手するには、www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/support.html の DB2 Information Integrator サポート Web サイトにアクセスしてください。

Web サイトに書かれた解説に従って、フィックスパックをインストールしてください。

関連資料:

- 28 ページの『DB2 Universal Database バージョン 8.1.2 以上がインストール済みの場合』
- 26 ページの『DB2 Universal Database バージョン 8.2 フィックスパック 8 以上がインストール済みの場合』

コンピューターまたはイントラネット・サーバーへの DB2 インフォメーション・センターの更新インストール

<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/> から利用できる DB2 インフォメーション・センターは、資料の新規追加または変更によって定期的に更新されます。さらに、更新された DB2 インフォメーション・センターをコンピューターまたはイントラネット・サーバーにダウンロードしてインストールできる場合もあります。DB2 インフォメーション・センターを更新しても、DB2 クライアント製品またはサーバー製品は更新されません。

前提条件:

インターネットに接続されたコンピューターへのアクセスが必要です。

手順:

DB2 インフォメーション・センターの更新をコンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールするには、以下のようにします。

1. IBM の Web サイト (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/>) にある DB2 インフォメーション・センターを開きます。

2. 「DB2 インフォメーション・センターによろこそ」ページの見出し「サービスおよびサポート」の「ダウンロード」セクションで、「**DB2 資料**」リンクをクリックします。
3. 最新のドキュメンテーション・イメージのレベルと、インストール済みのドキュメンテーション・レベルを比較して、DB2 インフォメーション・センターを更新する必要があるかどうかを確認します。「DB2 インフォメーション・センターによろこそ」ページに、インストール済みのドキュメンテーションのレベルがリストされます。
4. より新しいバージョンの DB2 インフォメーション・センターが存在する場合、ご使用のオペレーティング・システムに対応する最新の DB2 インフォメーション・センター・イメージをダウンロードします。
5. 最新の DB2 インフォメーション・センター・イメージをインストールするには、Web ページの指示に従ってください。

関連概念:

- インフラストラクチャー・トピック (DB2 共通ファイル) の『DB2 インフォメーション・センターのインストール・シナリオ』

関連タスク:

- インフラストラクチャー・トピック (DB2 共通ファイル) の『DB2 インフォメーション・センターの呼び出し』
- 68 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (UNIX)』
- 58 ページの『DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 インフォメーション・センターのインストール (Windows)』

第 4 章 ラッパー開発キットのインストール

以下のトピックは、DB2 Information Integrator で使用するラッパー開発キットをインストールする方法を説明しています。

7 ラッパー開発キット

7 DB2[®] Information Integrator には、C++ および Java[™] でラッパーを作成するための
7 Software Development Kit (SDK) が組み込まれています。

7 ラッパー開発キットには、以下のものが入っています。

- 7 • サンプル C++ ラッパー
- 7 • サンプル Java ラッパー
- 7 • DB2 コントロール・センターにラッパーを追加するためのツールおよびサンプル

7 デフォルトの Windows[®] のディレクトリー・パスは、C:\Program
7 Files\IBM\SQLLIB です。 %DB2PATH% は、Windows 上で DB2 Information
7 Integrator がインストールされているディレクトリー・パスを指定するために使用さ
7 れる環境変数です。

7 サンプル C++ ラッパー

7 表 13 は、各プラットフォームごとの、サンプル C++ ラッパーが置かれるディレク
7 トリーを示しています。

7 表 13. プラットフォーム別のサンプル C++ ラッパーのディレクトリー

7 プラットフォーム	7 ラッパーのインストール・ディレクトリー
7 AIX [®]	7 /usr/opt/db2_08_01/samples/wrapper_sdk
7 HP/Sun/Linux	7 /opt/IBM/db2/V8.1/samples/wrapper_sdk
7 Windows	7 %DB2PATH%\samples\wrapper_sdk

7 サンプル C++ ラッパーには、以下のものが入っています。

- 7 • ラッパー API を表示するヘッダー・ファイル (ラッパー・クラス宣言)
- 7 • ラッパーをフェデレーテッド・サーバーにリンクできるファイル
- 7 • ラッパー共通ライブラリー (カスタム・ラッパーのライブラリーをロードして呼
7 び出すスタブ・ライブラリー)
- 7 • ラッパー開発用の C++ API の使用方法を説明するために使われるサンプル・ラッ
7 パーのソース・コード
- 7 • サンプル・ラッパーを構築するためのサンプル Makefile

7 サンプル Java ラッパー

7 76 ページの表 14 は、各プラットフォームごとの、サンプル Java ラッパーが置か
7 れるディレクトリーを示しています。

表 14. プラットフォーム別のサンプル Java ラッパーのディレクトリー

プラットフォーム	ラッパーのインストール・ディレクトリー
AIX	/usr/opt/db2_08_01/samples/wrapper_sdk_java
HP/Sun/Linux	/opt/IBM/db2/V8.1/samples/wrapper_sdk_java
Windows	%DB2PATH%\samples\wrapper_sdk_java

サンプル Java ラッパーには、以下のものが入っています。

- Java API のクラスおよびメソッドについて説明する Javadoc
- ラッパー開発用の Java API の使用法を説明するために使われるサンプル・ラッパーのソース・コード

DB2 コントロール・センターにラッパーを追加するためのツール およびサンプル

ラッパー開発キットには、DB2 コントロール・センターにカスタム・ラッパーのサポートを追加するのに役立つ、以下のツールおよびサンプル・ファイルが組み込まれています。

- DB2 コントロール・センターのオプションにカスタム・ラッパーを追加するための構成ファイルを作成する「XML 構成ファイルの作成 (Develop XML Configuration File)」ウィザード。表 15 は、各プラットフォームごとの、このウィザードを開始するファイルの入ったディレクトリーを示しています。

表 15. プラットフォーム別の「XML 構成ファイルの作成 (Develop XML Configuration File)」ウィザードを開始するためのディレクトリー

プラットフォーム	ラッパーのインストール・ディレクトリー
AIX	/usr/opt/db2_08_01/lib/db2wrapperconfig
HP/Sun/Linux	/opt/IBM/db2/V8.1/lib/db2wrapperconfig
Windows	%DB2PATH%\bin\db2wrapperconfig.bat

- 「XML 構成ファイルの作成 (Develop XML Configuration File)」ウィザードからのサンプルの出力ファイル。表 16 は、各プラットフォームごとの、サンプルの出力ファイルの入ったディレクトリーを示しています。

表 16. プラットフォーム別の「XML 構成ファイルの作成 (Develop XML Configuration File)」ウィザードからのサンプルの出力ファイルのディレクトリー

プラットフォーム	ラッパーのインストール・ディレクトリー
AIX	/usr/opt/db2_08_01/samples/wrapper_sdk/cc_plugin
HP/Sun/Linux	/opt/IBM/db2/V8.1/samples/wrapper_sdk/cc_plugin
Windows	%DB2PATH%\samples\wrapper_sdk\cc_plugin

- ラッパーで DB2 コントロール・センターのディスカバリー・フィーチャーをサポートする場合に使用できる、基本ディスカバリー・ツール。このツールは、ラッパーのデータ・ソースについて発見したものをすべて表示する、単純な Java GUI です。このツールは、DB2 コントロール・センターにも組み込まれています。77 ページの表 17 は、各プラットフォームごとの、Java .jar ファイルとしてこのツールを備えているディレクトリーを示しています。

表 17. プラットフォーム別の基本ディスカバリー・ツールのディレクトリー

プラットフォーム	ラッパーのインストール・ディレクトリー
AIX	/usr/opt/db2_08_01/tools/db2WrapperDiscoverySDK.jar
HP/Sun/Linux	/opt/IBM/db2/V8.1/tools/db2WrapperDiscoverySDK.jar
Windows	%DB2PATH%\tools\%db2WrapperDiscoverySDK.jar

- ここに準備されているサンプル Java ストアード・プロシージャは、ラッパーの作成者がコントロール・センターに対するプラグインを作成するために、組み込みディスカバリーをどのように役立てることができるかを示す例です。表 18 は、ストアード・プロシージャ、ストアード・プロシージャをコンパイルするための Makefile、およびフェデレーテッド・サーバーにマークアップ・ファイルをインストールするためのスクリプトが入っているディレクトリーを示しています。

表 18. プラットフォーム別のサンプル Java ストアード・プロシージャのディレクトリー

プラットフォーム	ラッパーのインストール・ディレクトリー
AIX	/usr/opt/db2_08_01/samples/wrapper_sdk%cc_plugin
HP/Sun/Linux	/opt/IBM/db2/V8.1/samples/wrapper_sdk%cc_plugin
Windows	%DB2PATH%\samples\wrapper_sdk%cc_plugin

関連概念:

- 「*IBM DB2 Information Integrator* ラッパー開発者向けガイド」の『ラッパーの作成プロセス』
- 「*IBM DB2 Information Integrator* ラッパー開発者向けガイド」の『ラッパーを開発するための一般的な手順』

関連タスク:

- 「*IBM DB2 Information Integrator* ラッパー開発者向けガイド」の『DB2 コントロール・センターへのデータ・ソースの追加』
- 77 ページの『ラッパー開発キットのインストール』

ラッパー開発キットのインストール

この手順を行って、C++ および Java でのラッパーの開発用のソフトウェア開発キット (SDK) をインストールします。

ラッパー開発キットをインストールするには、指定のサーバーのインストールと一緒に以下の製品のうちの 1 つをインストールする必要があります。

製品	サーバー・インストールのタイプ
DB2 Application Development Client	標準およびコンパクト
DB2 Universal Database Enterprise Server Edition	カスタム
DB2 Universal Database Connect Enterprise Edition	カスタム

手順:

ラッパー開発キットをインストールするには、

1. DB2 セットアップ・ウィザードで、「製品のインストール」をクリックします。ウィザードの指示に従って、「インストールする機能の選択」ページまで進みます。インストールしようとしている製品に適したサーバー・インストールのタイプを選択します。
2. 「アプリケーション開発ツール」ツリーを展開します。
3. 「基本アプリケーション開発ツール (Base Application Development Tools)」をクリックし、ドロップダウン・リストからインストール・オプションを選択します。
4. (オプション) サンプル・ラッパーをインストールするには、「サンプル・アプリケーション」をクリックし、ドロップダウン・リストからインストール・オプションを選択します。
5. ウィザードの指示に従ってインストールを完了してください。

関連概念:

- 75 ページの『ラッパー開発キット』

関連タスク:

- 「DB2 Universal Database クライアント機能 概説およびインストール」の『DB2 クライアントのインストール (Windows)』
- 「DB2 Universal Database クライアント機能 概説およびインストール」の『DB2 クライアントのインストール (UNIX)』
- 78 ページの『DB2 Universal Database のインストール先のシステムへのラッパー開発キットの追加 (Windows)』
- 54 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (Windows)』

DB2 Universal Database のインストール先のシステムへのラッパー開発キットの追加 (Windows)

DB2 Universal Database バージョン 8.2 以降がシステムにインストールされている場合、DB2 Universal Database を再インストールしなくても、C++ および Java のラッパーの開発用のソフトウェア開発キット (SDK) をインストールすることができます。それ以前のバージョンがインストールされている場合にラッパー開発キットをインストールするには、バージョン 8.2 以上の DB2 Universal Database への移行またはアップグレードを行います。

手順:

DB2 Universal Database のインストール先のシステムにラッパー開発キットを追加するには、次のようにします。

1. 実行中のすべての DB2 サービスを停止します。
2. 「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」→「プログラムの追加と削除」をクリックします。

3. 「現在インストールされているプログラム」のウィンドウで、**DB2 Enterprise Server Edition** をクリックした後、「変更」をクリックします。DB2 セットアップ・ウィザードが開きます。
4. 「次へ」をクリックします。「プログラムの保守 (Program Maintenance)」ページが開きます。
5. 「変更 (Modify)」をクリックします。
6. 「次へ」をクリックします。「インストールする製品を選択してください (Select the features you want to install)」ウィンドウが開きます。
7. 「アプリケーション開発ツール」ツリーを展開します。
8. 「基本アプリケーション開発ツール (Base Application Development Tools)」をクリックし、ドロップダウン・リストからインストール・オプションを選択します。
9. (オプション) サンプル・ラッパーをインストールするには、「サンプル・アプリケーション」をクリックし、ドロップダウン・リストからインストール・オプションを選択します。
10. ウィザードの指示に従ってインストールを完了してください。

関連タスク:

- 「DB2 Universal Database クライアント機能 概説およびインストール」の『DB2 クライアントのインストール (Windows)』
- 「DB2 Universal Database クライアント機能 概説およびインストール」の『DB2 クライアントのインストール (UNIX)』
- 77 ページの『ラッパー開発キットのインストール』
- 54 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (Windows)』

DB2 Universal Database のインストール先のシステムへのラッパー開発キットの追加 (UNIX)

DB2 Universal Database バージョン 8.2 以降がシステムにインストールされている場合、DB2 Universal Database を再インストールしなくても、C++ および Java のラッパーの開発用のソフトウェア開発キット (SDK) をインストールすることができます。それ以前のバージョンがインストールされている場合にラッパー開発キットをインストールするには、バージョン 8.2 以上の DB2 Universal Database への移行またはアップグレードを行います。

前提条件:

UNIX に DB2 Universal Database クライアントをインストールする前に、次のようにします。

- インストール先システムが、DB2 製品をインストールするためのメモリー、ハードウェア、およびソフトウェアの要件をすべて満たしていることを確認してください。
- Solaris または HP-UX に DB2 Universal Database クライアントをインストールする場合には、カーネル構成パラメーターを更新してから、システムを再始動してください。

|

手順:

| DB2 Universal Database のインストール先のシステムにラッパー開発キットを追加

| するには、次のようにします。

- | 1. root 権限を持つユーザーとしてログインします。
- | 2. 該当する CD を挿入およびマウントします。
- | 3. コマンド `cd /cdrom` を入力することにより、CD のマウント・ディレクトリー

| に移動します (`/cdrom` は CD のマウント・ポイント)。

- | 4. コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力します。

| `./db2setup`

| DB2 セットアップ・ウィザードが開きます。

- | 5. 「製品のインストール (**Install Products**)」をクリックします。「インストール

| する製品を選択してください (Select the products you want to install)」ウィンド

| ウが開きます。

- | 6. 「アプリケーション開発ツール」ツリーを展開します。
- | 7. 「基本アプリケーション開発ツール (**Base Application Development**

| **Tools**)」をクリックし、ドロップダウン・リストからインストール・オプション

| を選択します。

- | 8. (オプション) サンプル・ラッパーをインストールするには、「サンプル・アプリ

| ケーション」をクリックし、ドロップダウン・リストからインストール・オプシ

| ョンを選択します。

- | 9. ウィザードの指示に従ってインストールを完了してください。

| 関連タスク:

- | • 78 ページの『DB2 Universal Database のインストール先のシステムへのラッパー

| 開発キットの追加 (Windows)』

- | • 77 ページの『ラッパー開発キットのインストール』

7 第 5 章 XML メタデータ・レジストリーのインストール

7 以下のトピックは、DB2 XML メタデータ・レジストリーをインストールする方
7 法を説明しています。

7 XML メタデータ・レジストリーのインストール - 概要

7 以下の手順は、XML メタデータ・レジストリーをインストールする基本タスクを説
7 明しています。これらのタスクについては、他の項でさらに詳しく説明されていま
7 す。

7 **セキュリティの要件:** DB2 用のアプリケーション・サーバーのグローバル・セキ
7 ュリティ・フィーチャーは、XML メタデータ・レジストリーのインストール時に
7 使用可能になります。XML メタデータ・レジストリーをインストールした後、
7 DB2 用のアプリケーション・サーバー上のすべてのアプリケーションと、リモート
7 管理プロシージャは、その DB2 用のアプリケーション・サーバーへの接続のた
7 めのユーザー ID とパスワードをもっていなければなりません。

7 前提条件:

7 DB2 用のアプリケーション・サーバーと XML メタデータ・レジストリーのインス
7 トールに関するハードウェアとソフトウェアの要件がシステムで満たされているこ
7 とを確認してください。

7 手順:

7 XML メタデータ・レジストリーをインストールするには、次のようにします。

- 7 1. DB2 用のアプリケーション・サーバーをインストールします。
- 7 2. XMR データベースを作成して、`deployXMR` コマンドを実行し、DB2 XML メ
7 タデータをインストールします。

7 関連タスク:

- 7 • 82 ページの『DB2 用のアプリケーション・サーバーのインストール』
- 7 • 84 ページの『XML メタデータ・レジストリーのインストール』

7 関連資料:

- 7 • 31 ページの『DB2 Information Integrator のハードウェア要件』
- 7 • 36 ページの『DB2 Information Integrator でサポートされるオペレーティング・シ
7 ステム (32 ビット)』
- 7 • 35 ページの『DB2 Information Integrator のソフトウェア要件』
- 7 • 41 ページの『DB2 Information Integrator でサポートされるオペレーティング・シ
7 ステム (64 ビット)』
- 7 • 46 ページの『DB2 XML メタデータ・レジストリーでサポートされる Web ブラ
7 ウザー』

DB2 用のアプリケーション・サーバーのインストール

DB2 用のアプリケーション・サーバーは、組み込みアプリケーション・サーバーを備えています。これにより、DB2 で提供される Web アプリケーションは、別々にインストールされているアプリケーション・サーバーに依存せずに実行することができます。

DB2 用のアプリケーション・サーバーは、以下の 2 つの CD のいずれかから入手することができます。

- CD1 DB2 組み込みアプリケーション・サーバーおよびアプリケーション (XML レジストリー、Web 管理ツール、および Java 分散デバッガー) : Linux (x86、32 ビット)、Linux (iSeries および pSeries)、Linux (S/390、zSeries)、および Windows 32 ビットの場合。
- CD2 DB2 組み込みアプリケーション・サーバーおよびアプリケーション (XML レジストリー、Web 管理ツール、および Java 分散デバッガー) : AIX (32 ビット)、HP-UX、および Solaris オペレーティング環境の場合。

組み込みアプリケーション・サーバーは AIX 4.3.3 ではサポートされていません。

DB2 アプリケーション・サーバーがインストールされると、`AppServer_install_path/bin` 内で、**startServer** および **stopServer** コマンドを使用して、DB2 とは独立して DB2 アプリケーション・サーバーを開始および停止することができます。DB2 で提供されている Web Administration Tools は、組み込まれたアプリケーション・サーバーを使用することができます。

前提条件:

DB2 アプリケーション・サーバーをインストールする前に、以下のことを確認します。

- DB2 ESE バージョン 8.2 以降
- 少なくとも 1 つの DB2 インスタンスが存在する。

制約事項:

以下の制約事項は、Red Hat Linux だけにに関するものです。

デフォルトの Red Hat インストールでは、マシンのホスト名とループバック・アドレス 127.0.0.1 との関連を作成します。加えて、`/etc/nsswitch.conf` ファイルがセットアップされ、ネーム・サーバー (DNS) を使ってサーバーを検索しようとする前に、`/etc/hosts` が使用されます。このループバック処理は、`startServer.sh` などのサーバー開始/停止ユーティリティーをハングさせる可能性があります。それでも、サーバーは正常に開始または停止すると思われる。

ホスト名が適切に定義されていることを確認してください。デフォルトの構成では、`/etc/hosts` ファイルにローカル・ホストが定義されています。デフォルトの `/etc/nsswitch.conf` はホスト・ファイルだけを調べ、DNS サーバーは調べません。

この問題を訂正するには、`/etc/hosts` ファイル内の 127.0.0.1 マッピングを除去するか、または、ネーム・サーバーを使用して適切なホスト名の解決が行われるように、ネーム・サービス構成ファイル `/etc/nsswitch.conf` を編集します。例えば、`/etc/hosts` ファイルから下記のような 127.0.0.1 マッピングを除去します。

```
| # IP Address name of machine
| n.n.n.n hostname.domain.com
| 127.0.0.1 localhost
```

|あるいは、ホスト・ファイルを検索するよりも前に DNS を検索するように
|etc/nsswitch.conf ファイルを変更します。例えば、hosts : dns files とします。

| 手順:

| DB2 アプリケーション・サーバーをインストールするには、以下を実行します。

| 1. UNIX オペレーティング・システムでは **root** として、 Windows オペレーティ
|ング・システムでは**管理者**特権を持つユーザーとして、 DB2 サーバーにログオ
|ンします。

7 2. UNIX ベースのオペレーティング・システムでは、以下のコマンドを実行しま
7す。

```
7 . /db2instance_path/sql1lib/db2profile
```

7 ここで、*db2instance_path* は、DB2 インスタンスが作成された場所です。

| 3. 次のコマンドを実行します。

```
| db2appserverinstall
| -asroot absolute_path_for_App_Server_install
| -hostname hostname
```

| ここで、*absolute_path_for_App_Server_install* は、 DB2 アプリケーション・サー
|バーをインストールする場所で、 *hostname* は、マシンのホスト名です。

| 4. インストールが成功すると、以下のメッセージが戻されます。

```
| EAS001 installation successful.
```

| インストールが失敗すると、エラー・メッセージが戻されます。すべてのメッセ
|ージは、以下のようにログ・ファイルに書き込まれます。

- | • UNIX オペレーティング・システムでは、ログ・ファイルは、
| /tmp/easInstall.log 内にあります。
- | • Windows オペレーティング・システムでは、ログ・ファイルは、
| c:%TEMP%easInstall.log 内にあります。

| 注:

| 1. インストールで使用されるデフォルト・ポートは、**20000** です。ただし、代わり
|に別のポートを使用する場合、使用するポート番号を持つ

| UpdateExpressDB2Ports.bat または UpdateExpressDB2Ports.sh ファイルを編集
|し、 **UpdateExpressPorts** コマンドを実行してください。

| 2. ポート番号の変更を有効にするには、アプリケーション・サーバーを再始動する
|必要があります。

| 3. ポートの値を変更した場合、リモート管理はサポートされなくなります。

| DB2 用のアプリケーション・サーバーをインストールすると、DB2 Web ツールを
|インストールしたり、データベースをリモート管理に使用可能にしたり、それら両
|方を行うこともできます。 DB2 Web ツールをインストールする場合、 DB2 用の
|アプリケーション・サーバーはローカルに開始する必要があります。 DB2 用のア
|プリケーション・サーバーを使用可能にした場合、アプリケーション・サーバーは
|自動的に開始します。

ローカル・コンピューターか、ネットワーク上の別のコンピューターにある DB2 資料に DB2 製品からアクセスできるようにする場合は、DB2 インフォメーション・センターをインストールする必要があります。DB2 インフォメーション・センターには、DB2 Universal Database と DB2 関連製品の資料が収録されています。

関連概念:

- 「インストールおよび構成 補足」の『DB2 Web コマンド・センター』
- 「インストールおよび構成 補足」の『DB2 Web ヘルプ・センター』

関連タスク:

- 「インストールおよび構成 補足」の『WebSphere Application Server 上での DB2 Web ツールのデプロイ』
- 99 ページの『DB2 用のアプリケーション・サーバーのアンインストール』
- 「インストールおよび構成 補足」の『DB2 用のアプリケーション・サーバーをローカルに開始する』
- 「インストールおよび構成 補足」の『DB2 用のアプリケーション・サーバーをローカルに停止する』
- 「インストールおよび構成 補足」の『DB2 用のアプリケーション・サーバーを使用可能にする』
- 「インストールおよび構成 補足」の『DB2 用のアプリケーション・サーバーをリモート側で開始する』

XML メタデータ・レジストリーのインストール

DB2 XML メタデータ・レジストリー・インストーラーは、DB2 用のアプリケーション・サーバーのインストール時に `RootAppServDB2\xmr\bin` ディレクトリーに置かれます。`RootAppServDB2` は、DB2 用のアプリケーション・サーバーのルート・ディレクトリーです。XML メタデータ・レジストリーは、DB2 Universal Database および DB2 用のアプリケーション・サーバーと同じサーバーにインストールする必要があります。

セキュリティの要件: DB2 用のアプリケーション・サーバーのグローバル・セキュリティ・フィーチャーは、XML メタデータ・レジストリーのインストール時に使用可能になります。XML メタデータ・レジストリーをインストールした後、DB2 用のアプリケーション・サーバー上のすべてのアプリケーションと、リモート管理プロシージャは、その DB2 用のアプリケーション・サーバーへの接続のためのユーザー ID とパスワードをもっていなければなりません。

前提条件:

- XML メタデータ・レジストリーをインストールする前に、DB2 Universal Database バージョン 8.2 および DB2 用のアプリケーション・サーバーがインストールされていること。
- XML メタデータ・レジストリーをインストールするには、以下の権限が必要です。
 - XML メタデータ・レジストリー管理者として指定するユーザー ID には、XML メタデータ・レジストリーのレジストリー・データベースに対する

7 SYSADM 権限がなければなりません。また、そのユーザー ID には、使用可
7 能になったデータベースの DB2EAS スキーマ内のストアード・プロシージャ
7 に対する実行特権と、使用可能になったデータベース内の DB2EAS スキー
7 マの表に対する SELECT、INSERT、UPDATE、および DELETE 特権もなけれ
7 ばなりません。

7 - Windows システムでは、XML メタデータ・レジストリーのインストールに使
7 用するユーザー ID には、管理者権限がなければなりません。

7 - UNIX システムでは、XML メタデータ・レジストリーのインストールに使用
7 するユーザー ID には、ルート権限がなければなりません。

- 7 • UNIX システムでは、XML メタデータ・レジストリーをインストールする前
7 に、次のようなコマンドを実行します。

7 . /instance_home/sqllib/db2profile

7 *instance_home* は、XML メタデータ・レジストリーと一緒に使用する予定の DB2
7 インスタンスのロケーションです。

7 手順:

7 XML メタデータ・レジストリーをインストールするには、次のようにします。

- 7 1. 必要な権限でコンピューターにログオンします。

- 7 2. プロンプトに次のコマンドを入力します。

7 db2set -a11

7 DB2 Universal Database の変数リストが表示されます。

- 7 3. DB2_DOCHOST 変数と DB2_DOCPORT 変数の値を記録します。

7 インストール手順の中でその値を入力して、XML メタデータ・レジストリーの
7 ユーザー・インターフェースから資料にアクセスできるようにする必要があります。
7 DB2_DOCHOST 変数と DB2_DOCPORT 変数が表示されない場合、DB2 インフ
7 オメーション・センターはシステムにインストールされていません。インフォメ
7 ーション・センターをシステムにインストールするか、または
7 <http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/index.jsp> のオンラインのインフォメ
7 ーション・センターを指定します。

- 7 4. 既存の XMR リポジトリ・データベースを使用していない場合、DB2 コマン
7 ド・プロンプトに次のようなコマンドを入力します。

7 create database xmr using codeset UTF-8 territory US

7 US は、指定しようとしている国または地域コードです。

- 7 5. **deployXMR** コマンドを実行します。

7 既存の XMR リポジトリ・データベースを使用するには、**deployXMR** コマン
7 ドに **-keepDB** パラメーターを指定します。 `¥xmr¥bin` ディレクトリーからこの
7 コマンドを実行することができます。 `¥xmr¥bin` ディレクトリーは、DB2 用のア
7 プリケーション・サーバーのインストール先のディレクトリー内にあります。た
7 とえば、次のように指定します。

7 `deployXMR -u xmradmin -p p7sx9sa -s c:¥program files¥IBM¥sqllib -doc`
7 `publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/index.jsp -ad myApplicationServerDB`
7 `-language en_US`

publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/index.jsp のインフォメーション・センターの URL を指定することもできます。

XML メタデータ・レジストリーからアクセスされるインフォメーション・センターの URL またはポート番号を変更するには、このレジストリーをいったん除去してから再インストールする必要があります。

-ad *applicationServerDatabase*

DB2 用のアプリケーション・サーバー用に使用可能になったデータベースの名前。

-language *languageCode*

オプション: **-language** パラメーターは、DB2 XML メタデータ・レジストリー・ユーザー・インターフェースで使われる言語を指定します。ユーザー・インターフェースに表示したい言語の ID を指定します。言語パラメーターを使用しないと、ユーザー・インターフェースは、レジストリーのインストール先のコンピューターのデフォルト言語で表示されます。

このパラメーターで有効な言語 ID を以下の表に示してあります。

言語 ID	言語
zh_TW	中国語 (繁体字)
cs cs_CZ	チェコ語
da da_DK	デンマーク語
de de_DE	ドイツ語
en_US	英語
es es_ES	スペイン語
fi fi_FI	フィンランド語
fr fr_FR	フランス語
it it_IT	イタリア語
ja ja_JP	日本語
ko ko_KR	韓国語
no no_NO	ノルウェー語
pl pl_PL	ポーランド語
pt_BR	ブラジル・ポルトガル語
ru ru_RU	ロシア語
sv sv_SE	スウェーデン語
zh_CN	中国語 (簡体字)

-keepDB

オプション: 既存の XML メタデータ・レジストリー・リポジトリー・データベースを新規のリポジトリーとして初期化しないでこのデータベースを使用するには、このパラメーターを使用します。このパラメーターを指定しないと、XML メタデータ・レジストリー・リポジトリー・データベースは新規のリポジトリーとして初期化されて、その中のデータは除去されます。このパラメーターを指定する場合、XML メタデータ・レジストリーのインストールに使用したのと同じユーザー ID とパスワードを使用しなければなりません。

7
7
7
7
7

関連タスク:

- 84 ページの『XML メタデータ・レジストリーのインストール』

関連資料:

- 46 ページの『DB2 XML メタデータ・レジストリーでサポートされる Web ブラウザー』

第 6 章 トラブルシューティング

この章では、DB2 Information Integrator のインストール時に発生する可能性があるいくつかの問題と、その対処方法について説明します。

DB2 Information Integrator 製品のライセンス・キーの登録

インストール処理中に DB2 Information Integrator の製品ライセンス・キーの登録を正常に終了していない場合は、キーの登録を手作業で実行する必要があります。DB2 Information Integrator の製品ライセンス・キーを登録するには、`db2licm` コマンドを使用します。

ライセンス・キーの登録は、DB2 Information Integrator がインストールされているコンピューターごとに実行する必要があります。ライセンス・ファイルは、DB2 Information Integrator のインストール・ソフトウェアのライセンス・ディレクトリーに置かれています。

DB2 Information Integrator のライセンス・ファイルは、次のとおりです。

- DB2 Information Integrator Replication Edition および DB2 Information Integrator Event Publisher Edition: `db2iire.lic`
- DB2 Information Integrator Standard Edition: `db2iise.lic`
- DB2 Information Integrator Advanced Edition: `db2iiae.lic`
- DB2 Information Integrator Advanced Edition Unlimited: `db2iiue.lic`
- DB2 Information Integrator Developer Edition: `db2iide.lic`

手順:

DB2 Information Integrator の製品ライセンス・キーを登録するには、コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
db2licm -a filename
```

filename は、DB2 Information Integrator のライセンス・ファイルの絶対パスとファイル名です。たとえば、

```
db2licm -a d:\license\%db2iiae.lic
```

d:\ は、DB2 Information Integrator CD が置かれているドライブです。

関連タスク:

- 「インストールおよび構成 補足」の『`db2licm` コマンドによる DB2 製品ライセンス・キーの登録』
- 54 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (Windows)』
- 63 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (UNIX)』

DB2 Information Integrator インストール・ウィザードのエラー・ロギングの使用可能化

DB2 Information Integrator のインストール・プログラムを実行すると、デフォルトで `iisetaup.log` ファイルが作成されます。このファイルには、DB2 Information Integrator のインストール時に発生したすべてのエラーに関する詳細な情報が入れます。`iisetaup.log` ファイルは、Windows システムでは `%temp%ii` ディレクトリに、UNIX システムでは `/tmp/ii` ディレクトリに保管されます。

この `iisetaup.log` ファイル以外に、Java 例外スタックのトレースやシステム・エラー情報などの、DB2 Information Integrator インストール・プログラムでのエラーのデバッグに関する詳細情報を入れるログ・ファイルを作成することができます。ログ・ファイルが存在しない場合は作成されます。ログ・ファイルがすでに存在する場合は、その既存ファイルにエラー・ロギング情報が追加されます。

手順:

DB2 Information Integrator のインストール・プログラムのエラー・ロギングを使用可能にするには、以下のようにします。

Windows システムの場合は、プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
iisetaup.exe -is:log <logfileaname> -debug
```

UNIX システムの場合は、プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
./iisetaup -is:log logfileaname -debug
```

`logfileaname` は、ログ・ファイルの完全パスとファイル名です。完全修飾ファイル名を指定しないと、デバッグ目的に必要なすべての情報がログ・ファイルに入るとはかぎりません。このファイル名には任意の名前を指定することができます。たとえば、

```
iisetaup.exe -is:log c:%temp%ii%iisetaup_debug.log -debug
```

関連タスク:

- 54 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (Windows)』
- 63 ページの『DB2 Information Integrator のインストール (UNIX)』

XML メタデータ・レジストリー内のエラー・ロギング

レジストリー管理者は、XML メタデータ・レジストリー・ログ・ファイルを使用して、クライアントおよびサーバー・サイドのエラーに関する詳細を表示することができます。エラー・ロギングは、レジストリーのインストール時に自動的に使用可能になります。エラーは、DB2® 用のアプリケーション・サーバーのログ・ディレクトリ内の `systemout.out` ログ・ファイルに書き込まれます。

関連概念:

- 「DB2 XML Metadata Registry ヘルプ」の『XML メタデータ・レジストリー内のバックアップおよびリカバリー』

- 「*DB2 XML Metadata Registry* ヘルプ」の『XML メタデータ・レジストリー内の管理者』

第 7 章 DB2 Information Integrator の製品とコンポーネントの除去

以下のトピックは、DB2 Information Integrator の製品とコンポーネントをシステムから除去する方法を説明しています。

DB2 Information Integrator の除去

ここでは、製品ライセンス・キー、リレーショナル・ラッパー、非リレーショナル・ラッパー、ライフ・サイエンス・ユーザー定義関数、および Q レプリケーションの除去も含め、コンピューターから DB2 Information Integrator を削除するのに必要なステップを説明します。無償提供の同梱製品およびコンポーネントを削除する方法については、それぞれの製品資料を参照してください。

DB2 Universal Database の使用権限が、DB2 Information Integrator のライセンスでの使用に限定されている場合、DB2 Information Integrator の除去時に DB2 も除去しなければなりません。DB2 Universal Database の使用権限は、DB2 Information Integrator Replication Edition、DB2 Information Integrator Event Publisher Edition、および DB2 Information Integrator Standard Edition に対して限定されます。DB2 Universal Database Connect Enterprise Edition は、DB2 Information Integrator の構成部分ではないため、除去する必要はありません。システムからの DB2 Universal Database の除去に関する説明は、「インストールおよび構成 補足」を参照してください。

前提条件:

UNIX においてリレーショナル・ラッパーおよび非リレーショナル・ラッパーを削除するには、root 権限が必要です。

手順:

DB2 Information Integrator を除去するには、以下のようにします。

1. DB2 Information Integrator の製品ライセンス・キーを除去します。DB2 Information Integrator ライセンス・キーを除去すると、Q レプリケーションは使用不可になります。Q レプリケーションを除去するには、DB2 Universal Database を除去する必要があります。
2. リレーショナル・ラッパー、非リレーショナル・ラッパー、およびライフ・サイエンス・ユーザー定義関数をインストールしていた場合は、それらを除去します。ライフ・サイエンスのユーザー定義関数は、非リレーショナル・ラッパーのコンポーネントです。
3. DB2 Universal Database の使用権限が、DB2 Information Integrator のライセンスでの使用に限定されている場合、DB2 Universal Database Enterprise Server Edition も除去しなければなりません。

関連タスク:

- 「DB2 Universal Database サーバー機能 概説およびインストール」の『db2_deinstall コマンドを使用した DB2 製品の削除 (UNIX)』
- 「DB2 Universal Database サーバー機能 概説およびインストール」の『DB2 UDB のアンインストール (Windows)』
- 「DB2 Universal Database サーバー機能 概説およびインストール」の『DB2 UDB のアンインストール (UNIX)』
- 94 ページの『DB2 Information Integrator と DB2 製品ライセンス・キーの除去』
- 95 ページの『リレーショナル・ラッパー、非リレーショナル・ラッパー、およびライフ・サイエンス・ユーザー定義関数の除去 (Windows)』
- 96 ページの『ラッパー、ユーザー定義関数、およびラッパー開発キットの除去 (UNIX)』
- 97 ページの『ラッパー開発キットの除去 (Windows)』

関連資料:

- 111 ページの『DB2 Information Integrator の無償提供の同梱製品の資料』

DB2 Information Integrator と DB2 製品ライセンス・キーの除去

DB2 Information Integrator を除去する際には、DB2 Information Integrator の製品ライセンス・キー、およびインストールされているすべての無償提供の同梱製品も除去しなければなりません。

DB2 の使用権限が DB2 Information Integrator のライセンスでの使用のみに限定されていないかぎり、DB2 Universal Database のライセンスを除去する必要はありません。DB2 の使用権限は、DB2 Information Integrator Replication Edition、DB2 Information Integrator Event Publisher Edition、および DB2 Information Integrator Standard Edition に対して限定されます。DB2 Information Integrator の製品ライセンス・キーは、手作業で除去する必要があります。システムからの DB2 Universal Database の除去に関する詳しい説明は、「インストールおよび構成 補足」を参照してください。

DB2 Information Integrator のライセンス・ファイルは、次のとおりです。

- DB2 Information Integrator Replication Edition および DB2 Information Integrator Event Publisher Edition: db2iire.lic
- DB2 Information Integrator Standard Edition: db2iise.lic
- DB2 Information Integrator Advanced Edition: db2iiae.lic
- DB2 Information Integrator Advanced Edition Unlimited: db2iiue.lic
- DB2 Information Integrator Developer Edition: db2iide.lic

手順:

DB2 Information Integrator の製品ライセンス・キーを除去するには、以下のようになります。

1. DB2 コントロール・センターで、「ツール」->「ライセンス・センター」をクリックします。「ライセンス・センター」ウィンドウが表示されます。
2. 「システム名」フィールドに、ご使用のシステムの名前を指定します。

3. 「インストール済み製品」フィールドで、「**DB2 Information Integrator EdName Edition**」を選択します。

EdName は、インストールされているエディションの名前です。たとえば、DB2 Information Integrator Advanced Edition です。

4. 「**ライセンス (License)**」->「**除去**」をクリックします。
5. 「除去」ウィンドウで、「はい」をクリックして DB2 Information Integrator のライセンスを除去します。
6. 「インストール済み製品」フィールドで、「**DB2 Enterprise Server Edition**」を選択します。
7. 「**ライセンス (License)**」->「**除去**」をクリックします。
8. 「除去」ウィンドウで、「はい」をクリックして DB2 Enterprise Server Edition のライセンスを除去します。

関連タスク:

- 「DB2 Universal Database サーバー機能 概説およびインストール」の『DB2 UDB のアンインストール (Windows)』
- 「DB2 Universal Database サーバー機能 概説およびインストール」の『DB2 UDB のアンインストール (UNIX)』
- 93 ページの『DB2 Information Integrator の除去』

リレーショナル・ラッパー、非リレーショナル・ラッパー、およびライフ・サイエンス・ユーザー定義関数の除去 (Windows)

ここに示したタスクでは、リレーショナル・ラッパー、非リレーショナル・ラッパー、およびライフ・サイエンス・ユーザー定義関数を Windows システムから除去するステップを示します。KEGG ユーザー定義関数は、非リレーショナル・ラッパーのライフ・サイエンス・ユーザー定義関数コンポーネントの一部を成します。

7 非リレーショナル・ラッパーおよびライフ・サイエンス・ユーザー定義関数は、コン
7 ポーネント内にインストールされます。コンポーネント内のどのラッパーまたは
7 ユーザー定義関数も今後は使用しないのでないかぎり、そのコンポーネントを除去
7 しないでください。たとえば、Entrez や Documentum などのラッパーをまだ使っ
7 ている場合、そのようなラッパーを収めた Application Data コンポーネントを除去し
7 ないでください。

手順:

リレーショナル・ラッパー、非リレーショナル・ラッパー、およびライフ・サイエンス・ユーザー定義関数を除去するには、次のようにします。

1. Windows の「サービス」パネルを使用するか、または `db2stop` コマンドを使って、すべての DB2 プロセスを停止します。
2. Windows の「コントロール パネル」の「アプリケーションの追加と削除」ウィンドウを使用して、リレーショナル・ラッパー、非リレーショナル・ラッパー、およびライフ・サイエンス・ユーザー定義関数をシステムから除去します。
Windows オペレーティング・システムからソフトウェア製品を除去する方法については、各オペレーティング・システムのヘルプを参照してください。

関連タスク:

- 「DB2 Universal Database サーバー機能 概説およびインストール」の『DB2 UDB のアンインストール (Windows)』
- 「DB2 Universal Database サーバー機能 概説およびインストール」の『DB2 FixPak の削除』
- 93 ページの『DB2 Information Integrator の除去』

ラッパー、ユーザー定義関数、およびラッパー開発キットの除去 (UNIX)

ここに示したタスクでは、オペレーティング・システムに固有のツールを使って、リレーショナル・ラッパー、非リレーショナル・ラッパー、ライフ・サイエンス・ユーザー定義関数、およびラッパー開発キットを除去するステップを示します。KEGG ユーザー定義関数は、非リレーショナル・ラッパーのライフ・サイエンス・ユーザー定義関数コンポーネントの一部を成します。

7 非リレーショナル・ラッパーはコンポーネント内にインストールされています。コン
7 ンポーネント内のどのラッパーまたはユーザー定義関数も今後は使用しないのでな
7 いかぎり、そのコンポーネントを除去しないでください。たとえば、Entrez や
7 Documentum などのラッパーをまだ使っている場合、そのようなラッパーを収めた
7 Application Data コンポーネントを除去しないでください。

前提条件:

- DB2 Information Integrator コンポーネントを除去するには、root 権限を持っている必要があります。
- ComponentList.htm ファイルを見直して、どのファイル・セットを除去するかを決めます。ラッパーおよびユーザー定義関数の場合、ComponentList.htm ファイルは、DB2 Information Integrator 製品 CD の次のディレクトリーにあります。

```
/cdrom/<platform>/<wrapperDir>/db2/<platform>/ComponentList.htm
```

ラッパー開発キットの場合、ComponentList.htm ファイルは、DB2 Universal Database Enterprise Server Edition CD、DB2 Universal Database Connect Enterprise Edition CD、または DB2 Universal Database Application Development Client CD 内の以下のディレクトリーにあります。

```
/cdrom/db2/<platform>/ComponentList.htm
```

- *cdrom* は、この CD をマウントした場所です。
- *<platform>* は、使用プラットフォームに対応するディレクトリー名です。
- *<wrapperDir>* は、ラッパーまたはラッパー開発キットに対応するディレクトリーです。RCON ディレクトリーはリレーショナル・ラッパーに対応し、LSDC ディレクトリーは非リレーショナル・ラッパーとユーザー定義関数に対応します。

手順:

ラッパー、ユーザー定義関数、およびラッパー開発キットを除去するには、次のようにします。

1. DB2 Administration Server を停止します。
2. DB2 インスタンスを停止します。

3. root 権限を付与されたユーザーとしてログインします。

次のいずれかの方法を使用して、システムからラッパー、ユーザー定義関数、およびラッパー開発キットを除去します。

- AIX システムでは、System Management Interface Tool (SMIT) を使用することができます。
- HP-UX システムでは、swremove コマンドを使用することができます。
- Linux システムでは、rpm コマンドを使用することができます。
- Solaris システムでは、pkgrm コマンドを使用することができます。

関連タスク:

- 「DB2 Universal Database サーバー機能 概説およびインストール」の『DB2 UDB のアンインストール (UNIX)』
- 「DB2 Universal Database サーバー機能 概説およびインストール」の『DB2 FixPak の削除』
- 93 ページの『DB2 Information Integrator の除去』

ラッパー開発キットの除去 (Windows)

ラッパー開発キットを Windows システムから除去するには、以下に示した手順を行います。

手順:

ラッパー開発キットを除去するには、次のようにします。

1. DB2 のすべてのプロセスとサービスを停止します。それには、Windows の「サービス」パネルを使用するか、または db2stop コマンドを発行します。
2. Windows の「コントロール パネル」で、「アプリケーションの追加と削除」をクリックします。「アプリケーションの追加と削除」ウィンドウが開きます。
3. **DB2 Enterprise Server Edition** をクリックした後、「変更」をクリックします。
4. DB2 セットアップ・ウィザードで、「次へ」をクリックします。「プログラムの保守 (Program Maintenance)」ウィンドウが表示されます。
5. 「変更」を選択して、「次へ」をクリックします。
6. 「インストールする機能の選択」ページで、「アプリケーション開発ツール」ツリーを展開表示します。
7. 「基本アプリケーション開発ツール」 -> 「このフィーチャーは使用できません (This feature will not be available)」をクリックします。
8. 「次へ」をクリックして、ウィザードの指示に従って手順を実行します。

関連タスク:

- 93 ページの『DB2 Information Integrator の除去』
- 94 ページの『DB2 Information Integrator と DB2 製品ライセンス・キーの除去』
- 96 ページの『ラッパー、ユーザー定義関数、およびラッパー開発キットの除去 (UNIX)』

XML メタデータ・レジストリーの除去

XML メタデータ・レジストリーをコンピューターから除去するには、`undeployXMR` コマンドを使用します。

前提条件:

- UNIX システムでは、XML メタデータ・レジストリーのインストール先のシステムに対するルート権限を持っている必要があります。Windows システムでは、管理者権限を持っている必要があります。
- UNIX システムでは、XML メタデータ・レジストリーを除去する前に、次のようなコマンドを実行します。

```
. /instance_home/sqllib/db2profile
```

`instance_home` は、XML メタデータ・レジストリーと一緒に使用する DB2 インスタンスのロケーションです。

手順:

XML メタデータ・レジストリーをコンピューターから除去するには、次のようにします。

1. 必要な権限でコンピューターにログオンします。
2. `undeployXMR` コマンドを実行します。 `/xmr/bin` ディレクトリーからこのコマンドを実行することができます。 `/xmr/bin` ディレクトリーは、DB2 用のアプリケーション・サーバーのインストール先のディレクトリー内にあります。以下のコマンドは XML メタデータ・レジストリーをコンピューターから除去しますが、XMR リポジトリー・データベースは元のままになります。 `-keepDB` を指定しないと、XML メタデータ・レジストリーと一緒にリポジトリー・データベースが除去されます。

```
undeployXMR -u xmradmin -p xiy9s0s -ad myApplicationServerDB -keepDB
```

関連タスク:

- 84 ページの『XML メタデータ・レジストリーのインストール』

関連資料:

- 98 ページの『undeployXMR コマンド構文』

undeployXMR コマンド構文

XML メタデータ・レジストリーをコンピューターから除去するには、`undeployXMR` コマンドを使用します。 `undeployXMR` コマンドの構文は、次のとおりです。

構文

```
▶▶undeployXMR—-u—userID—-p—password—-ad—applicationServerDatabase—-keepDB—▶▶
```

-u *userID*

XML メタデータ・レジストリーの管理者ユーザー ID。これは、`deployXMR` コマンドで使用したのと同じユーザー ID です。

-p *password*

-u パラメーターに指定するユーザー ID のパスワード。

-ad *applicationServerDatabase*

DB2 用のアプリケーション・サーバー用に使用可能になったデータベースの名前。

-keepDB

オプション: XMR リポジトリ・データベースを保存するには、このパラメーターを使用します。このパラメーターを指定しないと、XMR データベースはシステムから除去されます。

関連タスク:

- 98 ページの『XML メタデータ・レジストリーの除去』

DB2 用のアプリケーション・サーバーのアンインストール

アプリケーション・サーバーが DB2 で提供される Web アプリケーションを必要としなくなる場合、インストール後にシステムから除去することができます。

制約事項:

アプリケーション・サーバーのアンインストール・プログラムは DB2 を参照します。したがって、DB2 のアンインストールの前にそれを呼び出す必要があります。

手順:

DB2 アプリケーション・サーバーをアンインストールするには、以下を実行します。

1. UNIX オペレーティング・システムでは **root** として、Windows オペレーティング・システムでは**管理者特権を持つユーザー**として、DB2 サーバーにログインします。
2. UNIX ベースのオペレーティング・システムでは、以下のコマンドを実行します。

```
./db2instance_path/sql1lib/db2profile
```

ここで、*db2instance_path* は、DB2 インスタンスが作成された場所です。

3. 次のコマンドを実行します。

```
AppServer_install_path/bin/db2appserveruninstall
```

ここで、*AppServer_install_path* は、DB2 アプリケーション・サーバーがインストールされたパスです。

DB2 用のアプリケーション・サーバーからの DB2 Web サービス・アプリケーションのアンインストール

DB2 Web サービス・アプリケーションは、DB2 用のアプリケーション・サーバーが使用可能にされたときに自動的にインストールされています。

7 DB2 Web サービス・アプリケーションをアンインストールするには、以下のコマンド
7 を入力します。

```
7 db2 "call db2eas.uninstallapp('DB2WebServices',[user_id,password],?,?)"
```

7 ここで、

- 7 • *user_id* は、DB2 用のアプリケーション・サーバー内でグローバル・セキュリ
7 ティーが使用可能にされたときに、アプリケーション・サーバーにログオンする
7 ために必要なユーザー ID です。
- 7 • *password* は、DB2 用のアプリケーション・サーバー内でグローバル・セキュリ
7 ティーが使用可能にされたときに、アプリケーション・サーバーにログオンする
7 ために必要なパスワードです。
- 7 • *?* は、エラー・メッセージや警告などの通知を戻すために使用される出力パラメ
7 ター・メッセージです。
- 7 • *?* は、呼び出し側アプリケーションのエラー検査で使用される整数戻りコードを
7 戻すために使用される、出力パラメーター戻りコードです。

7 DB2 Web サービス・アプリケーションがアンインストールされた場合、後で再イン
7 ストールするためには次のコマンドを入力します。

```
7 db2 "call db2eas.installApp('DB2WebServices',[user_id,password],?,?)"
```

7 ここで、

- 7 • *user_id* は、DB2 用のアプリケーション・サーバー内でグローバル・セキュリ
7 ティーが使用可能にされたときに、アプリケーション・サーバーにログオンする
7 ために必要なユーザー ID です。
- 7 • *password* は、DB2 用のアプリケーション・サーバー内でグローバル・セキュリ
7 ティーが使用可能にされたときに、アプリケーション・サーバーにログオンする
7 ために必要なパスワードです。
- 7 • *?* は、エラー・メッセージや警告などの通知を戻すために使用される出力パラメ
7 ター・メッセージです。
- 7 • *?* は、呼び出し側アプリケーションのエラー検査で使用される整数戻りコードを
7 戻すために使用される、出力パラメーター戻りコードです。

7 関連概念:

- 7 • 「インストールおよび構成 補足」の『DB2 Web コマンド・センター』
- 7 • 「インストールおよび構成 補足」の『DB2 Web ヘルプ・センター』

7 関連タスク:

- 7 • 「インストールおよび構成 補足」の『WebSphere Application Server 上での DB2
7 Web ツールのデプロイ』
- 7 • 82 ページの『DB2 用のアプリケーション・サーバーのインストール』
- 7 • 「インストールおよび構成 補足」の『DB2 用のアプリケーション・サーバーを
7 ローカルに開始する』
- 7 • 「インストールおよび構成 補足」の『DB2 用のアプリケーション・サーバーを
7 ローカルに停止する』

付録. 技術資料

この付録では、次の製品の資料に関する情報を記載しています。

- DB2 Information Integrator
- 無償提供の同梱製品

DB2 Information Integrator の資料

7 このトピックでは、DB2 Information Integrator に使用可能な資料に関する情報を提供
7 します。このトピックの表では、公式の文書タイトル、資料番号、および各 PDF
7 ブックのロケーションを記載しています。印刷版をオーダーするには、公式の資料
7 名か資料番号のいずれかを知っている必要があります。DB2 Information Integrator
7 リリース情報およびインストール要件の表題、ファイル名、および位置も、このト
7 ピックに記載されています。

7 このトピックには、以下のセクションが含まれています。

- 7 • DB2 Information Integrator 資料へのアクセス
- 7 • z/OS でのレプリケーション機能の資料
- 7 • z/OS での DB2 Universal Database のイベント・パブリッシング機能の資料
- 7 • z/OS での IMS および VSAM のイベント・パブリッシング機能の資料
- 7 • Linux、UNIX、および Windows でのイベント・パブリッシングおよびレプリケ
7 ーション機能の資料
- 7 • z/OS でのフェデレーテッド機能の資料
- 7 • Linux、UNIX、および Windows でのフェデレーテッド機能の資料
- 7 • Linux、UNIX、および Windows でのエンタープライズ検索の資料
- 7 • リリース情報およびインストール要件

DB2 Information Integrator 資料へのアクセス

7 すべての DB2 Information Integrator ブックおよびリリース情報は、
7 www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/support.html の DB2 Information Integrator
7 Support の Web サイトで、PDF ファイルとして使用可能です。

DB2 Information Integrator Support の Web サイトから最新の DB2 Information Integrator 製品資料にアクセスするには、102 ページの図 7 に示されているように、Product Information リンクをクリックしてください。

The screenshot shows the IBM DB2 Information Integrator Support website. The top navigation bar includes 'Home', 'Products & services', 'Support & downloads', and 'My account'. The breadcrumb trail is 'Software > DB2 Information Management > DB2 Information Integration >'. The main heading is 'DB2 Information Integrator'. Below this is a search bar with the text 'Search support for this product' and 'Enter search terms, phrase, error code or APAR number'. There are three checkboxes for filtering results: 'Solve a problem (FAQs, APARs, Technotes)', 'Download (Fixes, Patches)', and 'Learn (Manual Papers, etc.)'. A 'Submit' button is present, along with a 'Search assistance' link. Below the search bar are links for 'Advanced search for this product' and 'Search all software support'. The left sidebar has a 'Support' section with 'My support' and 'Submit & track problems' highlighted. The 'Learn' section is circled, with 'Product information' highlighted and a hand cursor pointing to it. The 'Self help' section includes 'Solve a problem' (with a 'Technotes' link), 'Download' (with 'Get Statistics Utilities' and 'Version 8.1 Fix Packs' links), and 'Learn' (with 'Product information' and 'eBooks' links). The 'Problem submission' section includes a link for 'Submit & track problem:' and a link for 'How to buy support for your software'. There is also an 'Other resources' section.

図7. DB2 Information Integrator Support の Web サイトから Product Information リンクにアクセスする

- 7 Product Information リンクから、サポートされるすべての言語で、次のような最新
 7 の DB2 Information Integrator 資料にアクセスすることができます。
- 7 • DB2 Information Integrator 製品資料 (PDF ファイル)
 - 7 • リリース情報を含むフィックスパック製品資料
 - 7 • Linux、UNIX、および Windows 用の DB2 インフォメーション・センターのダウ
 7 ンロードとインストールの指示
 - 7 • オンライン版の DB2 インフォメーション・センターへのリンク

ご使用のバージョンの DB2 Information Integrator 用の製品資料が見つかるまで、リストをスクロールしてください。

7 DB2 Information Integrator Support の Web サイトではさらに、サポート資料、IBM
 7 Redbooks、白書、製品ダウンロード、ユーザー・グループへのリンク、および DB2
 7 Information Integrator に関するニュースが提供されています。

DB2 Information Integrator の PDF ブックは、*DB2 PDF Documentation CD* から
 も、表示および印刷することができます。

7 PDF 資料を表示または印刷するには、以下のようにします。

- 7 1. *DB2 PDF Documentation CD* のルート・ディレクトリーで、`index.htm` ファイル
 7 をオープンします。
- 7 2. 使用したい言語をクリックします。
- 7 3. 表示したい文書のリンクをクリックします。

z/OS でのレプリケーション機能の資料

7 表 19. z/OS でのレプリケーション機能に関する *DB2 Information Integrator* 資料

資料名	資料番号	位置
<i>ASNCLP Program Reference for Replication and Event Publishing</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
レプリケーションとイベント・パブリッシング 入門	GC88-9895	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Migrating to SQL Replication</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
レプリケーションとイベント・パブリッシング ガイドおよびリファレンス	SC88-9893	<ul style="list-style-type: none"> • <i>DB2 PDF</i> ドキュメンテーション CD • DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Replication Installation and Customization Guide for z/OS</i>	SC18-9127	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
SQL レプリケーション・ガイドおよびリファレンス	SC88-9163	<ul style="list-style-type: none"> • <i>DB2 PDF</i> ドキュメンテーション CD • DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Tuning for Replication and Event Publishing Performance</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Tuning for SQL Replication Performance</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト

表 19. z/OS でのレプリケーション機能に関する DB2 Information Integrator 資料 (続き)

資料名	資料番号	位置
<i>Release Notes for IBM DB2 Information Integrator Standard Edition, Advanced Edition, and Replication for z/OS</i>	なし	<ul style="list-style-type: none"> DB2 インフォメーション・センターの、「製品概要 (Product Overviews)」 > 「インフォメーション・インテグレーション (Information Integration)」 > 「DB2 Information Integrator 概要 (DB2 Information Integrator overview)」 > 「問題とその回避方法、およびドキュメンテーションの更新 (Problems, workarounds, and documentation updates)」 DB2 Information Integrator の インストール・ランチパッド DB2 Information Integrator Support の Web サイト DB2 Information Integrator 製品 CD

z/OS での DB2 Universal Database のイベント・パブリッシング機能の資料

表 20. z/OS での DB2 Universal Database のイベント・パブリッシング機能に関する DB2 Information Integrator 資料

資料名	資料番号	位置
<i>ASNCLP Program Reference for Replication and Event Publishing</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
レプリケーションとイベント・パブリッシング 入門	GC88-9895	<ul style="list-style-type: none"> DB2 PDF ドキュメンテーション CD DB2 Information Integrator Support の Web サイト
レプリケーションとイベント・パブリッシング ガイドおよびリファレンス	SC88-9893	<ul style="list-style-type: none"> DB2 PDF ドキュメンテーション CD DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Tuning for Replication and Event Publishing Performance</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト

表 20. z/OS での DB2 Universal Database のイベント・パブリッシング機能に関する DB2 Information Integrator 資料 (続き)

資料名	資料番号	位置
<i>Release Notes for IBM DB2 Information Integrator Standard Edition, Advanced Edition, and Replication for z/OS</i>	なし	<ul style="list-style-type: none"> DB2 インフォメーション・センターの、「製品概要 (Product Overviews)」 > 「インフォメーション・インテグレーション (Information Integration)」 > 「DB2 Information Integrator 概要 (DB2 Information Integrator overview)」 > 「問題とその回避方法、およびドキュメンテーションの更新 (Problems, workarounds, and documentation updates)」 DB2 Information Integrator のインストール・ランチパッド DB2 Information Integrator Support の Web サイト DB2 Information Integrator 製品 CD

z/OS での IMS および VSAM のイベント・パブリッシング機能の資料

表 21. z/OS での IMS および VSAM のイベント・パブリッシング機能に関する DB2 Information Integrator 資料

資料名	資料番号	位置
<i>Client Guide for Classic Federation and Event Publisher for z/OS</i>	SC18-9160	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Data Mapper Guide for Classic Federation and Event Publisher for z/OS</i>	SC18-9163	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Getting Started with Event Publisher for z/OS</i>	GC18-9186	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Installation Guide for Classic Federation and Event Publisher for z/OS</i>	GC18-9301	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Operations Guide for Event Publisher for z/OS</i>	SC18-9157	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Planning Guide for Event Publisher for z/OS</i>	SC18-9158	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Reference for Classic Federation and Event Publisher for z/OS</i>	SC18-9156	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>System Messages for Classic Federation and Event Publisher for z/OS</i>	SC18-9162	DB2 Information Integrator Support の Web サイト

表 21. z/OS での IMS および VSAM のイベント・パブリッシング機能に関する DB2 Information Integrator 資料 (続き)

資料名	資料番号	位置
<i>Release Notes for IBM DB2 Information Integrator Event Publisher for IMS for z/OS</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Release Notes for IBM DB2 Information Integrator Event Publisher for VSAM for z/OS</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト

Linux、UNIX、および Windows でのイベント・パブリッシング およびレプリケーション機能の資料

表 22. Linux、UNIX、および Windows でのイベント・パブリッシングおよびレプリケーション機能に関する DB2 Information Integrator 資料

資料名	資料番号	位置
<i>ASNCLP Program Reference for Replication and Event Publishing</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
インストール・ガイド (Linux、UNIX、Windows 版)	GC88-9562	<ul style="list-style-type: none"> DB2 PDF ドキュメンテーション CD DB2 Information Integrator Support の Web サイト
レプリケーションとイベント・パブリッシング 入門	GC88-9895	<ul style="list-style-type: none"> DB2 PDF ドキュメンテーション CD DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Migrating to SQL Replication</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
レプリケーションとイベント・パブリッシング ガイドおよびリファレンス	SC88-9893	<ul style="list-style-type: none"> DB2 PDF ドキュメンテーション CD DB2 Information Integrator Support の Web サイト
SQL レプリケーション・ガイドおよびリファレンス	SC88-9163	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Tuning for Replication and Event Publishing Performance</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Tuning for SQL Replication Performance</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト

表 22. Linux、UNIX、および Windows でのイベント・パブリッシングおよびレプリケーション機能に関する DB2 Information Integrator 資料 (続き)

資料名	資料番号	位置
<i>Release Notes for IBM DB2 Information Integrator Standard Edition, Advanced Edition, and Replication for z/OS</i>	なし	<ul style="list-style-type: none"> DB2 インフォメーション・センターの、「製品概要 (Product Overviews)」 > 「インフォメーション・インテグレーション (Information Integration)」 > 「DB2 Information Integrator 概要 (DB2 Information Integrator overview)」 > 「問題とその回避方法、およびドキュメンテーションの更新 (Problems, workarounds, and documentation updates)」 DB2 Information Integrator のインストール・ランチパッド DB2 Information Integrator Support の Web サイト DB2 Information Integrator 製品 CD

z/OS でのフェデレーテッド機能の資料

表 23. z/OS でのフェデレーテッド機能に関する DB2 Information Integrator 資料

資料名	資料番号	位置
<i>Client Guide for Classic Federation and Event Publisher for z/OS</i>	SC18-9160	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Data Mapper Guide for Classic Federation and Event Publisher for z/OS</i>	SC18-9163	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Getting Started with Classic Federation for z/OS</i>	GC18-9155	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Installation Guide for Classic Federation and Event Publisher for z/OS</i>	GC18-9301	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Reference for Classic Federation and Event Publisher for z/OS</i>	SC18-9156	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>System Messages for Classic Federation and Event Publisher for z/OS</i>	SC18-9162	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Transaction Services Guide for Classic Federation for z/OS</i>	SC18-9161	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Release Notes for IBM DB2 Information Integrator Classic Federation for z/OS</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト

Linux、UNIX、および Windows でのフェデレーテッド機能の資料

表 24. Linux、UNIX、および Windows でのフェデレーテッド機能に関する DB2 Information Integrator 資料

資料名	資料番号	位置
アプリケーション開発者向けガイド	SC88-9609	<ul style="list-style-type: none"> DB2 PDF ドキュメンテーション CD DB2 Information Integrator Support の Web サイト
ラッパー開発における C++ API リファレンス	SC88-9921	<ul style="list-style-type: none"> DB2 PDF ドキュメンテーション CD DB2 Information Integrator Support の Web サイト
データ・ソース構成ガイド	なし	<ul style="list-style-type: none"> DB2 PDF ドキュメンテーション CD DB2 Information Integrator Support の Web サイト
フェデレーテッド・システム・ガイド	SC88-9164	<ul style="list-style-type: none"> DB2 PDF ドキュメンテーション CD DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Guide to Configuring the Content Connector for VeniceBridge</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
インストール・ガイド (Linux、UNIX、Windows 版)	GC88-9562	<ul style="list-style-type: none"> DB2 PDF ドキュメンテーション CD DB2 Information Integrator Support の Web サイト
ラッパー開発における Java API リファレンス	SC88-9922	<ul style="list-style-type: none"> DB2 PDF ドキュメンテーション CD DB2 Information Integrator Support の Web サイト
マイグレーション・ガイド	SC88-9610	<ul style="list-style-type: none"> DB2 PDF ドキュメンテーション CD DB2 Information Integrator Support の Web サイト
ラッパー開発者向けガイド	SC88-9923	<ul style="list-style-type: none"> DB2 PDF ドキュメンテーション CD DB2 Information Integrator Support の Web サイト

表 24. Linux、UNIX、および Windows でのフェデレーテッド機能に関する DB2 Information Integrator 資料 (続き)

資料名	資料番号	位置
<i>Release Notes for IBM DB2 Information Integrator Standard Edition, Advanced Edition, and Replication for z/OS</i>	なし	<ul style="list-style-type: none"> DB2 インフォメーション・センターの、「製品概要 (Product Overviews)」 > 「インフォメーション・インテグレーション (Information Integration)」 > 「DB2 Information Integrator 概要 (DB2 Information Integrator overview)」 > 「問題とその回避方法、およびドキュメンテーションの更新 (Problems, workarounds, and documentation updates)」 DB2 Information Integrator の インストール・ランチパッド DB2 Information Integrator Support の Web サイト DB2 Information Integrator 製品 CD

Linux、UNIX、および Windows でのエンタープライズ検索機能の資料

表 25. Linux、UNIX、および Windows でのエンタープライズ検索機能に関する DB2 Information Integrator 資料

資料名	資料番号	位置
<i>Administering Enterprise Search</i>	SC18-9283	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Installation Guide for Enterprise Search</i>	GC18-9282	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Programming Guide and API Reference for Enterprise Search</i>	SC18-9284	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Release Notes for Enterprise Search</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト

リリース情報およびインストール要件

リリース情報には、ご使用の製品のリリースおよびフィックスパック・レベルに固有の情報が記載され、各リリースの資料への最新の修正が含まれています。

インストール要件には、ご使用の製品のリリースに固有の情報が記載されています。

表 26. DB2 Information Integrator のリリース情報およびインストール要件

資料名	ファイル名	位置
<i>Installation Requirements for IBM DB2 Information Integrator Event Publishing Edition, Replication Edition, Standard Edition, Advanced Edition, Advanced Edition Unlimited, Developer Edition, and Replication for z/OS</i>	Prereqs	<ul style="list-style-type: none"> DB2 Information Integrator 製品 CD DB2 Information Integrator のインストール・ランチパッド
<i>Release Notes for IBM DB2 Information Integrator Standard Edition, Advanced Edition, and Replication for z/OS</i>	ReleaseNotes	<ul style="list-style-type: none"> DB2 インフォメーション・センターの、「製品概要 (Product Overviews)」 > 「インフォメーション・インテグレーション (Information Integration)」 > 「DB2 Information Integrator 概要 (DB2 Information Integrator overview)」 > 「問題とその回避方法、およびドキュメンテーションの更新 (Problems, workarounds, and documentation updates)」 DB2 Information Integrator のインストール・ランチパッド DB2 Information Integrator Support の Web サイト DB2 Information Integrator 製品 CD
<i>Release Notes for IBM DB2 Information Integrator Event Publisher for IMS for z/OS</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Release Notes for IBM DB2 Information Integrator Event Publisher for VSAM for z/OS</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Release Notes for IBM DB2 Information Integrator Classic Federation for z/OS</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Release Notes for Enterprise Search</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト

製品 CD に入っているインストール要件およびリリース情報を表示するには、以下のようにします。

- Windows オペレーティング・システムでは次のように入力します。

```
x:¥doc¥%L
```

ここで、*x* は Windows の CD ドライブ名で、*%L* は使用したい資料のロケール (例えば en_US) です。

- UNIX オペレーティング・システムでは、次のように入力します。

```
/cdrom/doc/%L/
```

ここで、*cdrom* は CD の UNIX マウント・ポイントで、*%L* は使用したい資料のロケール (例えば *en_US*) です。

DB2 Information Integrator の無償提供の同梱製品の資料

この項では、DB2 Information Integrator の同梱製品の資料を一覧で示しています。

IBM WebSphere の資料

IBM WebSphere 製品に関する情報は、www7b.boulder.ibm.com/wsdd/ の WebSphere Developer Domain に掲載されています。

IBM Lotus Extended Search の資料

IBM Lotus Extended Search の詳細は、www.lotus.com/products/des.nsf/wdocuments/resources の Lotus Extended Search のサイトを参照してください。

関連概念:

- 15 ページの『DB2 Information Integrator の無償提供の同梱製品とコンポーネント』

アクセス支援

アクセス支援機能は、身体に障害のある（身体動作が制限されている、視力が弱いなど）ユーザーがソフトウェア製品を十分活用できるように支援します。DB2[®]バージョン 8 製品に備わっている主なアクセス支援機能は、以下のとおりです。

- すべての DB2 機能は、マウスの代わりにキーボードを使ってナビゲーションできます。詳細については、『キーボードによる入力およびナビゲーション』を参照してください。
- DB2 ユーザー・インターフェースのフォント・サイズおよび色をカスタマイズすることができます。詳細については、114 ページの『アクセスしやすい表示』を参照してください。
- DB2 製品は、Java™ Accessibility API を使用するアクセス支援アプリケーションをサポートします。詳細については、114 ページの『支援テクノロジーとの互換性』を参照してください。
- DB2 資料は、アクセスしやすい形式で提供されています。詳細については、114 ページの『アクセスしやすい資料』を参照してください。

キーボードによる入力およびナビゲーション

7 キーボード入力

7 キーボードだけを使用して DB2 ツールを操作できます。マウスを使って実行できる操作は、キーまたはキーの組み合わせによっても実行できます。標準のオペレーティング・システム・キー・ストロークを使用して、標準のオペレーティング・システム操作を実行できます。

7 キーまたはキーの組み合わせによって操作を実行する方法について、詳しくは キーボード・ショートカットおよびアクセラレーター: Common GUI help を参照してください。

7 キーボード・ナビゲーション

7 キーまたはキーの組み合わせを使用して、DB2 ツールのユーザー・インターフェースをナビゲートできます。

7 キーまたはキーの組み合わせによって DB2 ツールをナビゲートする方法の詳細については、キーボード・ショートカットおよびアクセラレーター: Common GUI help を参照してください。

7 キーボード・フォーカス

UNIX[®] オペレーティング・システムでは、アクティブ・ウィンドウの中で、キー・ストロークによって操作できる領域が強調表示されます。

アクセスしやすい表示

DB2 ツールには、視力の弱いユーザー、その他の視力障害をもつユーザーのためにアクセシビリティを向上させる機能が備わっています。これらのアクセシビリティ拡張機能には、フォント・プロパティのカスタマイズを可能にする機能も含まれています。

フォントの設定

「ツール設定」ノートブックを使用して、メニューおよびダイアログ・ウィンドウに使用されるテキストの色、サイズ、およびフォントを選択できます。

フォント設定に関する詳細情報は、メニューおよびテキストのフォントを変更する: [Common GUI help](#) を参照してください。

色に依存しない

本製品のすべての機能を使用するために、ユーザーは必ずしも色を識別する必要はありません。

支援テクノロジーとの互換性

DB2 ツールのインターフェースは、Java Accessibility API をサポートします。これによって、スクリーン・リーダーその他の支援テクノロジーを DB2 製品で利用できるようになります。

アクセスしやすい資料

DB2 形式は、ほとんどの Web ブラウザーで表示可能な XHTML 1.0 形式で提供されています。XHTML により、ご使用のブラウザーに設定されている表示設定に従って資料を表示できます。さらに、スクリーン・リーダーや他の支援テクノロジーを使用することもできます。

シンタックス・ダイアグラムはドット 10 進形式で提供されます。この形式は、スクリーン・リーダーを使用してオンライン・ドキュメンテーションにアクセスする場合にのみ使用できます。

関連概念:

- ・ [インフラストラクチャー・トピック \(DB2 共通ファイル\) の『ドット 10 進シンタックス・ダイアグラム』](#)

関連タスク:

- ・ [『キーボード・ショートカットおよびアクセラレーター: Common GUI help』](#)
- ・ [『メニューおよびテキストのフォントを変更する: Common GUI help』](#)

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アプリケーション開発
ラッパー開発キットのインストール (UNIX) 79
アプリケーション・サーバー
アンインストール 99
インストール 82
除去 99
アンインストール
アプリケーション・サーバー 99
DB2 XML メタデータ・レジストリー 98
インストール
アプリケーション・サーバー 82
インフォメーション・センター 58, 68
サポートされていない DB2 のエディションまたはバージョンがインストール済みの場合 30
DB2 Information Integrator 22
クリーン・インストール 22
サポートされていない DB2 のバージョンまたはエディションがインストール済みの場合 30
DB2 Connect Enterprise Edition と一緒の 20
DB2 バージョン 8.1 フィックスバック 3 以降への 26
DB2 バージョン 8.1.2 がインストール済みの場合 24
DB2 フィックスバック 1 以前がインストールされている場合 28
UNIX 63
DB2 XML メタデータ・レジストリー 81
deployXMR コマンドの構文 86
XML メタデータ・レジストリー 84
インストール要件
DB2 Information Integrator リレーショナル・ラッパー 49
インフォメーション・センター
インストール 58, 68
エディション
DB2 Information Integrator 13

エラー・ロギング
使用可能化 90
XML メタデータ・レジストリー内の 90
オペレーティング・システム
DB2 Information Integrator でサポートされる 41

[カ行]

開発
ラッパー
開発キット 75
環境変数
DB2 Information Integrator 53
キーボード・ショートカット
サポート 113
更新
DB2 インフォメーション・センター 73

[サ行]

作成
ラッパー
開発キット 75
除去
アプリケーション・サーバー 99
資料
DB2 Information Integrator のインストール 19
身体障害 113
製品ライセンス・キー
アンインストール 94
双方向レプリケーション
説明 10
ソフトウェア要件
チェックリスト 47
DB2 Information Integrator 35

[タ行]

対等レプリケーション
説明 10
単一方向レプリケーション
説明 10
チェックリスト
DB2 Information Integrator のインストール 47
データ・ソース 4

データ・ソース (続き)
説明 3
ドライバ
ODBC 57
トラブルシューティング
DB2 Information Integrator ライセンス・キーの登録 89
XML メタデータ・レジストリー内の
エラー・ロギング 90

[ハ行]

ハードウェア要件
チェックリスト 47
DB2 Information Integrator 35
表構造ファイル
サポートされるバージョン 43
非リレーショナル・ラッパー
アンインストール
UNIX 96
Windows 95
インストール
UNIX 63
Windows 54
既存システムへの追加 71
ハードウェアおよびソフトウェア要件 35
BioRS 54
DB2 Information Integrator 7
フィックスバック
DB2 のアップデートの入手 73
フェデレーテッド・サーバー 3
セットアップ 54
説明 2
フェデレーテッド・システム
インストールのチェックリスト 47
概要 1
セットアップ作業の概要 17
フェデレーテッド・データベース
セットアップ 54
説明 4
ブラウザー
XML メタデータ・レジストリーの要件 46
フラット・ファイル
「表構造ファイル」も参照 43
分散データベース管理システム 1

[マ行]

無償提供の同梱製品

DB2 Information Integrator 15, 111

DB2 Net Search Extender 12

メタデータの管理

DB2 Information Integrator 5

メモリー要件

DB2 Information Integrator 47

[ヤ行]

ユーザー定義関数 (UDF)

ライフ・サイエンス 9

KEGG 9

ユーザー補助

機能 113

[ラ行]

ライセンス・キー

アンインストール 94

DB2 Information Integrator に関する登録 (Windows) 89

ライフ・サイエンス・ユーザー定義関数インストール

UNIX 63

概要 9

ラッパー

アンインストール 93

アンインストール (UNIX) 96

アンインストール (Windows) 95

開発キット 75

BioRS 54

ラッパー開発キット

説明 75

DB2 Universal Database でのインストール 77

DB2 Universal Database の上からのインストール 78

UNIX へのインストール 79

リレーショナル・ラッパー

アンインストール (UNIX) 96

アンインストール (Windows) 95

インストール 71

UNIX 63

インストールの前提条件 49

ハードウェアおよびソフトウェア要件 35

DB2 Information Integrator 8

レジストリー

XML メタデータ・レジストリーの説明 12

ロギング

エラー・ロギングの使用可能化 90

[数字]

32 ビット・サポート

DB2 Information Integrator 41

64 ビット・サポート

DB2 Information Integrator 41

B

BLAST

サポートされるバージョン 43

C

CREATE SERVER ステートメント 2

D

DB2 Connect Enterprise Edition
インストール・シナリオ 20

DB2 Enterprise Server Edition

DB2 Information Integrator コンポーネント 6

DB2 Information Integrator

アンインストール 93

インストール

UNIX 63

インストール作業の概要 17

エディション 13

エディションの変更 71

環境変数 53

説明 1

ライセンス・キーの登録 89

DB2 Enterprise Server Edition コンポーネント 6

DB2 XML メタデータ・レジストリーのインストール 81

DB2 Information Integrator のエディション

変更 71

DB2 Information Integrator 非リレーショナル・ラッパー

既存システムへの追加 71

説明 7

DB2 Information Integrator リレーショナル・ラッパー

既存システムへの追加 71

説明 8

DB2 (iSeries 版)

サポートされるバージョン 43

DB2 (Linux、UNIX、および Windows 版)

サポートされるバージョン 43

DB2 Net Search Extender

説明 12

DB2 Universal Database

アップデートの入手 73

アンインストール 93

バージョン 8.1 フィックスバック 3
へのインストール 26

バージョン 8.1.2 へのインストール
24

フィックスバック 1 以前でのインストール
28

ラッパー開発キットのインストール
77, 78

DB2 (VM および VSE 版)

サポートされるバージョン 43

DB2 XML メタデータ・レジストリー
インストール 81

メタデータの管理 5

DB2 (z/OS および OS/390 版)

サポートされるバージョン 43

DB2 インフォメーション・センター
更新 73

deployXMR コマンド

構文 86

Documentum

サポートされるバージョン 43

E

Entrez

サポートされるバージョン 43

Excel ファイル

サポートされるバージョン 43

Extended Search

サポートされるバージョン 43

DB2 Information Integrator の無償提供
の同梱製品 15

G

genclntsh スクリプト

Oracle ラッパーのインストール 66

Oracle ラッパーをインストールする前
の編集 61

H

HMMER データ・ソース

サポートされるバージョン 43

I

IBM Lotus Extended Search

資料 111

DB2 Information Integrator の無償提供
の同梱製品 15

Informix
サポートされるバージョン 43

K

KEGG ユーザー定義関数
インストール
UNIX 63
概要 9

M

Microsoft Excel
「Excel ファイル」を参照 43
Microsoft Internet Explorer
XML メタデータ・レジストリーの要
件 46
Microsoft SQL Server
サポートされるバージョン 43
ラッパーのインストール 62
Microsoft SQL Server Client バージョ
ン 2000 ドライバー 57
Mozilla
XML メタデータ・レジストリーの要
件 46

N

Netscape
要件、XML メタデータ・レジストリ
ーの 46

O

ODBC
サポートされるバージョン 43
ODBC ドライバー
Microsoft SQL Server ソースへのアク
セス (UNIX) 62
OLE DB
サポートされるバージョン 43
Oracle
Oracle genclntsh スクリプトの編集 66
Oracle データ・ソース
Oracle ラッパーをインストールする前
に genclntsh スクリプトを編集する
61

Q

Q レプリケーション
インストール
UNIX 63
説明 10

Q レプリケーション (続き)
双方向レプリケーション
説明 10
対等レプリケーション
説明 10
単一方向レプリケーション
説明 10

S

Sybase
サポートされるバージョン 43

U

undeployXMR コマンド
構文 98

W

Web ツール
インストール 82
Web ブラウザー
XML メタデータ・レジストリーの要
件 46
WebSphere Application Server
無償提供の同梱製品 15
WebSphere Site Developer
資料 111
無償提供の同梱製品 15

X

XML
サポートされるバージョン 43
XML メタデータ・レジストリー
インストール 84
コンピューターからの除去 98
説明 12
undeployXMR コマンドの構文 98

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
J46A/G4
555 Bailey Avenue
San Jose, CA 95141-1003
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケ

ーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生した創作物には、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。© Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

IBM
DB2
DB2 Query Patroller
DB2 Universal Database
DRDA
Informix
QMF
WebSphere

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標および登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT、および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

MMX および Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

IBM と連絡を取る

技術上の問題がある場合は、お客様サポートにご連絡ください。

製品情報

DB2 Information Integrator についての情報は、電話または Web から入手することができます。

米国にお住まいの場合は、以下のいずれかの番号にお問い合わせください。

- 製品の注文または一般情報の入手: 1-800-IBM-CALL (1-800-426-2255)
- 資料の注文: 1-800-879-2755

Web 上で www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/support.html にアクセスします。このサイトには、以下の最新情報が記載されています。

- テクニカル・ライブラリー
- 資料の注文
- クライアント・ダウンロード
- ニュースグループ
- フィックスパック
- ニュース
- Web リソースへのリンク

資料についてのコメント

お客様のフィードバックは IBM が良質な情報を提供する助けになります。この資料や他の DB2 Information Integrator の資料についてのコメントをお送りください。コメントの送付には、以下のいずれかの方法を利用することができます。

- www.ibm.com/software/data/rcf で、オンラインの読者コメント・フォームを使用して送信する。
- E メールで comments@us.ibm.com にコメントを送信する。お送りいただく情報には、製品の名前、製品のバージョン番号、および資料の名前と部品番号 (該当する場合) を含めてください。特定の本文についてコメントする場合は、本文の位置 (たとえば、タイトル、表の番号、またはページ番号) を含めてください。



部品番号: CT317JA

Printed in Japan

GC88-9562-01



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12

(1P) P/N: CT317JA



Spine information:



**IBM DB2 Information
Integrator**

**DB2 Information Integrator
インストール・ガイド**

バージョン 8.2